日南市埋蔵文化財調査報告書第５集

上講遺跡

（かみごういせき）

1995. 3

宮崎県日南市教育委員会

日南市埋蔵文化財調査報告書第５集

『上講遺跡』　正誤表

ページ	誤		正	
序	日南市教育委員長		日南市教育委員会	
Ｐ．７５	所在地	㊦ 880	所在地	㊦ 887

以上のとおり訂正をお願いします。

日南市埋蔵文化財調査報告書第５集

上講遺跡

（かみごういせき）

１９９５．３

宮崎県日南市教育委員会

序

この報告書は、個人住宅のブロック塀建築工事に伴い昭和６３年１１月８日から１０日に実施した宮崎県日南市大字星倉字上講５９６５番地外に所在する上講遺跡の発掘調査報告書です。

今回の発掘調査では、一括資料ではありますが2,000点を超す縄文時代後期の土器をはじめ、弥生時代や古墳時代の土器、近世以降の陶磁器など多量の遺物が出土しており、日南市のこれらの時代を知るうえで貴重な資料を数多く得ることができました。

本書が学術資料だけでなく、社会教育や学校教育の場でも活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助となることを期待します。

なお、調査にあたってご協力いただいた宮崎県教育委員会、地主の倉盛亀一氏、および地元の方々に厚くお礼申し上げます。

平成　７　年　３　月

日南市教育委員長

教育長　野　邊　行　俊

例　　言

1．本書は個人住宅のブロック塀建築工事に伴い宮崎県日南市教育委員会が実施した上講遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は県文化課埋蔵文化財係主任主事永友良典（現、文化課埋蔵文化財第二係主査）の担当で、昭和６３年１１月８日から１０日に実施した。整理作業は平成５年度および６年度に行った。

3．上講遺跡は日南市大字星倉字上講５９６５番地外に所在する。

4．本書に使用した位置図は国土地理院発行の５万分の１の地図をもとに作成し、周辺地形図等については日南市作成の５千分の１をもとに作成した。

5．遺物の整理作業等は宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターで行い、遺物の分類、トレース等については永友良典のほか整理作業員の協力を得た。

6．本書に使用した遺構及び遺物写真は永友が行った。

7．本書の執筆、編集はすべて永友が行った。

8．遺物は日南市教育委員会で保管している。

本　文　目　次

第Ⅰ章　はじめに …… 1
　第１節　調査に至る経緯と経過 …… 1
　第２節　遺跡の環境 …… 1
第Ⅱ章　調査の結果 …… 7
　第１節　調査の概要 …… 7
　第２節　縄文時代の遺物 …… 7
　第３節　弥生時代から古墳時代の遺物 …… 31
　第４節　その他の時代の遺物 …… 34
第Ⅲ章　まとめにかえて …… 35

挿　図　目　次

第１図　上講遺跡の位置 …… 2
第２図　上講遺跡周辺の地形 …… 5
第３図　調査区の範囲及び基本土層図 …… 6
第４図　縄文土器実測図　(1) …… 8
第５図　縄文土器実測図　(2) …… 9
第６図　縄文土器実測図　(3) …… 12
第７図　縄文土器実測図　(4) …… 13
第８図　縄文土器実測図　(5) …… 15
第９図　縄文土器実測図　(6) …… 16
第10図　縄文土器実測図　(7) …… 18
第11図　縄文土器実測図　(8) …… 20
第12図　縄文土器実測図　(9) …… 21
第13図　縄文土器実測図　(10) …… 23
第14図　縄文土器実測図　(11) …… 24
第15図　縄文土器実測図　(12) …… 25
第16図　縄文土器実測図　(13) …… 26
第17図　縄文土器実測図　(14) …… 27
第18図　土器片加工円盤及び石器実測図 …… 30
第19図　弥生土器及び土師器実測図　(1) …… 32
第20図　弥生土器及び土師器実測図　(2) …… 33
第21図　表採資料(縄文土器) …… 35

表　目　次

表１　遺跡地名表 …… 3
表２　縄文土器観察表　(1) …… 37
表３　縄文土器観察表　(2) …… 38
表４　縄文土器観察表　(3) …… 39

表５　縄文土器観察表　(4) …… 40
表６　縄文土器観察表　(5) …… 41
表７　縄文土器観察表　(6) …… 42
表８　縄文土器観察表　(7) …… 43
表９　縄文土器観察表　(8) …… 44
表10　縄文土器観察表　(9) …… 45
表11　縄文土器観察表　(10) …… 46
表12　報告書抄録 …… 75

図　版　目　次

図版１　上講遺跡遠景(南から)／上講遺跡調査地点(西から) …… 47
図版２　調査風景(東から)／調査風景(西から) …… 48
図版３　縄文土器　(1) …… 49
図版４　縄文土器　(2) …… 50
図版５　縄文土器　(3) …… 51
図版６　縄文土器　(4) …… 52
図版７　縄文土器　(5) …… 53
図版８　縄文土器　(6) …… 54
図版９　縄文土器　(7) …… 55
図版10　縄文土器　(8) …… 56
図版11　縄文土器　(9) …… 57
図版12　縄文土器　(10) …… 58
図版13　縄文土器　(11) …… 59
図版14　縄文土器　(12) …… 60
図版15　縄文土器　(13) …… 61
図版16　縄文土器　(14) …… 62
図版17　縄文土器　(15) …… 63
図版18　縄文土器　(16) …… 64
図版19　縄文土器　(17) …… 65
図版20　縄文土器　(18) …… 66
図版21　縄文土器　(19) …… 67
図版22　縄文土器　(20) …… 68
図版23　縄文土器　(21) …… 69
図版24　縄文土器　(22) …… 70
図版25　土器片加工円盤／石器 …… 71
図版26　弥生土器及び土師器　(1) …… 72
図版27　弥生土器及び土師器　(2) …… 73
図版28　弥生土器及び土師器　(3) …… 74

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査に至る経緯と経過

上講遺跡は宮崎県日南市大字星倉字上講に所在する縄文時代から近世の集落遺跡である。

昭和63年11月、大字星倉字上講5065番地の倉盛亀一氏宅のブロック塀建築工事にともない日南市教育委員会が発掘調査を実施した。

倉盛氏宅のブロック塀建築工事は、道路に面した敷地の東側と南側の法面にそれぞれ長さ14ｍ、高さ２ｍと長さ25ｍ、高さ1.6ｍの石積み及びブロック積みの幅1.6ｍの擁壁を構築する工事である。しかし、東側の塀は既に工事が終了し、南側を着工した際に土器片が出土したため急遽発掘調査を実施することとなった。

調査箇所は道路から約１ｍの比高差のある竹垣が繁茂する壁面で、工事では壁面を１ｍ程掘削しブロック塀を建築する計画であった。

発掘調査にあたっては県教育委員会に調査員の派遣を依頼し、県文化課埋蔵文化財係主任主事永友良典の担当で昭和63年11月８日から10日までの３日間実施した。

なお、調査組織は次のとおりである。

調査主体	日南市教育委員会	
	教育長	茨口　政俊
	社会教育課長	潮　　幸右
	文化係長（担当）	日高　匡慶
調査員	県教育委員会文化課主任主事	永友　良典

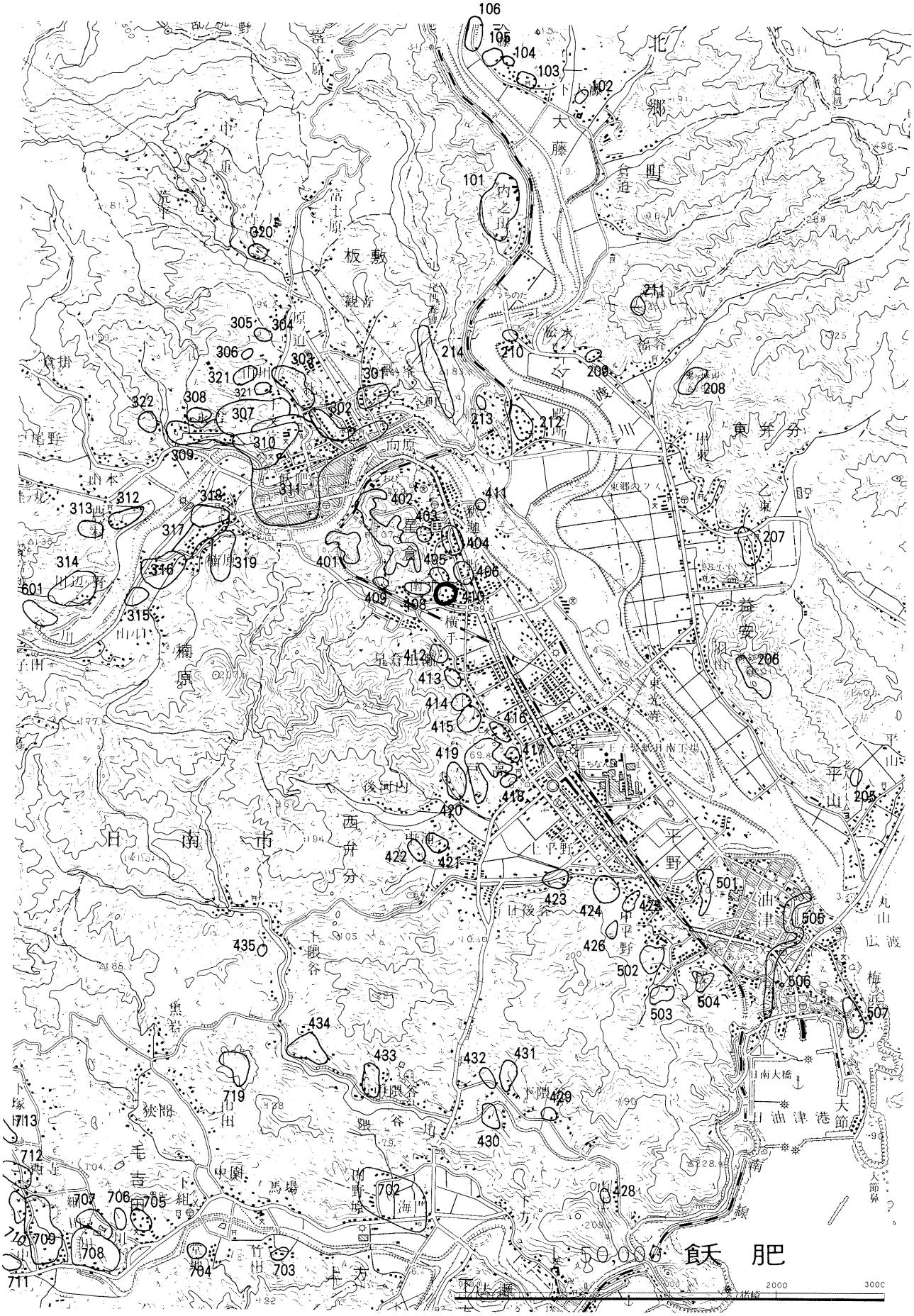
第２節　遺跡の環境

１．地理的環境

上講遺跡の所在する日南市は宮崎県の南部に位置する。東は日向灘に面し、南は南那珂郡南郷町と串間市、西は都城市と北諸県郡三股町、北は宮崎市と接する。市域の大半を山地が占め、海岸線まで山地が迫り岩石海岸を形成している。これらの山々の合間をぬって広渡川、酒谷川、細田川などの河川が東流し、河口付近を中心に狭い平野部を形成している。このうち県南最大河川の広渡川は河口付近で酒谷川と合流し細長い平野を形成している。上講遺跡は広渡川河口から約4.5㎞の酒谷川左岸沿いにそびえる標高約100ｍの新山の南側山麓に位置する。この地点は酒谷川が平野部に流れ込む場所で平野の一番奥にあたりこの奥に飫肥城下町が広がる。新山の南側の裾に平野部の低地より比高差で１～２ｍほど高い標高10ｍ～11ｍの微高地が約200ｍ四方に広がっている。この一帯が上講遺跡で、今回調査した倉盛氏宅は上講遺跡の南側で微高地の南端にあたる。地図上で言えば市役所から北北東に２㎞。国道222号線から南平方面に西側に入ったところで、ＪＲ日南線が南を通る。酒谷川から約600ｍの距離を測る。

２．歴史的環境

日南市の遺跡分布は、地形を反映して山地形の合間をぬって東流する広渡川、酒谷川、細田川などの河川沿いに形成された狭い平野部や隣接する丘陵端に多く分布する傾向が見られる。特に、酒谷川下流域左岸の吾田地区や中流域両岸の飫肥地区や酒谷地区、細田川中流域や南郷川中流域の細田地区に多い傾向がある。



上講遺跡の位置

表１　遺跡地名表

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代
205	駒宮遺跡	日南市大字平山字別府	散布地	弥生～中世
206	高佐砦跡	日南市大字益安字堀之内	城跡	中世
207	前無田遺跡	日南市大字東弁分乙字前無	散布地	中世
208	鬼ケ城跡	日南市大字字城ケ平地	城跡	中世
209	沢渡遺跡	日南市大字松永字沢渡	散布地	中世
210	陣ケ迫遺跡	日南市大字松永字陣ケ迫	散布地	中世
211	犬ケ城跡	日南市大字松永字沢渡	城跡	中世
212	殿所遺跡	日南市大字殿所字上ノ段他	散布地	縄文～中世
213	岩ケ尾遺跡	日南市大字殿所字岩ケ尾	散布地	弥生～古墳
214	中ノ尾砦跡	日南市大字殿所字城ケ平他	城跡	中世
301	飛ケ峯遺跡	日南市大字板敷字出水ケ尾	散布地	古墳～中世
302	談義所遺跡	日南市大字今町字広木田	散布地	縄文～中世
303	糺遺跡	日南市大字板敷字中島田	散布地	平安～中世
304	菖蒲ケ迫遺跡	日南市大字板敷字菖蒲ケ迫	散布地	縄文～中世
305	宮守ケ迫遺跡	日南市大字板敷字宮守ケ迫	散布地	縄文～中世
306	北ケ迫遺跡	日南市大字板敷字北ケ迫	散布地	縄文～中世
307	西山寺遺跡	日南市大字板敷字西山寺	散布地	縄文～中世
308	上永吉遺跡	日南市大字吉野方字楠木原	散布地	中世
309	片平遺跡	日南市大字吉野方字片平	散布地	縄文～中世
310	飫肥城跡	日南市大字楠原字舞鶴跡	城跡	中世～近世
311	飫肥城下町	日南市大字楠原字板敷他	城下町	近世
312	篠ケ城遺跡	日南市大字吉野方字篠ケ城	散布地 城跡	縄文～中世
313	上ノ原遺跡	日南市大字吉野方字上ノ原	散布地	縄文～中世
314	川辺ケ野遺跡	日南市大字吉野方字川辺ケ野	散布地	縄文～中世
315	八幡原遺跡	日南市大字楠原字八幡原	散布地	中世
316	原坂ノ上遺跡	日南市大字楠原字原坂ノ上	散布地	縄文～中世
317	諏訪ノ馬場遺跡	日南市大字楠原字諏訪ノ馬場	散布地	縄文～中世
318	上城跡	日南市大字楠原字上城	城跡	中世
319	大原道遺跡	日南市大字楠原字大原道	散布地	中世
320	寺ノ尾遺跡	日南市大字板敷字寺ノ尾	散布地	弥生～中世
321	長持寺廃寺跡	日南市大字板敷字前田	寺院跡	中世
322	大迫寺廃寺跡	日南市大字吉野方字大迫寺	寺院跡	中世
401	堰ノ尾砦跡	日南市大字星倉字栗殿城	城跡	中世
402	新山城跡	日南市大字星倉字本丸他	城跡	中世
403	釈迦門遺跡	日南市大字星倉字釈迦門	散布地	中世
404	釈迦尾ケ野遺跡	日南市大字星倉字立久保	散布地	古墳～中世
405	前田下遺跡	日南市大字星倉字前田下	散布地	縄文～中世
406	立久保遺跡	日南市大字星倉字立久保	散布地	中世
407	上講遺跡	日南市大字星倉字上講	散布地	縄文～中世
408	射場遺跡	日南市大字星倉字南原	散布地	中世
409	時任遺跡	日南市大字星倉字石ケ嶺	散布地	中世
410	下講古墳	日南市大字星倉字石ケ嶺	古墳	古墳
411	川向遺跡	日南市大字星倉字上汐浦	散布地	中世
412	下山瀬遺跡	日南市大字星倉字下山瀬	散布地	弥生～中世
413	境ケ谷北遺跡	日南市大字戸高字境ケ谷	散布地	中世
414	境ケ谷遺跡	日南市大字戸高字境ケ谷	散布地	弥生～近世
415	境ケ谷南遺跡	日南市大字戸高字境ケ谷	散布地	中世～近世
416	野添遺跡	日南市大字戸高字野添	散布地	縄文～中世
417	和田迫遺跡	日南市大字戸高字和田迫	散布地	弥生～中世
418	横通遺跡	日南市大字戸高字横通	散布地	弥生～中世
419	縣城跡	日南市大字戸高字古城他	城跡	縄文～中世
420	城之下遺跡	日南市大字戸高字城之下他	散布地	弥生～近世
421	中浦ケ迫遺跡	日南市大字戸高字中浦ケ迫	散布地	弥生～中世
422	黒須田遺跡	日南市大字戸高字黒須田	散布地	縄文～中世
423	上尾山遺跡	日南市大字戸高字上尾山	散布地	弥生～中世
424	下尾山遺跡	日南市大字戸高字下尾山	散布地	縄文～近世
425	大谷遺跡	日南市大字戸高字大谷	散布地	中世～近世
426	海田西遺跡	日南市大字戸高字海田西	散布地	弥生～近世
428	岩山遺跡	日南市大字隈谷甲字岩山	散布地	近世
429	平峯遺跡	日南市大字隈谷甲字平峯	散布地	縄文～近世
430	上床遺跡	日南市大字隈谷甲字上床	散布地	縄文～近世
431	峰ノ原遺跡	日南市大字隈谷甲字峰ノ原	散布地	弥生～中世
432	六反田遺跡	日南市大字隈谷甲字六反田	散布地	縄文～中世
433	川北三遺跡	日南市大字隈谷乙字川北三	散布地	縄文～近世
434	川北一遺跡	日南市大字隈谷乙字川北一	散布地	弥生～平安
435	平原遺跡	日南市大字隈谷丙字平原	散布地	縄文～中世
501	影平遺跡	日南市大字平野字影平他	散布地	縄文～中世
502	否手平遺跡	日南市大字平野字否手原他	散布地	弥生～近世
503	山田上遺跡	日南市大字平野字山田上他	散布地	縄文～中世
504	沢津城跡	日南市大字平野字城ケ平他	城跡	中世
505	堀川運河	日南市材木町他	運河	近世
506	油津山上古墳	日南市油津一丁目	古墳	古墳
507	古奥遺跡	日南市大字平野字梅ケ浜	散布地	平安
601	酒谷上床遺跡	日南市大字酒谷乙字上床	散布地	不詳
701	南郷城跡	日南市大字下方字東平他	城跡	中世
702	内野原古墳群	日南市大字下方字仮屋西他	古墳群	古墳
703	竹田遺跡	日南市大字上方字竹田	散布地	弥生～近世
704	柿ノ木平遺跡	日南市大字萩之嶺字柿ノ木平	散布地	縄文～近世
705	石脇遺跡	日南市大字萩之嶺字石脇	散布地	弥生～中世
706	富山堂免遺跡	日南市大字萩之嶺字富山堂免	散布地	縄文～近世
707	馬込ケ原遺跡	日南市大字萩之嶺字馬込ケ原	散布地	縄文～中世
708	宮ノ原遺跡	日南市大字萩之嶺字宮ノ原	散布地	縄文～中世
709	東原遺跡	日南市大字萩之嶺字東原	散布地	縄文～近世
710	上村遺跡	日南市大字萩之嶺字上村	散布地	縄文～近世
711	数権遺跡	日南市大字萩之嶺字数権	散布地	縄文～中世
712	西ノ原遺跡	日南市大字萩之嶺字西ノ原	散布地	弥生～近世
713	東遺跡	日南市大字塚田乙字東	散布地	弥生～近世
101	高寺城跡	北郷町大字大藤字内の田	城館跡	中世
102	田中遺跡	北郷町大字大藤字田中	城館跡	縄文・弥生
103	堀之内遺跡	北郷町大字大藤字堀之内	城館跡	縄文
104	宮園遺跡	北郷町大字大藤字宮園	城館跡	縄文
105	尾崎遺跡	北郷町大字大藤字尾崎	城館跡	縄文
106	山澄遺跡	北郷町大字大藤字山澄	城館跡	不詳

また、海岸線沿いにも若干の遺跡の分布がみられる。これまでの発掘調査の結果や市教育委員会が平成元年度と平成３年度・４年度に実施した市内遺跡詳細分布調査の結果等を参考に各時代の概要を以下に述べることとする。

旧石器時代の遺跡

これまで遺跡は確認されていない。

縄文時代の遺跡

縄文時代の遺跡は現在62か所で確認されている。早期と後期の遺跡が多く分布する。発掘調査は坂ノ上遺跡、前畑遺跡、飫肥城下町遺跡、篠ケ城遺跡、上講遺跡等で行われている。

早期の遺跡としては、細田地区塚田の坂ノ上遺跡(717)で早期の竪穴住居跡12軒、集石遺構19基検出されている。県内では最大級の早期の集落遺跡である。同じ細田地区大窪の前畑遺跡(729)では早期の貝殻円筒土器が出土する層から集石遺構15基、飫肥地区楠原の飫肥城下町遺跡(311)では押型文土器と16基以上の集石遺構が検出されている。また、飫肥地区吉野方の篠ケ城遺跡(312)では早期の貝殻円筒土器や押型文土器の包含層が検出されている。

そのほか諏訪ノ馬場遺跡(317)や菖蒲ケ迫遺跡(304)等で早期の遺物が採集されている。早期の遺跡は段丘上に分布が見られる。

後期の遺跡としては、今回報告の吾田地区星倉の上講遺跡(407)がある。市来式土器を中心に多量の後期の縄文土器や土製円盤、磨石等が出土している。また、飫肥城下町遺跡では磨研土器が出土している。そのほか談議所遺跡(302)や本源寺遺跡(103)等で後期の土器が採集されている。後期の遺跡は段丘上や山裾の平地にその分布が見られる。

その他、縄文土器を多量に採集した遺跡としては殿所遺跡(212)、原坂ノ上遺跡(316)、川北三遺跡(433)などがあげられる。

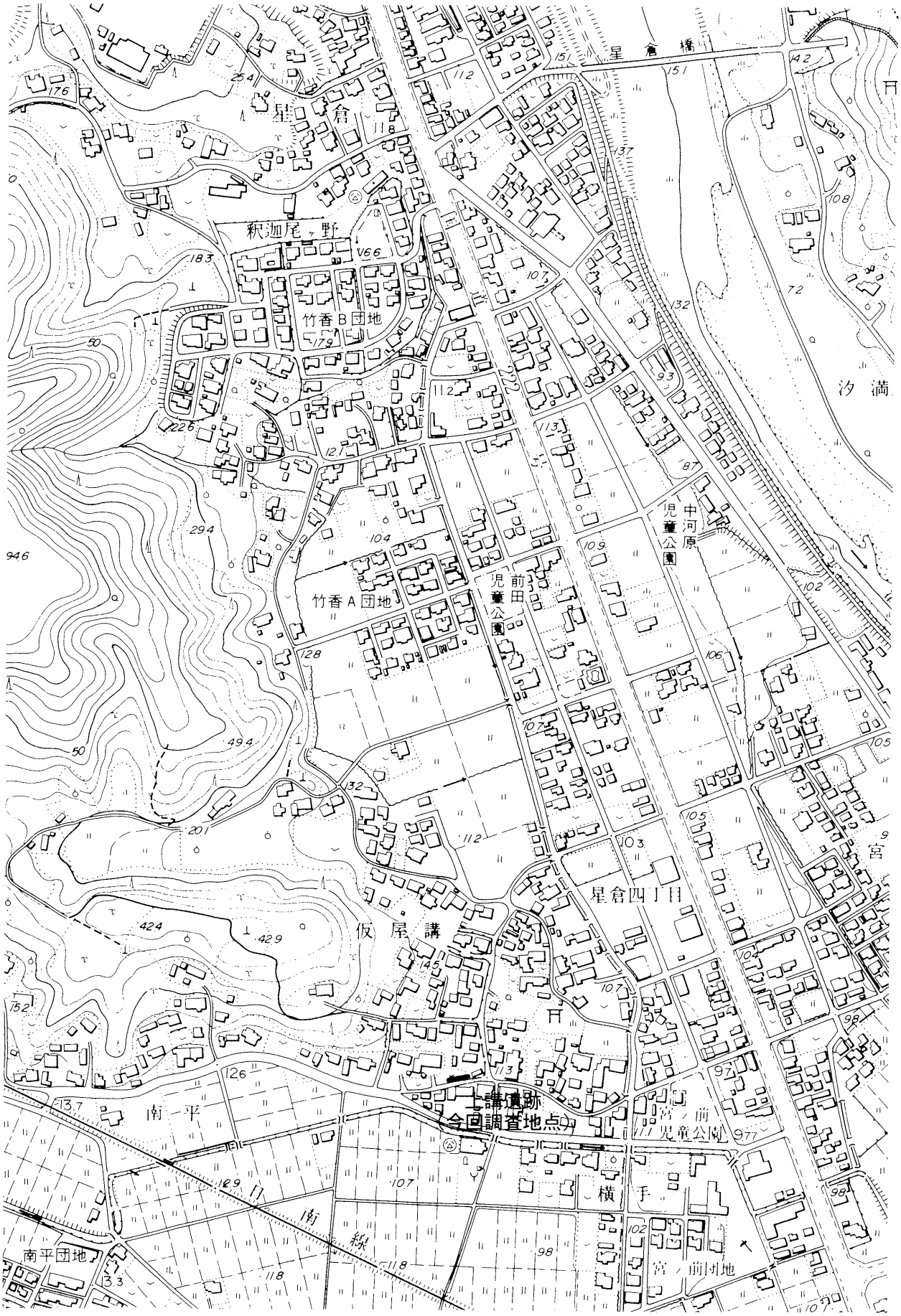
弥生時代の遺跡

弥生時代の遺跡は現在16か所確認されている。発掘調査では飫肥城下町遺跡で土器集積遺構が検出され弥生土器が出土している。また、上講遺跡では弥生時代後期～古墳時代前期の遺物が多く出土している。その他の主な遺跡としては談議所遺跡(302)、原坂ノ上遺跡(316)等があげられるが、確認されている遺跡は段丘上や山裾の平地に限られており低地での遺跡の確認は行われていない。あわせて集落遺跡もまだ確認されていない。

古墳時代の遺跡

古墳時代の遺跡では、市内には６か所の古墳が分布する。油津地区の油津山上古墳(506)、東郷地区風田の東郷古墳(008)、狐塚古墳(203)、吾田地区戸高の懸城内古墳(420)、同星倉の下講古墳(410)、細田地区の細田古墳を含む内野原古墳群(702)である。

油津山上古墳は油津港を見下ろす丘陵上に築かれた古墳で竪穴式石室を有する。日南地方で最古の古墳と考えられる。後期古墳としては風田の海岸に近い砂丘上に立地する狐塚古墳がある。主体部は奥行550㎝、横幅220㎝を測る県内最大の横穴式石室を有する。副葬品のなかには青銅製埦と青銅製鈴も含まれる。一方、日南地方では地下式横穴墓はこれまでに確認されておらず空白地帯となっている。また集落遺跡等の確認もまだない。集落遺跡等も確認されていない。



第2図　上講遺跡周辺の地形

古代の遺跡

奈良時代から平安時代の遺跡は多くは確認されていない。

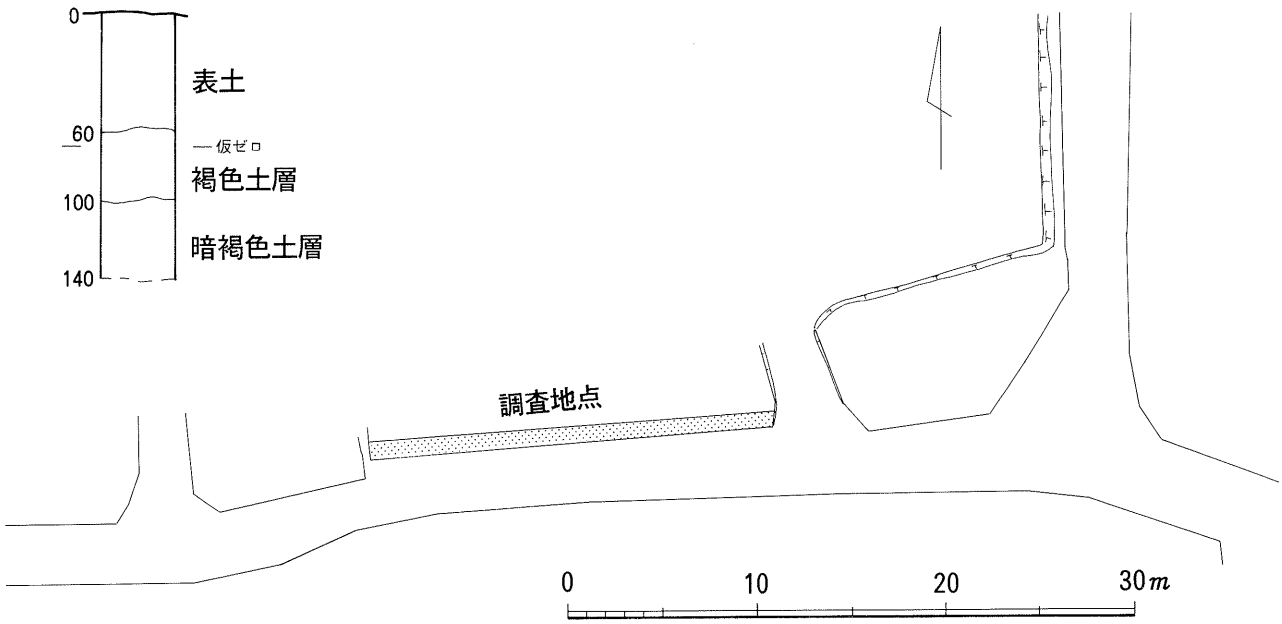
飫肥地区楠原の飫肥城下町遺跡(311)では平安時代の掘立柱建物２、竪穴住居２、土壙墓１などが検出されており平安時代の集落も発掘調査で確認されている。

狐塚古墳(203)では横穴式石室の中から多量の布痕土器が出土しており古墳の横穴式石室を利用した製塩遺構が検出されている。布痕土器を採集した遺跡は16か所にのぼる。

中世～近世の遺跡

鎌倉時代以降の遺跡としては中世山城関係の遺跡が中心となる。現在13か所の山城が確認されており飫肥城跡(310)、酒谷城跡(611)、新山城跡(402)、篠ケ城遺跡(312)などがあげられる。また、飫肥城下町遺跡(311)では数回建て替えされた掘立柱建物や井戸の遺構が検出されている。

近世の遺跡としては現在、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている飫肥城下町遺跡(311)がある。飫肥城と酒谷川に挟まれた城下町で伊東祐入城の天正15(1587)年以降に形成されたと考えられている。方形地割による街区が形成された城下町である。また、近世墓群としては細田地区大窪の前畑遺跡(729)がある。長禅廃寺墓地の推定地で発掘調査で28基の墓壙が検出されている。なお、飫肥地区では長持寺廃寺跡(321)や大迫寺廃寺(322)などの寺院跡も見られる。



第３図　調査区の範囲及び基本土層図

第Ⅱ章　調査の結果

第１節　調査の概要

調査はブロック塀の建築のため掘削される敷地南側の道路に面した法面を幅１ｍ、長さ25ｍの範囲で削り落とす形で行った。現状は高さ１ｍ弱の法面で竹垣が繁茂しており上から段々に掘り下げていった。

竹垣が邪魔して層的な調査が行えず遺物を抜出しながらの調査であった。土層は若干の土色の変化から表土（30～40㎝）、暗褐色（20～30㎝）、明褐色（20～30㎝）程度は確認できたが、遺物の包含層としての確認はできなかった。遺物の出土状況も縄文土器をはじめ弥生土器、土師器、陶磁器の破片が混在しており最終的には遺物の検出に主眼を置いた調査となった。

調査の結果、縄文時代後期土器（市来式土器が中心）を中心に弥生時代から古墳時代の土器、近世陶磁器片が混在した状態で出土した。遺物の出土状況から調査箇所は宅地造成時に土盛りしたものと考えられる。出土した遺物は縄文時代の遺物が土器片約2,300点、土製品５点、石器４点、弥生時代から古墳時代の土器片約100点、近世以降の陶磁器片及び瓦片約100点を数える。

第２節　縄文時代の遺物

１．縄文土器（第４図～第17図）

縄文土器は弥生土器や土師器、陶磁器類と共に約2,300点出土している。遺構や包含層、土器溜まり等は確認されておらず、土器はいずれも土盛り中から出土した一括資料である。器種、部位、器形、文様等を参考に分類した。

(1)　鉢形土器（第４図～第15図）

鉢形土器には口縁部から底部まで残存する完形の土器は出土していない。口縁部の形態及び文様の構成等によってⅠ類～Ⅸ類に分類した。

口縁部

Ⅰ類（第４図１～第10図105）

口縁部を肥厚させ文様帯にする。口縁断面が三角形または「く」字状を呈する。文様帯には貝殻腹縁連続刺突文や竹管状工具による爪形や「Ｄ」字状の連続刺突文や単独の刺突文、沈線文や凹線文が施されている。文様は口縁部の文様帯や胴部の上位に見られる。Ⅰ類の口縁部には波状口縁と平口縁がある。

ａ．1～20 直立あるいは外反気味の口縁部をわずかに肥厚させた幅狭の平坦面を文様帯に持つ。口縁断面が三角形のものも見られる。文様帯には単一の連続刺突文のもの、刺突文や凹線・沈線を比較的簡単に組み合わせたものが見られる。

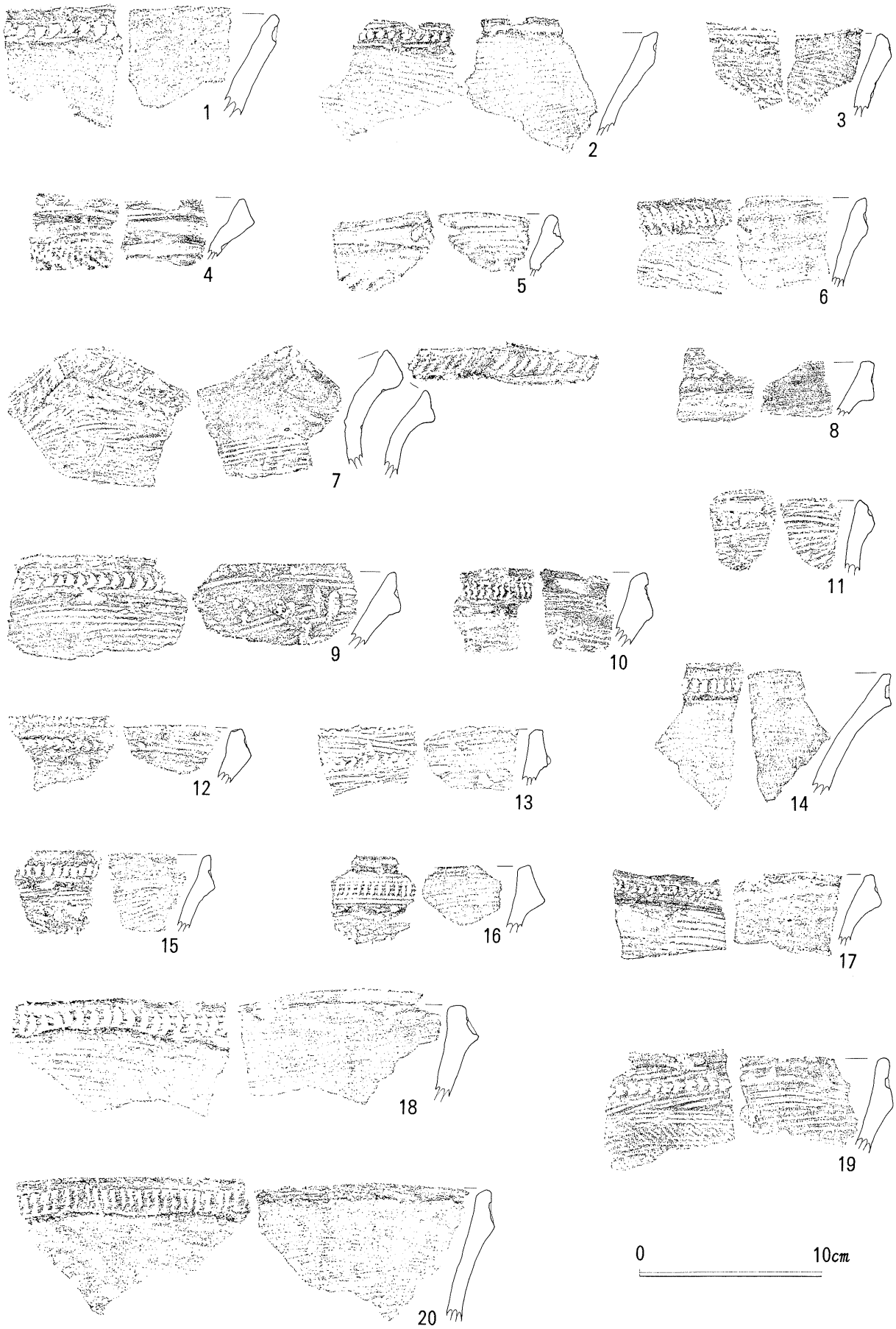
1 口縁部の肥厚はほとんどなく、ヘラ状工具連続刺突文が１条施される。

2 口縁部をわずかに肥厚させ、文様帯に貝殻腹縁連続刺突文が１条施される。

3 口縁部をわずかに肥厚させ、口唇部端に沈線、文様帯に竹管工具連続刺突文が１条施される。

4 口縁断面が三角形で文様帯には施文はなく肥厚部下に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が１条施される。

5 口縁断面が三角形で、文様帯に太めの凹線を施した後に竹管による刺突文が１点見られる。



第４図　縄文土器実測図 (1)

第５図　縄文土器実測図　(2)

6 口縁部を肥厚させ、文様帯に貝殻腹縁連続刺突文が１条施される。

7 山形口縁。口縁断面が三角形で文様帯に貝殻腹縁連続刺突文が１条施される。

8 口縁断面が三角形で文様帯に貝殻による押引文が１条施される。

9 口縁部をわずかに肥厚させ口縁断面が三角形に近い形状を呈する。文様帯に横方向の凹線と貝殻連続刺突文が１条づつ施される。

10 口縁断面が三角形で半載竹管状工具による連続刺突文が１条施される。

11 口縁断面が三角形で、縦方向の貝殻腹縁連続刺突文が１条施される。

12 口縁部を肥厚させ、口縁端部と文様帯の肥厚部に工具による連続刺突文がそれぞれ１条施される。

13 口縁部を肥厚させ、肥厚部のつまみ出し端部に貝殻連続刺突文が１条施される。

14 口縁部を肥厚させ、肥厚部に貝殻腹縁連続刺突文が１条施される。

15 口縁部を肥厚させ、肥厚部にヘラ状工具による連続刺突文が１条施される。

16•17•18 口縁部を肥厚させ、肥厚部に貝殻腹縁連続刺突文が１条施される。

19 口縁部を肥厚させたやや幅のある肥厚部に半載竹管状による連続刺突文が１条施される。

20 口縁部を肥厚させたやや幅のある肥厚部に貝殻腹縁による連続押引文が１条施される。

b．21～38 口縁部の文様帯の幅がａよりやや広く、肥厚部の下部が張り出し気味になる。口縁断面は三角形のものも見られる。文様帯には沈線の間やその上下に貝殻腹縁や竹管状工具による連続刺突文が施される。

21 口縁部を肥厚させ下部がやや張り出す。やや幅のある肥厚部にはヘラ状工具による連続刺突文が１条施される。

22 口縁部を肥厚させ下部がやや張り出す。やや幅のある肥厚ぶには半載竹管状工具による連続刺突文が１条施される。

23 口縁部を肥厚させ下部がやや張り出す。やや幅のある肥厚部には凹線文が１条施され、凹線の上にヘラ状工具による連続押引文が１条、下に貝殻連続刺突文が１条施される。凹線間に刺突文が見られる。

24 口縁部の肥厚はかなり厚く下部がやや張り出す。肥厚部には凹線文が施され、凹線の上下に貝殻連続刺突文が施される。凹線間には刺突文が見られる。

25 山形口縁で一部口縁を欠く。口縁部の肥厚はかなり厚く下部がやや張り出す。肥厚部には凹線文が３条施され、その上下に貝殻腹縁連続刺突文が施される。凹線間には施文はない。

26 口縁部を肥厚させ下部がやや張り出す。やや幅広の肥厚部には凹線文２条施され、それぞれの凹線の下にヘラ状工具による連続刺突文が施される。口唇端部に斜方向の刻み目文、内面口唇部付近に鋸歯状の文様が施されている。

27 口縁部を肥厚させ下部がやや張り出す。やや幅広の肥厚ぶには貝殻腹縁連続刺突文が１条施される。また、文様帯の下部にも貝殻腹縁連続刺突文が１条施される。

28 口縁部を肥厚させ下部がやや張り出す。やや幅広の肥厚部には貝殻腹縁連続刺突文が１条施される。

29 口縁部の肥厚はかなり厚く下部がやや張り出す。やや幅広の肥厚部には凹線文２条施され、凹線間に工具による連続刺突文が施される。

30 口縁部を肥厚させ、やや幅広の肥厚部に貝殻腹縁連続刺突文が１条施される。

31 口縁部を肥厚させ下部がやや張り出す。やや幅広の肥厚部には横方向の貝殻腹縁連続刺突文のあと横方向の沈線と斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が１条施される。

32 口縁部を肥厚させたやや幅広の文様帯に貝殻腹縁連続刺突文が２条、文様帯の下に沈線が１条施される。

33 口縁部を肥厚させたやや幅広の文様帯と文様帯の下に貝殻腹縁連続刺突文が１条づつ施される。

34 口縁部を肥厚させたやや幅広の文様帯の下位と口唇端部に貝殻腹縁連続刺突文が施される。

35 口縁部を肥厚させたやや幅広の文様帯にヘラ状工具による刺突文と凹線文を２条、それぞれの凹線文下に貝殻腹縁連続刺突文が施される。

36 口縁部を欠く。口縁部を肥厚させたやや幅広の文様帯に貝殻腹縁連続刺突文が１条施される。

37 口縁部を欠く。口縁部を肥厚させたやや幅広の文様帯に「Ｄ」字状の連続刺突文が１条施される。

38 口縁部を欠く。口縁部を肥厚させたやや幅広の文様帯にヘラ状工具による横方向の沈線文２条、沈線文間に横方向の貝殻腹縁連続刺突文、沈線文の下にヘラ状工具による斜方向の刺突文が１条施される。

ｃ．39～68 口縁部の文様帯が幅広になる。肥厚部の下部が張り出し、口縁断面が逆「く」字状を呈するものも見られる。39～59は肥厚部の下部が張り出すタイプ。

39 口縁部を肥厚させた幅広の文様帯に横方向に３～４条の貝殻腹縁連続刺突文が施される。

40 口縁部を肥厚させた幅広の文様帯に「ハ」の字状に付された太めの刺突文と斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が１条施される。

41 口縁部を肥厚させた幅広の文様帯を持ち肥厚部は下部が張り出す。文様帯には斜方向の長めに貝殻腹縁連続刺突文が１条施される。

42 外反する口縁部は肥厚させた幅広の文様帯を持ち肥厚部は下部が張り出す。文様帯には斜方向の「Ｄ」字状の連続刺突文が１条施される。

43 外反する口縁部を肥厚させた幅広の文様帯を持ち肥厚部は下部が張り出す。文様帯にはヘラ状工具連続刺突文が１条施される。

44 大きく外反する口縁部は肥厚させた幅広の文様帯を持ち肥厚部は下部が張り出す。文様帯には斜方向の長めの貝殻腹縁連続刺突文が１条施される。

45 口縁部を肥厚させた幅広の文様帯を持ち肥厚部は下部が張り出す。文様帯には斜方向のヘラ状工具による連続刺突文が１条施される。

46 口縁部を肥厚させた幅広の文様帯を持ち肥厚部は下部が張り出す。文様帯には斜方向のヘラ状工具による連続刺突文が１条施される。

47 口縁部を肥厚させた幅広の文様帯を持ち肥厚部は下部が張り出す。文様帯には口縁部端部に貝殻腹縁による連続刺突文と張り出し部にヘラ状工具による連続刺突文が施される。

48 大きく外反する口縁部は肥厚させた幅広の文様帯を持ち肥厚部は下部が張り出す。文様帯には縦方向の長めの２本の貝殻押圧文間に横方向の短い貝殻腹縁刺突斜文を組合わせた文様帯と、貝殻腹縁による２本の刺突文と斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が１条施される。

49 外反する口縁部に肥厚させた幅広の文様帯を持ち肥厚部は下部が張り出す。文様帯には斜方向の長めに貝殻腹縁連続刺突文が１条施される。

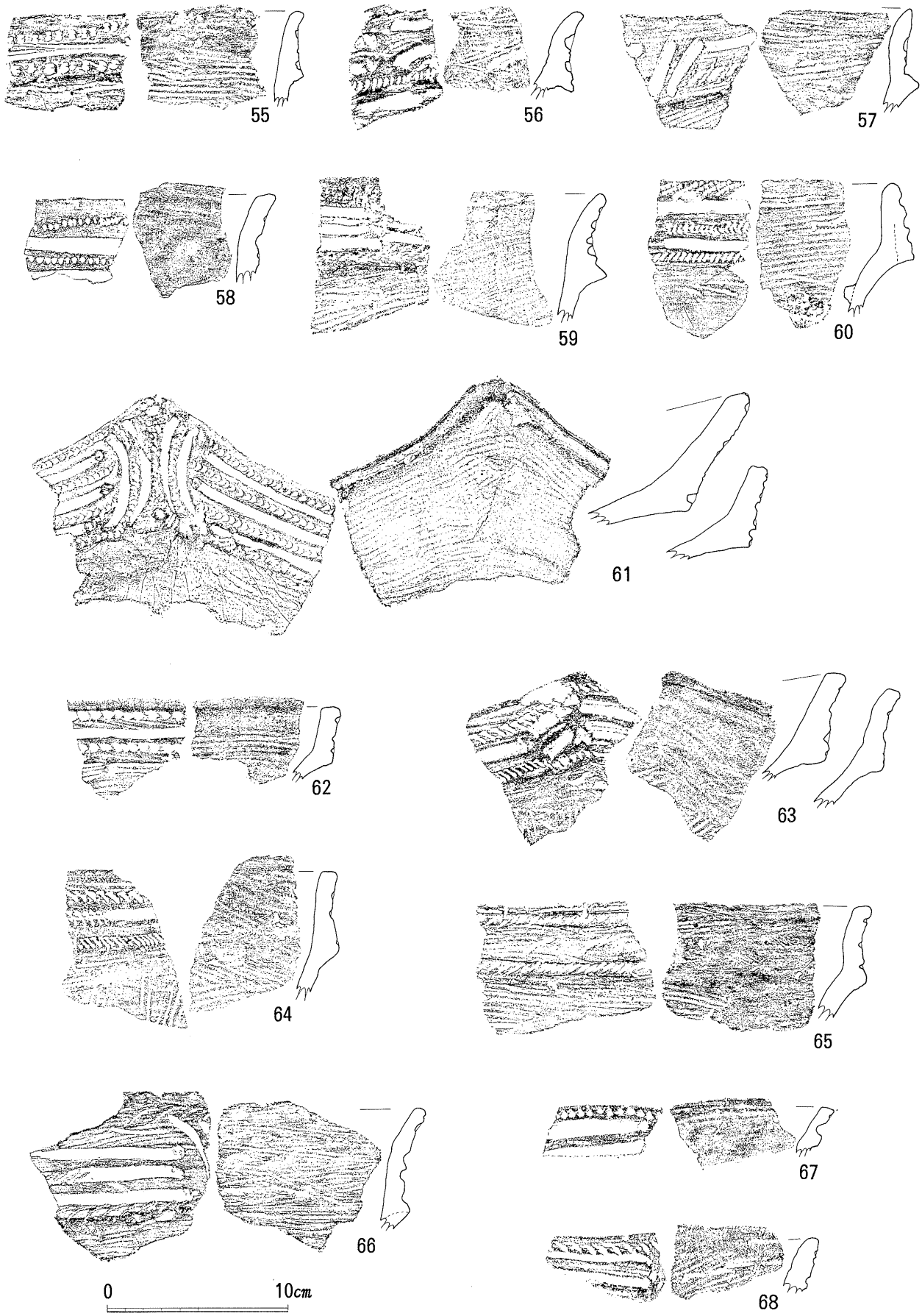
50 わずかに外反させた口縁部に肥厚させた幅広の文様帯を持ち肥厚部は下部がやや張り出す。文様帯には斜方向の長めに貝殻腹縁連続刺突文が１条施される。

51 わずかに外反する口縁部を肥厚させた幅広の文様帯を持ち肥厚部は下部が張り出す。文様帯には半載竹管状の工具による連続刺突文が１条施される。

52 口唇部をわずかに欠く。口縁部を肥厚させた幅広の文様帯を持ち肥厚部は下部が張り出す。文様帯には端部を刺突させたい浅い沈線が横方向に２条施され、その上下に貝殻腹縁連続刺突文が１条施される。

53 口縁部を肥厚させた幅広の文様帯を持ち肥厚部は下部がわずかに張り出す。文様帯には工具による連

第6図　縄文土器実測図 (3)



第７図　縄文土器実測図　(4)

続刺突文と斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が施される。

54 口縁部の上部を欠く。口縁部を肥厚させた幅広の文様帯を持ち肥厚部は下部が張り出す。文様帯には張り出し部端部に縦方向の貝殻腹縁連続刺突文が１条施される。また、文様帯の下にはヘラ状工具による押引きの凹線文が数箇所に見られる。

55 口縁部を肥厚させた幅広の文様帯を持つ。文様帯には浅い凹線の上下に半載竹状の工具による連続刺突文が施される。

56 やや外半気味の口縁部を肥厚させた幅広の文様帯を持ち肥厚部は下部が張り出す。文様帯には２本の横方向の凹線と刺突文の間に横方向の貝殻腹縁連続刺突文、張り出し部端にヘラ状工具による縦方向の連続刺突文が１条施される。

57 外半気味の口縁部を肥厚させた幅広の文様帯を持ち肥厚部は下部が張り出す。文様帯には縦方向と斜方向の凹線文と貝殻腹縁連続刺突文が１条施される。

58 口縁部を肥厚部下位を欠く。外半気味の口縁部を肥厚させた文様帯には横方向の凹線文とヘラ状工具による連続刺突文が施される。

59 大きく外半する口縁部を肥厚させた幅広の文様帯を持ち肥厚部は下部が張り出す。文様帯には３条の凹線文と刺突文、その上位に斜方向の貝殻による押引きと刺突文、その下位に貝殻刺突文が１条づつ施される。

60～68は肥厚部の下部が張り出し、口縁断面が逆「く」字状を呈するタイプ。

60 口縁部の文様帯が幅広になり肥厚部の下部が張り出し口縁断面が逆「く」字状を呈する。文様帯には２条の凹線文、その上位に貝殻腹縁連続刺突文、中間と下位にヘラ状工具による連続刺突文が施される。

61 文様帯が幅広になり肥厚部の下部が張り出し口縁断面が逆「く」字状を呈する。文様帯には横方向に３条の凹線文とその端部に刺突文、縦方向に４条の凹線文、それぞれの凹線間に竹管及び半載竹管による連続刺突文、山形口縁の頂部に刺突文がそれぞれ施されている。

62 文様帯が幅広になり肥厚部の下部が張り出し口縁断面が逆「く」字状を呈する。文様帯には凹線文とその上下に「D」字状の連続刺突文の組合わせによる施文が見られる。

63 文様帯が幅広になり肥厚部の下部が張り出す。文様帯には１条～２条（山形口縁の頂部付近）の凹線文とその上下に貝殻腹縁刺突文、頂部付近に半載竹管文による刺突文が施される。

64 文様帯が幅広になり肥厚部の下部が張り出す。文様帯には３段の文様が有る。上段と下段に貝殻腹縁連続刺突文が施される。中段にも貝殻腹縁刺突文が施されるが途中から凹線文となる。

65 文様帯が幅広になり肥厚部の下部が張り出し口縁断面が逆「く」字状を呈する。文様帯には上下に凹線の後に貝殻腹縁連続刺突文、中間に施文間隔の広い斜方向の長めの貝殻腹縁連続刺突文が施される。

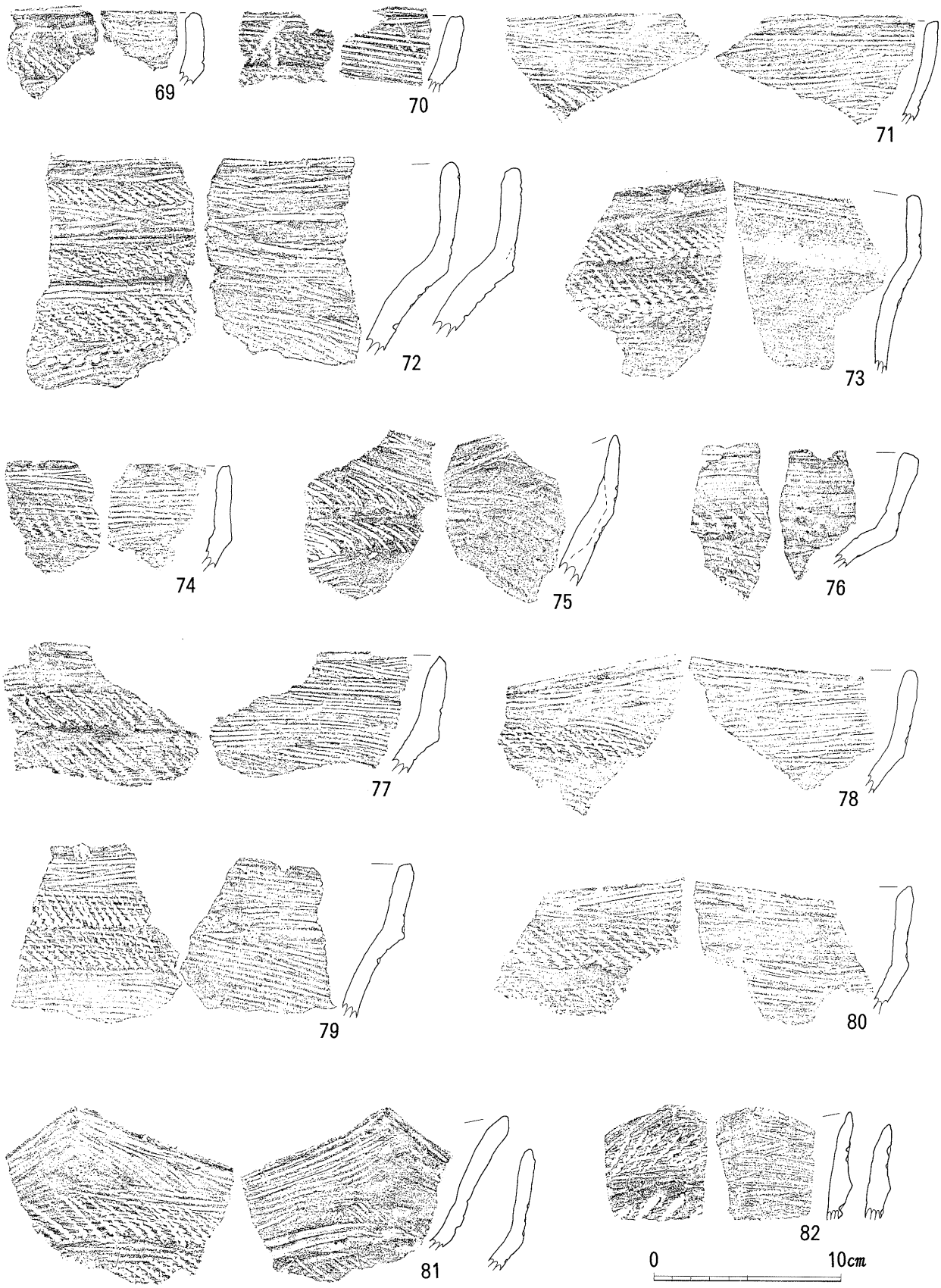
66 口縁部の肥厚部以下を欠くが、文様帯が幅広になり肥厚部の下部が張り出し口縁断面が逆「く」字状を呈する口縁部と思われる。文様帯には横方向の３条の凹線文と縦方向の弧状の凹線文、横方向の凹線文の上に長めの貝殻腹縁連続刺突文と横に細長い刺突文、凹線文の下に短い貝殻腹縁連続刺突文が施される。横の凹線文内にも貝殻腹縁連続刺突文が施される。

67 口縁部の肥厚部以下を欠く。斜方向の貝殻腹縁連続刺突文とその下に２条の凹線文を施す。

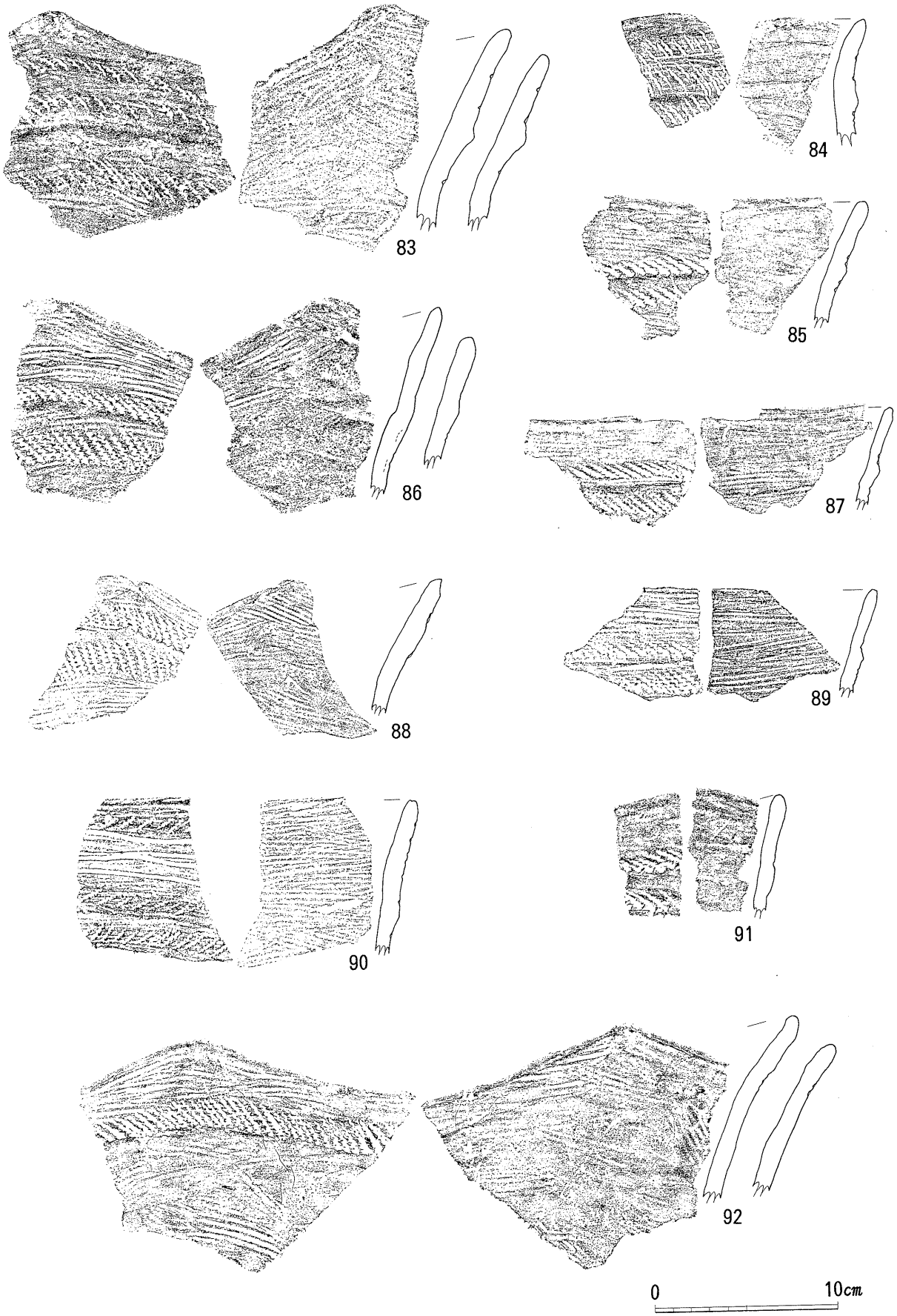
68 口縁部の肥厚部以下を欠く。斜方向の貝殻腹縁連続刺突文とその下に３条の沈線文を施す。

d．69～105 口縁部文様帯下部の肥厚部がなくなり段を持つようになる。口縁断面は逆「く」字状を呈するものも見られるが、屈曲が間延びする。69～92は文様構成が単純なもの。

69 口縁部に屈曲が見られる。屈曲部の上下に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が施される。



第８図　縄文土器実測図 (5)



第９図　縄文土器実測図 (6)

70 口縁部に屈曲が見られる。屈曲部の上下に斜方向の貝殻腹縁刺突文が施される。

71 口縁部の屈曲は余り見られないが屈曲部と思われる部分の上部に貝殻腹縁刺突文が施される。それ以下は欠く。

72 口縁断面は逆「く」字状を呈する。屈曲部の上下に斜方向の貝殻腹縁刺突文が施される。

73 口縁断面は逆「く」字状を呈する。口縁部上部と屈曲部の上下に斜方向の貝殻腹縁刺突文が施される。3段目の貝殻腹縁刺突文の下に竹管状工具による連続刺突文が施される。

74 口縁部に屈曲が見られる。屈曲部の上下に斜方向の貝殻腹縁刺突文が施される。

75 口縁部にゆるやかな屈曲が見られる。屈曲部の上下に斜方向の貝殻腹縁刺突文が施される。

76 口縁断面は逆「く」字状を呈する。屈曲部の上下に斜方向の貝殻腹縁刺突文が施される。

77 口縁部の屈曲はゆるやかである。屈曲部の上下に斜方向の貝殻腹縁刺突文が施される。

78 口縁部に屈曲が見られる。屈曲部の上下に斜方向の貝殻腹縁刺突文が施される。

79 口縁部の屈曲はゆるやかである。屈曲部の上下に斜方向の貝殻腹縁刺突文が施される。

80 口縁部に屈曲が見られる。屈曲部の上下に斜方向の貝殻腹縁刺突文が施される。

81 口縁断面は逆「く」字状を呈する。ただし山形口縁の頂部付近はゆるやかに外傾する。屈曲部の上下に斜方向の貝殻腹縁刺突文が施される。

82 口縁部に屈曲は見られず段を有するようになる。段の上下に斜方向の貝殻腹縁刺突文が施される。

83 口縁部に屈曲は見られず段を有し大きく外傾する。段の上に斜方向の貝殻腹縁刺突文2条、下に1条が施される。

84 口縁部に屈曲は見られずわずかに段を有する。段の上に斜方向の貝殻腹縁刺突文2条、下に1条が施される。

85 口縁部の屈曲はなくわずかに段を有する。段の上下に斜方向の貝殻腹縁刺突文が施される。

86 口縁部はわずかに段を有するのみで段の上下に斜方向の貝殻腹縁刺突文が施される。

87 口縁部はわずかに段を有する。段の上下に斜方向の貝殻腹縁刺突文が施される。

88 口縁部の段も見られないがわずかに厚みを増す。その上下に斜方向の貝殻腹縁刺突文が施される。

89 口縁部にわずかに段を有する。段の上下に斜方向の貝殻腹縁刺突文が施される。

90 口縁部に段を有し屈曲もわずかに見られる。段の上に斜方向の2条の貝殻腹縁刺突文とその間に3～4本の横方向の沈線、段の下に貝殻腹縁連続刺突文が施される。

91 口縁部の段も見られないがわずかに厚みを増す。その上下に斜方向の貝殻腹縁刺突文が施される。

92 口縁部の段もなくなり胴部上位のくびれ部付近から口縁部に向かって外反する口縁部である。山形口縁の頂部は若干内湾する。施文は口縁部付近に1段の貝殻腹縁連続刺突文が施される。

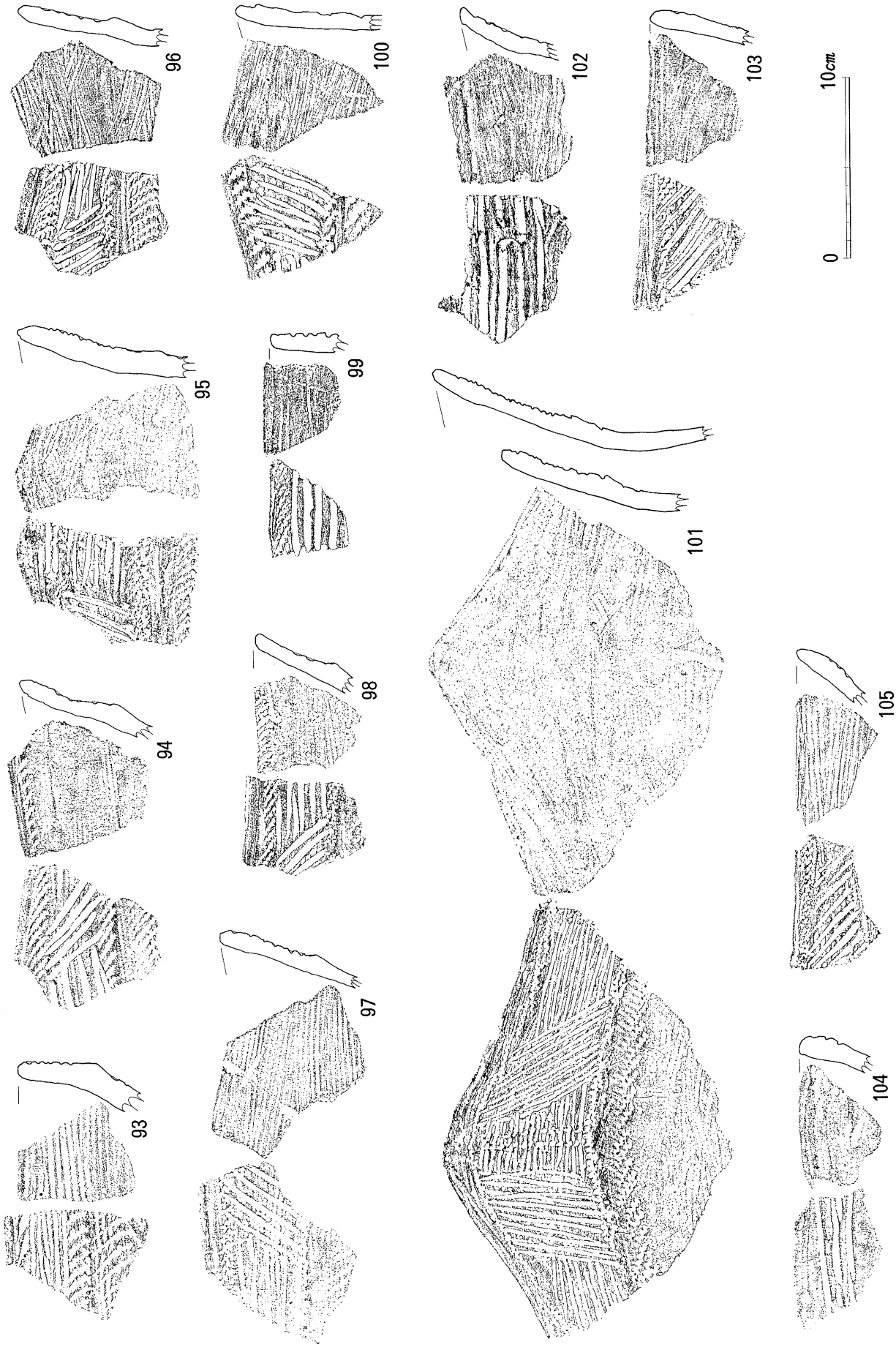
93～105は文様構成が複雑なもの。

93 口縁断面は逆「く」字状を呈する。屈曲部の上段に押引き気味の貝殻腹縁刺突文、5段の沈線文、屈曲部付近に貝殻腹縁刺突文、屈曲部下段に貝殻腹縁刺突文が施される。

94 口縁部はわずかに段を有し外反する。上段に横方向と斜方向の5条沈線文とその上下に貝殻腹縁刺突文、下段に貝殻腹縁刺突文が施される。内面口縁部付近にも貝殻腹縁刺突文がみられる。

95 口縁部はわずかに段を有する。上段に横方向と斜方向の6～4条沈線文とその上下に貝殻腹縁刺突文(上段の貝殻腹縁刺突文に沈線文がかかる)、下段に貝殻腹縁刺突文が施される。上段の沈線文には横沈線の左端、斜沈線の右上にそれぞれ刺突文が見られる。

96 口縁部はわずかに段を有する。上段に横方向と斜方向の6～4条沈線文とその上下に貝殻腹縁刺突文、下段に貝殻腹縁刺突文が施される。



第10図　縄文土器実測図 (7)

97 口縁部はわずかに段を有する。上段に横方向と斜方向の6～4条沈線文とその上下に貝殻腹縁刺突文（上下段とも貝殻腹縁刺突文に沈線文がかかる）、下段に貝殻腹縁刺突文が施される。

98 口縁部はわずかに段を有する。上段に横方向と斜方向の6～4条沈線文とその上下に貝殻腹縁刺突文（上段の貝殻腹縁刺突文には沈線文がかかる）、下段に貝殻腹縁刺突文が施される。内面口縁部付近にも貝殻腹縁刺突文がみられる。

99 口縁部下位を欠く。文様は横方向の4条の沈線文とその上下に貝殻腹縁刺突文が施される。

100 口縁部はわずかに段を有する。上段に横方向と斜方向の6～4条沈線文とその上下に貝殻腹縁刺突文（上下段とも貝殻腹縁刺突文に沈線文がかかる）、下段に貝殻腹縁刺突文が施される。内面口縁部付近にも貝殻腹縁刺突文がみられる。上段の沈線文には横沈線の右端、斜沈線の右上にそれぞれ刺突文が見られる。

101 山形口縁で口縁部はわずかに段を有する（山形口縁の頂部の断面には段はない）。波頂部に2個11段の竹管状工具による刺突文が縦に施され、左右対象に横方向と斜方向の沈線文がそれぞれ10数条とその上下に施される。これらの沈線文の文様帯の上下に2条の横方向の貝殻腹縁刺突文が、さらにその下に斜方向の貝殻腹縁刺突文が施される。

102 口縁部下位を欠く。文様は横方向の4～5条の沈線文が施される。その下位に貝殻腹縁刺突文と思われる施文も見られる。

103 口縁部下位を欠く。斜方向の7条の沈線文の上下に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が施される。貝殻腹縁連続刺突文に沈線文がかかる。

104 口縁部下位を欠く。横方向の3条の沈線文が施される。その下位に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文と思われる施文も見られる。

105 口縁部下位を欠く。斜方向の8～10条の沈線文の上下に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が施される。貝殻腹縁連続刺突文に沈線文がかかる。

Ⅱ類（第10図106～第14図155）

胴部上位のくびれ部付近から口縁部に向かって外傾または外反する。施文はくびれ部付近に1段ないし2段の貝殻腹縁の連続刺突文を施すタイプと、横方向と斜方向の多条の凹線文の組合わせの上下に貝殻腹縁の連続刺突文を施すタイプのものが見られる。

a．106～141 くびれ部から上が比較的長い。くびれ部の上下に貝殻腹縁の単純な連続刺突文が施されている。106～128は外反度は低く外傾気味の口縁。

106・107 口縁部下位を欠く。斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が2条見られる。

108 口縁部にわずかに段が認められるが段より下位有を欠く。斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が1条見られる。

109 口縁部にわずかに段が認められる。段の上下に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が見られる。

110 口縁部下位を欠く。斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が1条見られる。

111 口縁部にわずかに段が認められる。段の上下に貝殻腹縁連続刺突文が1条見られる。

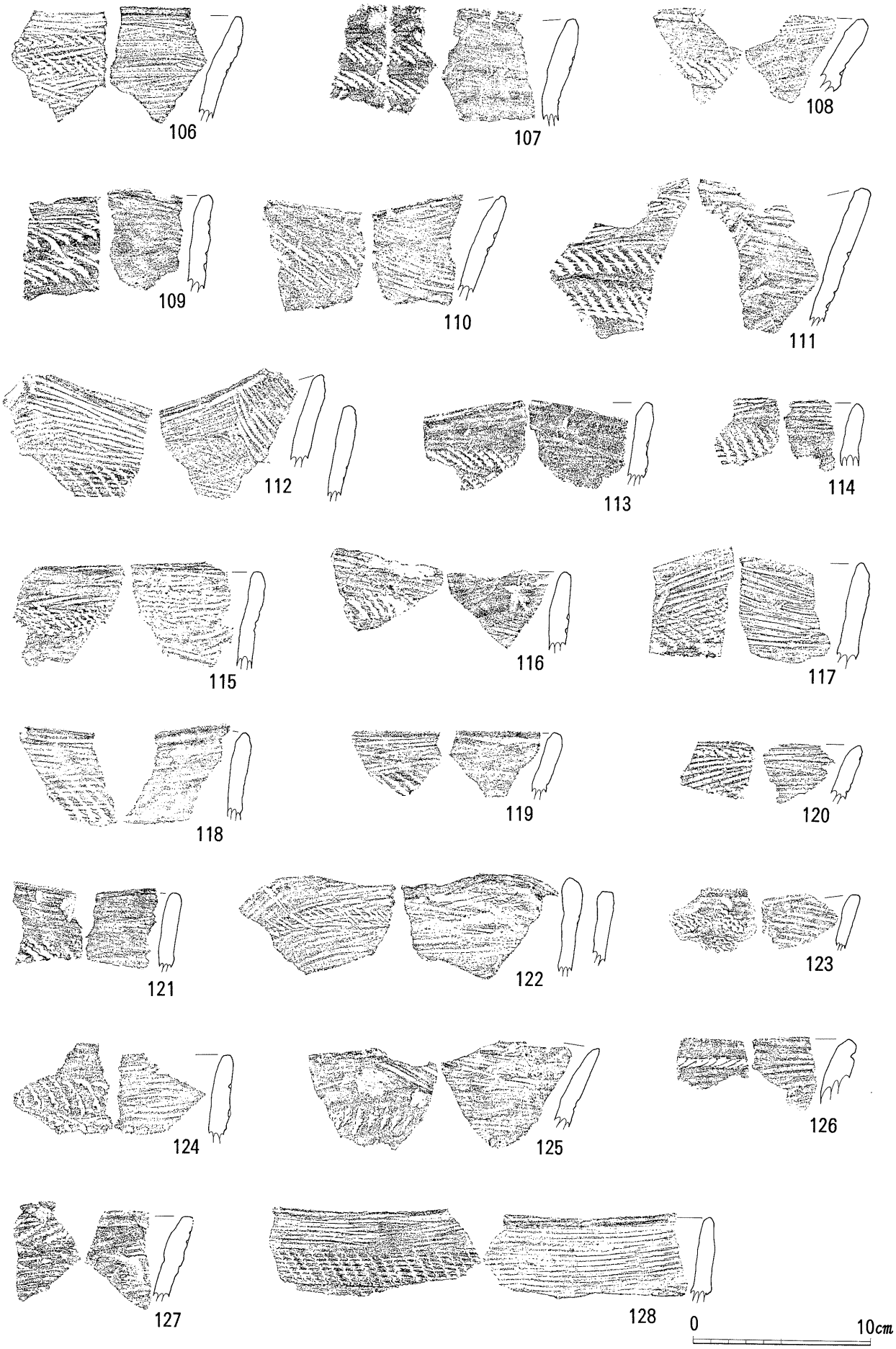
112 山形口縁の波頂部にあたり口縁部下位を欠く。斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が1条見られる。

113 口縁部にわずかに段が認められるが段より下位有を欠く。斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が2条見られる。

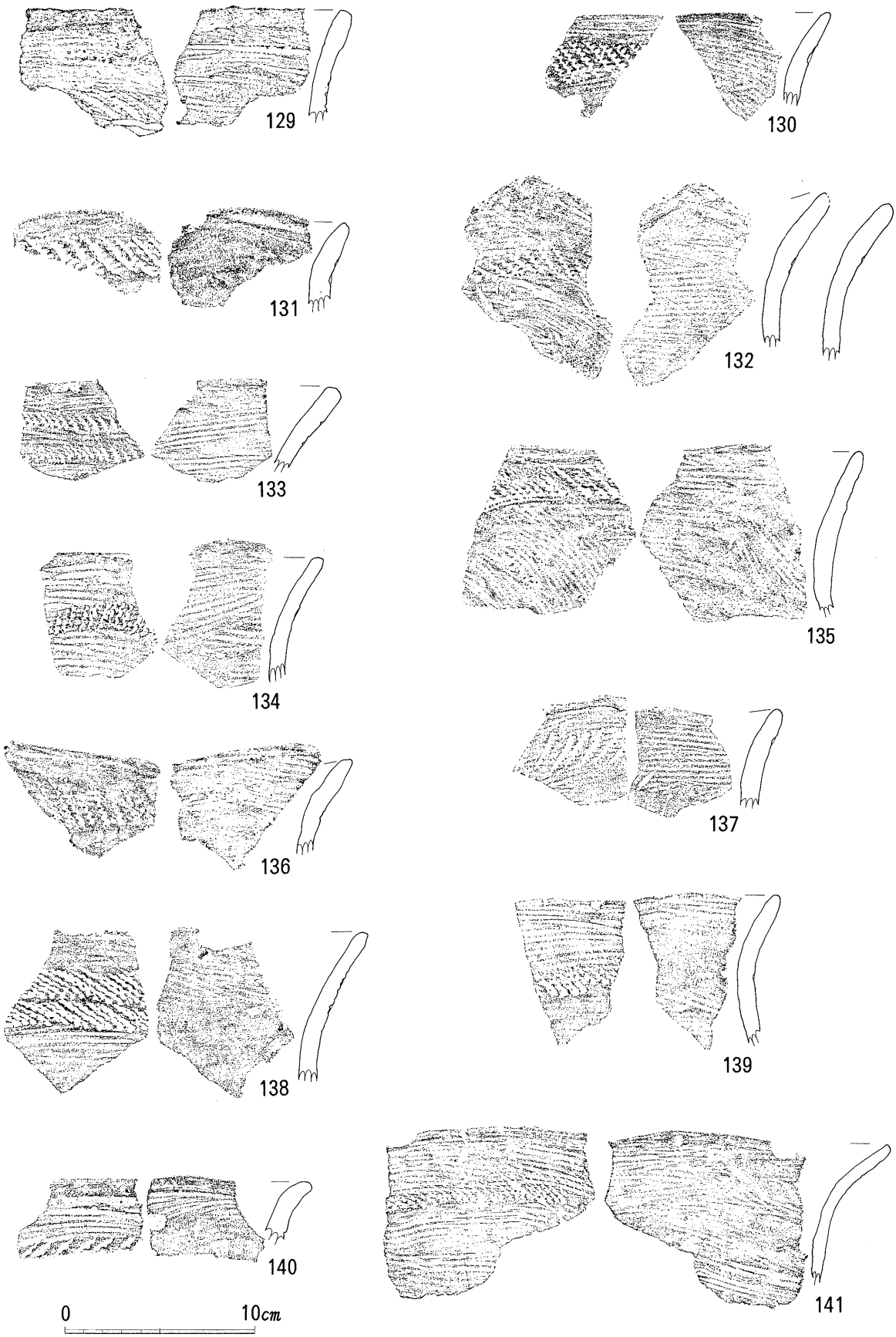
114・115・116・118・119 口縁部下位を欠く。斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が1条見られる。

120 口縁部下位を欠く。斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が口唇部付近とやや下位に1条づつ見られる。

121・122 口縁部下位を欠く。斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が1条見られる。



第11図　縄文土器実測図 (8)

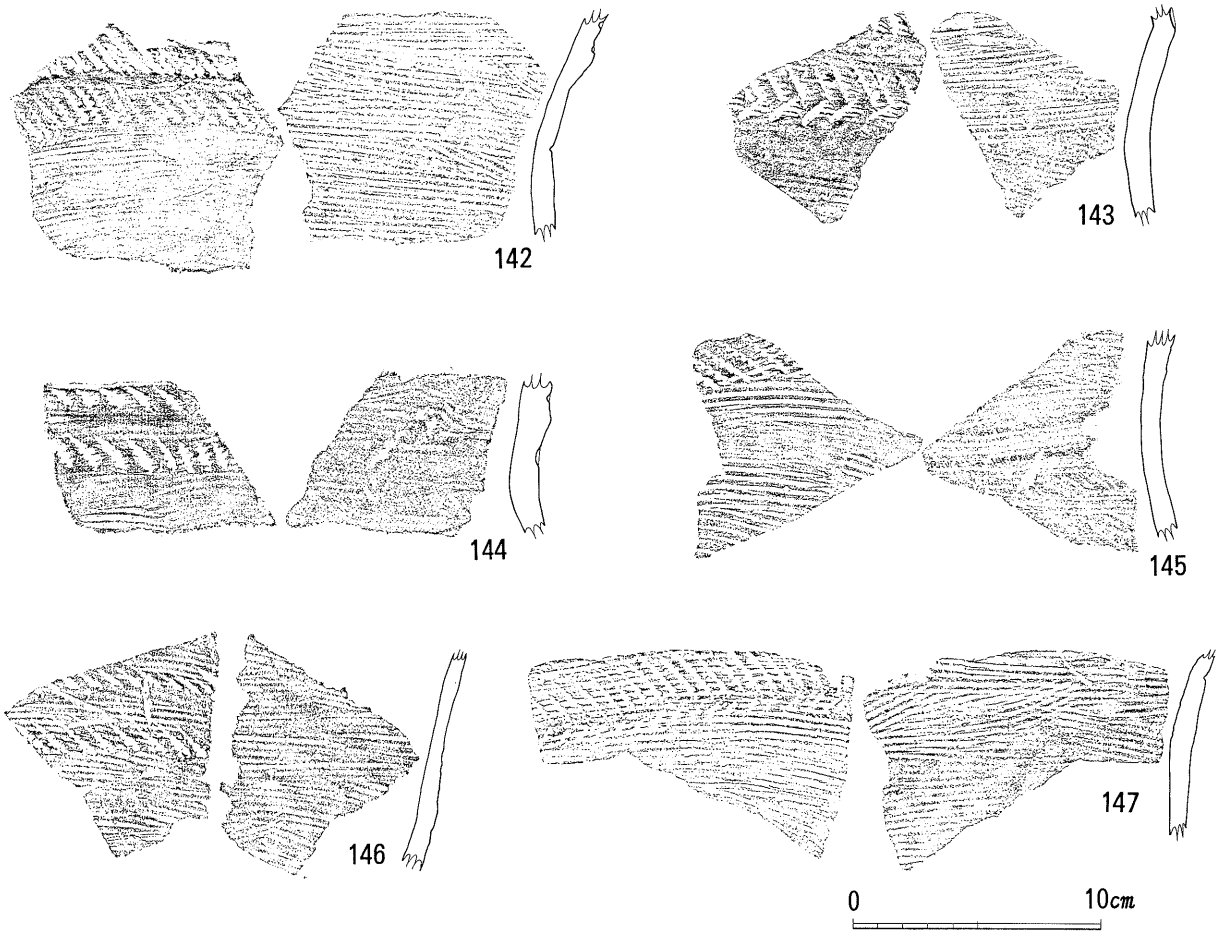


第12図　縄文土器実測図 (9)

123 口縁部下位を欠く。斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が狭い間隔で２条見られる。
124 口縁部下位を欠く。縦方向と斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が狭い間隔で１条づつ見られる。
125 口縁部下位を欠く。斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が１条見られる。
126 口縁部下位を欠く。口縁部上位にヘラ状工具による連続刺突文が１条見られる。
127 口縁部下位を欠く。口縁部上位に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が１条見られる。
128 口縁部にわずかに段が認められるが段より下位有を欠く。斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が１条見られる。
129～141は口縁部が大きく外反する。
129 口縁部は外反する。斜方向の貝殻腹縁連続刺突文とその直下に横方向の貝殻腹縁による刺突文が見られる。
130•131 口縁部は外反する。口縁部上位に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が１条見られる。
132 口縁部は大きく外反する。斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が１条見られる。
133 口縁部は大きく外反する。口縁部上位に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が狭い間隔で２条見られる。
134 口縁部は大きく外反する。口縁部上位に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が１条見られる。
135 口縁部は外反する。口縁部上位に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が１条見られる。
136•137 口縁部は大きく外反する。口縁部上位に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が１条見られる。
138 口縁部は大きく外反する。口縁部上位に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が狭い間隔で２条見られる。
139 口縁部は大きく外反する。口縁部上位に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が１条見られる。
140 口縁部は大きく外反する。口縁部下位を欠くが斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が１条見られる。
141 口縁部は大きく外反する。口縁部上位に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が１条見られる。

b．148～155 くびれ部から上が短く、くびれがほとんどなく強く外反するものも見られる。
142～147はⅡ類ａの胴部片と思われる。
148 大きく外反する口縁部。丸みを持つ口唇部に端部を押圧した凹線文、口縁部端部に貝殻腹縁連続刺突文、その下位に３条の凹線文、凹線間に横方向の貝殻腹縁連続刺突文、凹線文の下位に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文さらにその下位に横方向の貝殻腹縁連続刺突文が施される。
149•150•151•152 丸みのある口縁部は大きく外反する。施文は斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が施される。
153 丸みのある口縁部は大きく外反する。施文は斜方向の間隔のある貝殻腹縁連続刺突文が施される。
154 丸みのある口縁部は大きく外反する。施文は口縁部端部にヘラ状工具による凹線（沈線？）文とその下位に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が施される。
155 丸みのある口縁部は外反する。施文は口唇部に貝殻による左右対象の連続刺突文、ヘラ状工具による浅い凹線の曲線文が見られる。曲線文は凹線の後、押圧（刺突？）される。

胴部
142 口縁部の段がわずかに認められる。段部より上位有を欠く。段部の上下に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が見られる。
143 口縁部の段がわずかに認められる。段部より上位有を欠く。段部の上下に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が見られる。下段の貝殻腹縁連続刺突文は右下がりと左下がりの貝殻腹縁連続刺突文が重なる。
144 口縁部の段がわずかに認められる。段部より上位有を欠く。段部の上下に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が見られる。
145 口縁部段より下位の部分と思われる。貝殻腹縁連続刺突文が１条見られる。



第13図　縄文土器実測図 (10)

146 口縁部段より下位の部分と思われる。貝殻腹縁連続刺突文が2条見られる。

147 口縁部段より下位の部分と思われる。右下がりの長めの貝殻腹縁連続刺突文と左下がりの短めの貝殻腹縁連続刺突文が重なるように施される。

Ⅲ類（第14図156～158・171）

a．156・157・158 貝殻条痕文土器で外面には施文はなく、内面に貝殻連続文が見られる。

156 外反する口縁部の内面端部に短い貝殻腹縁連続刺突文、外面に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が施される。

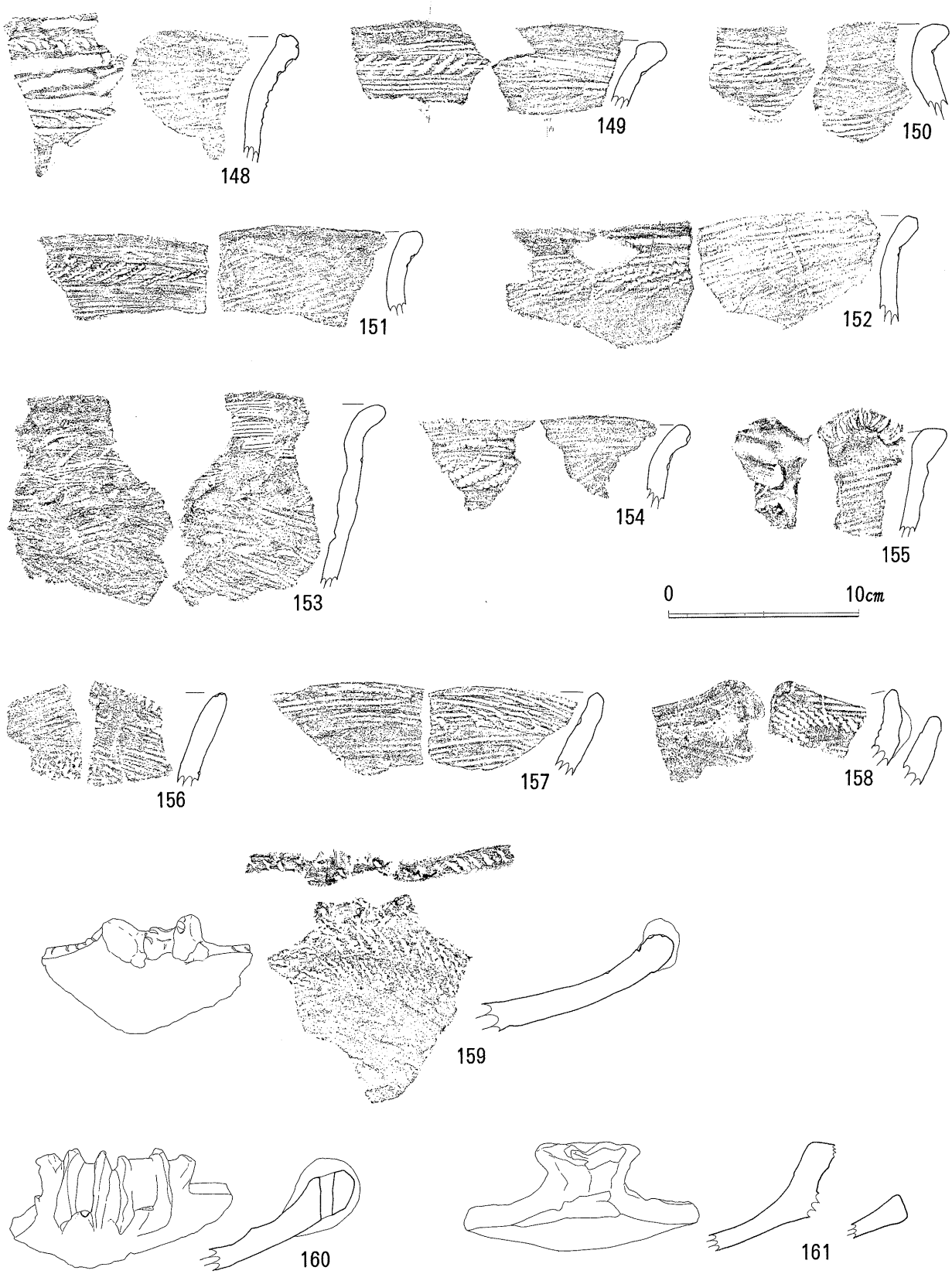
157 内湾気味に外傾する口縁部の内面上部に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が施される。外面には施文はない。

158 山形口縁で外傾する口縁部（波頂部は内湾気味）の内面端部に貝殻腹縁連続刺突文が施される。外面には施文はない。波頂部外面には突起が見られる。

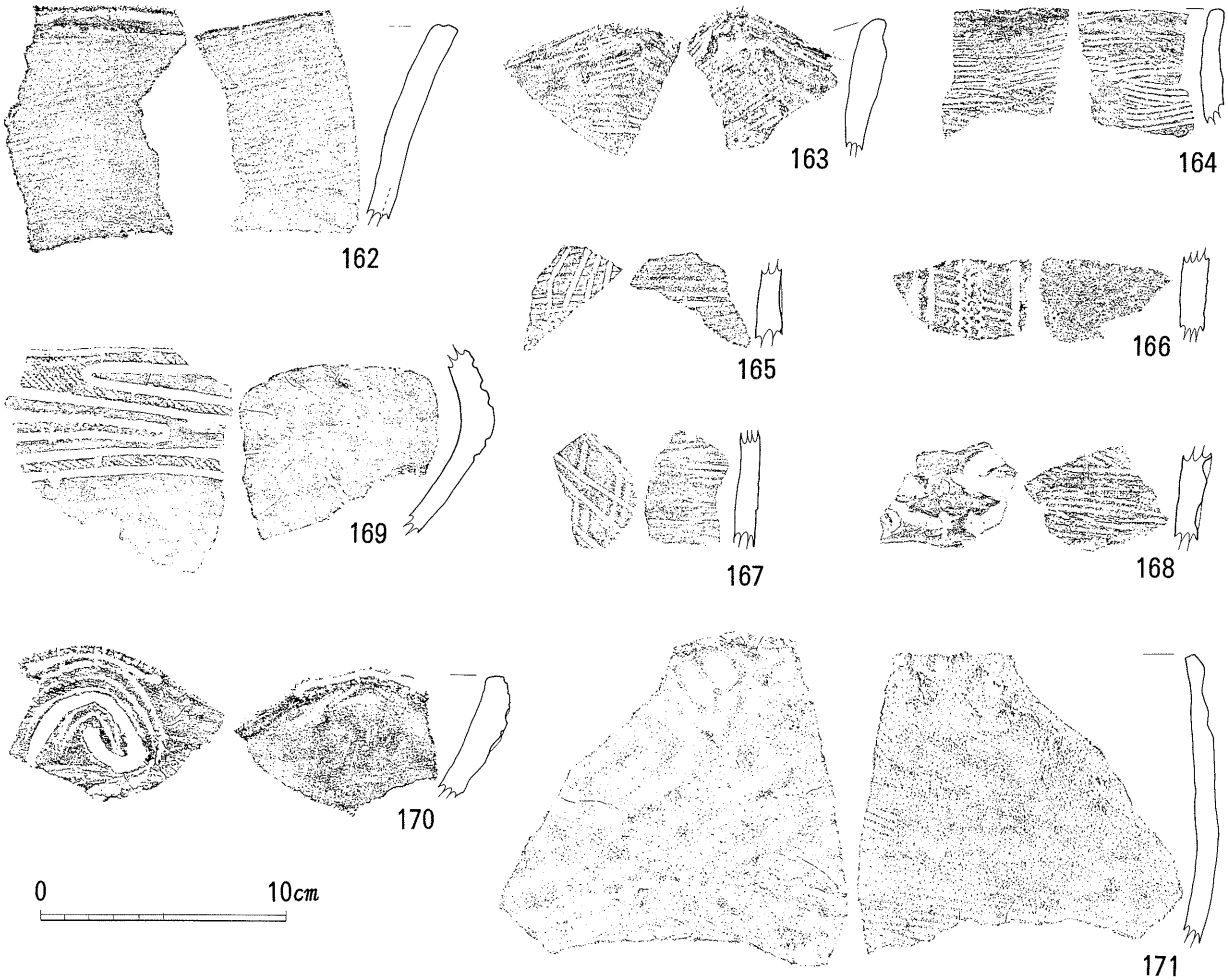
b．171 a類同様無文土器であるが外面にはナデ調整で口縁部付近に指ナデ痕が見られる。

Ⅳ類（第15図162～164）

162・163・164 貝殻条痕文土器で内外面とも施文のない無文の土器である。



第14図　縄文土器実測図 (11)



第15図　縄文土器実測図 (12)

162・163 貝殻条痕調整の後、ナデ調整を行っている。

164 貝殻条痕調整のみ行っている。

Ⅴ類（第15図165・167）

165・167はいずれも胴部の小片である。縦方向ないし横方向と斜方向の沈線が数条施されている。内外面とも貝殻条痕文による調整である。

165 斜方向の沈線文（凹線？）4条と横方向の沈線文（凹線？）2条が見られ、その下に斜方向の貝殻腹縁刺突文が施される。

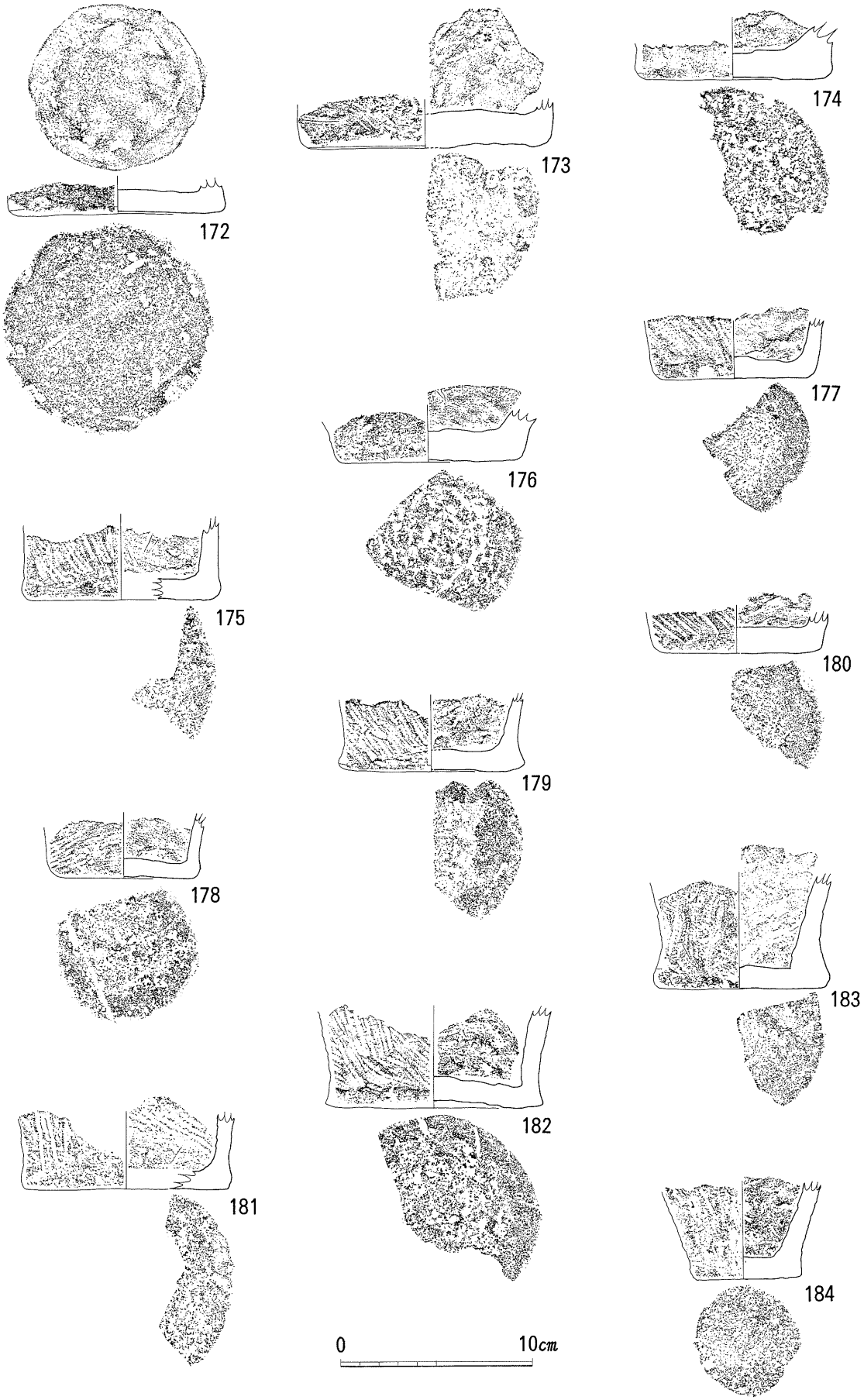
167 右上がりの細沈線文の上に左上がりの細沈線文を数条づつ施す。

Ⅵ類（第15図166）

166 縦の沈線間に縦方向の3条の貝殻腹縁刺突文を施している。

Ⅶ類（第15図168）

168 さまざまな方向のヘラ条工具による押引き文が見られる。



第16図　縄文土器実測図 (13)

第17図　縄文土器実測図 (14)

Ⅷ類（第15図169）

169 2本の沈線間に磨消縄文を施す。内面はヘラ磨きによる調整が見られる。

Ⅸ類（第15図170）

170 渦巻き状の凹線の周囲に縄文が巡るように施されている。施文は口唇部まで及んでいる。

底部（第15図172～184・第17図185～194）

口縁部から底部まで残存する完形の土器は出土していないためどの分類の土器の底部か不明である。底部から胴部への立ち上がりの形態で分類した。底面の仕上げはナデ調整のみである。

Ⅹ類

172～178・194 底部から胴部への立ち上がりが直立気味の底部

172 内外面、底面ともナデ調整。推定底径11.0cmを測る。

173 内面はナデ調整、外面は工具によるナデ調整。底面はナデ調整。推定底径11.7cmを測る。

174 内外面、底面ともナデ調整。底面に白色物が付着する。推定底径10.0cmを測る。

175 内面はナデ調整、外面はヘラ状工具によるナデ調整。底面はナデ調整。推定底径10.2cmを測る。

176 内外面ともナデ調整。底面はナデ調整。底面に白色物が付着する。推定底径9.3cmを測る。

177 内面はナデ調整、外面は貝殻条痕調整。底面はナデ調整。推定底径8.3cmを測る。

193 内面は貝殻条痕とナデ調整、外面は貝殻条痕調整。底面はナデ調整。推定底径12.2cmを測る。

194 内外面、底面ともナデ調整。推定底径7.5cmを測る。

Ⅺ類

178～183 底部から胴部への立ち上がりが開き気味で底面を少しつまみ出す底部

178 内面はナデ調整、外面は貝殻条痕調整の後ナデ調整。底面はナデ調整。底面に白色物が付着する。推底径定7.2cmを測る。

179 内面はナデ調整、外面はヘラ状工具によるナデ調整。底面はナデ調整。推定底径10.2cmを測る。

180 内面はナデ調整、外面は貝殻条痕調整。底面はナデ調整。推定底径8.8cmを測る。

181 内面はナデ調整、外面は貝殻条痕調整。底面はナデ調整。推定底径約10.4cmを測る。

182 内面はナデ調整、外面は貝殻条痕調整。底面はナデ調整。推定底径11.2cmを測る。

183 内外面は貝殻条痕調整。底面はナデ調整。推定底径9.2cmを測る。

Ⅻ類

184～192 底部から胴部への立ち上がりが開く底部

184 内面はナデ調整、外面は工具によるナデ調整。底面はナデ調整。推定底径0.6cmを測る。

185 内面はナデ調整、外面は貝殻条痕調整。底面はナデ調整。推定底径10.0cmを測る。

186 内外面は貝殻条痕調整。底面はナデ調整。底面に白色物が付着する。推定底径8.6cmを測る。

187 内外面は貝殻条痕調整。底面はナデ調整。推定底径約8.5cmを測る。

188 内面はナデ調整、外面は貝殻条痕調整。底面はナデ調整。推定底径約7.6cmを測る。

189 内面はナデ調整、外面は貝殻条痕調整。底面はナデ調整。推定底径7.4cmを測る。

190 内外面は貝殻条痕調整。底面はナデ調整。推定底径8.4cmを測る。

191 内面は貝殻条痕とナデ調整、外面は貝殻条痕調整。底面はナデ調整。推定底径8.3cmを測る。

192 内外面、底面ともナデ調整。推定底径8.0cmを測る。

(2) 脚台付浅鉢（第14図・第17図）

脚台付の浅鉢は鉢部の口縁部片と脚台部片が出土している。

鉢部

XⅢ類（第14図159～161）

159•160•161 粘土紐を口縁部に貼り付けた脚台付浅鉢の鉢部の口縁部。口縁部の傾き具合からかなり浅手の皿状の鉢部の口縁部と思われる。

159 山形口縁で波頂部に粘土紐による突起が見られる。口唇部端と粘土紐による突起部先端に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文、内面口縁部上位に斜方向の貝殻腹縁連続刺突文が近い間隔で2条施される。

160 山形口縁で波頂部に粘土紐による帯状の突出部が2か所有る。この2か所に径5～6㎜の穿孔が内側から外側に開けられている。

161 山形口縁で波頂部に粘土紐によるラッパ状の突出が1か所有る。外面には白色の付着物が見られる。

脚部

XⅣ類（第17図195）

195 3分の1程度が残る脚台付浅鉢の脚部片である。残存部には縦長の長方形の透し状の装飾が2か所に付く。この装飾は穿孔とはならない。裾部に沈線が施されており器面調整は内外面ともナデ調整である。推定底径は11.0cmを測る。

XⅤ類（第17図196）

196 装飾を持たないナデ調整の脚部で「ハ」の字状に開く。推定底径は8.4cmを測る。

2．土器片加工円盤（第18図197～200）

土器片加工円盤も縄文土器同様、弥生土器や土師器、陶磁器類と共に混在した状態で土盛りの中から出土した一括資料である。

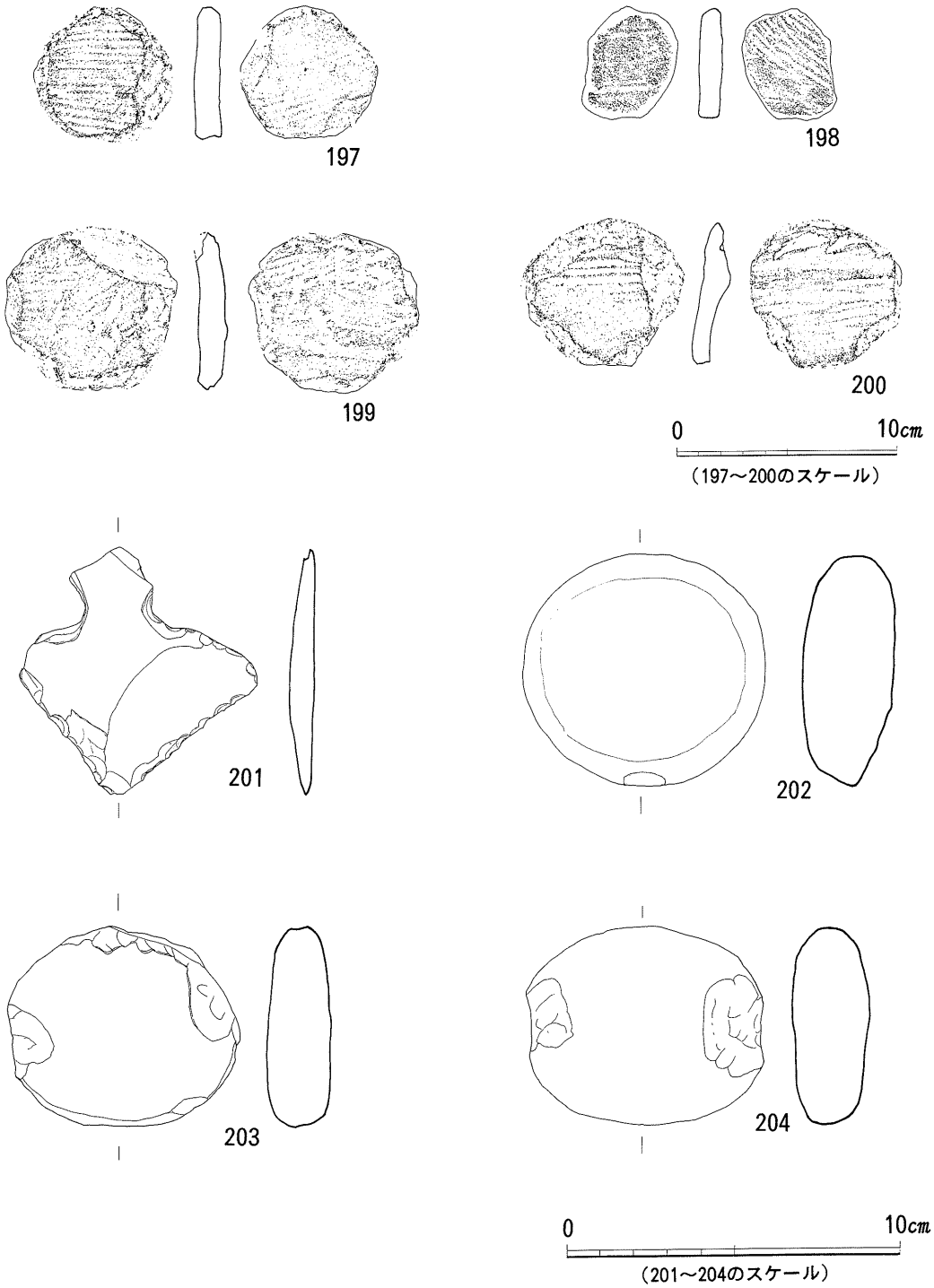
土器の口縁部片や胴部片の縁を加工整形し楕円形や円形の加工円盤を作成している。

197 内外面とも貝殻条痕の後ナデ調整がなされた胴部片を円形に整形した土器片加工円盤。長径6.2cm、短径6.0cmを測る。

198 内外面とも貝殻条痕の後ナデ調整がなされた胴部片を楕円形に整形した土器片加工円盤。長径5.0cm、短径4.2cmを測る。

199 内外面とも貝殻条痕の後ナデ調整がなされた胴部片を円形に整形した土器片加工円盤。長径7.5cm、短径7.2cmを測る。

200 内外面とも貝殻条痕の後ナデ調整がなされた口縁部片を円形に整形した土器片加工円盤。長径7.5cm、短径6.5cmを測る。外反気味の口縁部をわずかに肥厚させた幅狭の平坦面を文様帯に持ち、文様帯には貝殻腹縁連続刺突文が1条施されるⅠ類の土器である。



第18図　土器片加工円盤及び石器実測図

3．石器（第18図）

石器類も縄文土器や土器片加工円盤同様、弥生土器や土師器、陶磁器類と共に混在した状態で土盛り中から出土した一括資料である。スクレイパー１点、磨石１点、石錘２点が出土している。

スクレイパー

201 石材は砂岩で、基部に抉りを持つ石匙状のスクレイパー。三角状に尖った刃部は両面に形成される。長さ7.5㎝、刃部幅8.1㎝、基部幅2.3㎝、厚み0.8㎝を測る。

磨石

202 砂岩を石材とする円形の磨石で、長軸7.2㎝、短軸7.0㎝、厚み2.8㎝を測る。断面の形は楕円形を呈している。

203 砂岩を石材とする楕円形の磨石で、長軸7.0㎝、短軸5.9㎝、厚み1.9㎝を測る。側面も全体的に磨かれている。

石錘

204 砂岩を石材とする楕円形の石錘で、長軸7.2㎝、短軸6.0㎝、厚み2.4㎝を測る。長軸側の両面の両端を欠いて成形した石錘である。

第３節　弥生時代から古墳時代の遺物

1．土器

弥生時代後期から古墳時代前期の土器は縄文土器や陶磁器類と共に約100点が出土している。縄文土器同様、遺構や包含層、土器溜まり等は確認されておらず、土器はいずれも土盛り中から出土した一括資料である。器種、部位、器形等を参考に分類した。

(1) 甕・壺

口縁部～胴部（第19図 205～213）

205～209は口縁部片である。

204は大型の甕形土器の口縁部片。ほぼ平坦で水平な逆「L」字口縁の下に１条の大型の突帯が巡る。突帯の先端部には小さな刻み目が見られる。調整は内外面ともナデ調整が施されており、口縁部端部は内外面とも指押さえの跡が見られる。

206～209は壺形土器の口縁部の破片である。

206は直立気味にやや開く口縁部で、全体をナデ調整している。口縁部の約1／3が残存する。推定口径は約10.7㎝である。

207は推定口径約11.2㎝の逆「ハ」字に外反する口縁部である。内面・外面ともナデ調整が施されている。

208は大きく外反する口縁部で口縁部端外面に櫛描波状文が施されている。内面・外面ともナデ調整が施されている。

290は大きく外反する口縁部の破片で、口唇部に櫛描波状文が施されている。口縁部の約1／6が残存するのみで推定口径は約11.6㎝である。外面はハケ調整、内面はナデ調整が施されている。

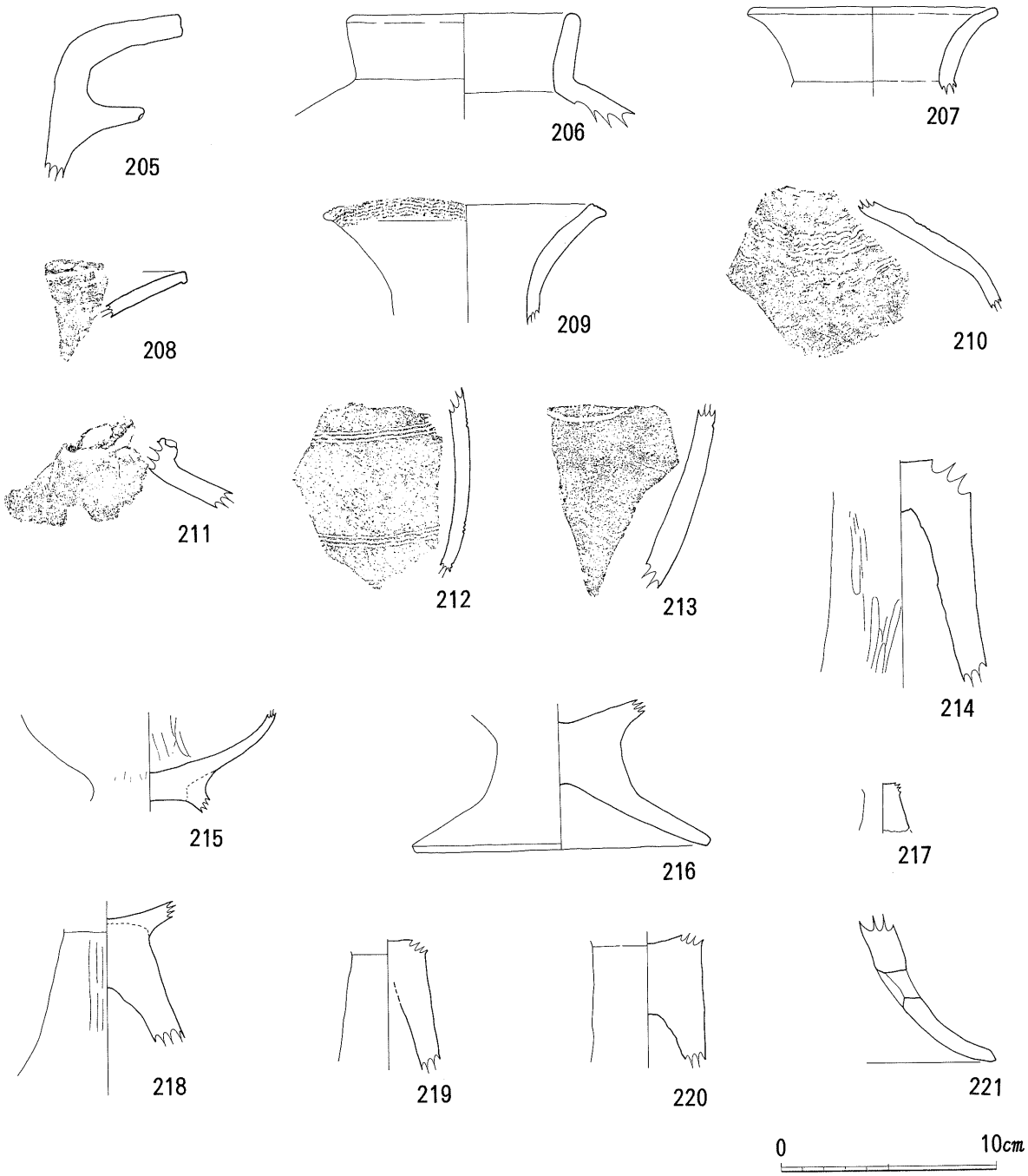
210•211は壺形土器の頸部から肩部にかけての破片で、いずれも肩の張った壺形土器と考えられる。211は肩部に5条を単位とする櫛描波状文が2段に施されている。器面調整は内外面ともナデ調整である。

212は頸部に貼り付けの突帯に刻み目が施されている。器面調整は内外面ともナデ調整である。

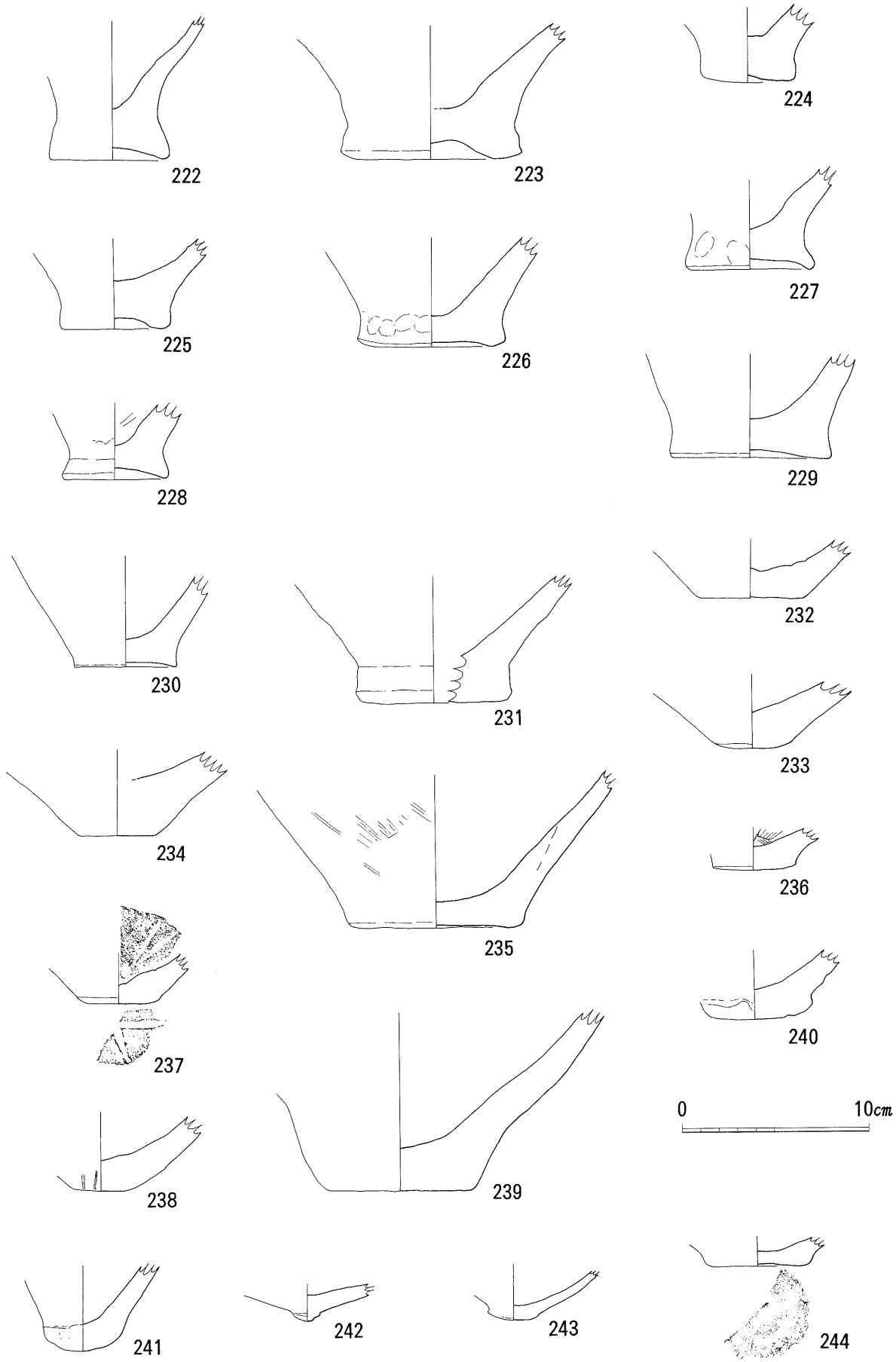
212•213は壺形土器か甕形土器の胴部中央の破片である。

212には3条を単位とする横方向の沈線が上位に1段、下位に2段施されている。器面調整は内外面ともナデ調整である。

213には胴部上位に弧状になると思われる若干太めの沈線が1条施されている。器面調整は外面がナデ調整、内面が工具によるナデ調整の痕跡が見られる。



第19図　弥生土器及び土師器実測図 (1)



第20図　弥生土器及び土師器実測図 (2)

底部（第20図 224～243）

a．底部を外方につまみ出すあげ底（222～231）

b．平底（232,234～237,239）

c．丸底気味の平底（233,238,240,241）

d．尖り気味の丸底を呈し、底面を少しつまみ出す底部（242,243）

主な底部の器面調整は次のとおりである。

226は外面に指押さえの痕跡が見られる。

227は外面と底面に指押さえの痕跡が見られる。

228は内面にヘラ状工具によるナデ調整が見られる。

235は外面にハケ目調整が見られる。

236は内面にハケ目調整が見られる。

237は底面に「＋」字のヘラ記号（？）が見られる。内面はハケ目調整が見られる。

238は外面に一部ヘラ状工具によるタテ方向の痕跡が見られる。

その他は底部は内外面、底面ともナデ調整がほとんどである。

(2) 高坏（第19図 214～221）

215は坏部下位～脚部上位の破片である。埦状の坏部に「ハ」字に開く脚部が付く高坏と思われる。坏部と脚部の境には粘土の継ぎ目が見られる。坏部・脚部とも外面はタテ方向のミガキで調整されている。また、坏部内面にもミガキ調整の痕跡が見られる。脚部内面はナデ調整が施されている。

216は坏部下位から脚部～裾部までの破片である。坏部は脚部との接合部しか残存しておらず全体の形状は不明であるが腕状の坏部と思われる。脚部は裾部まで大きく開く「ハ」字状を呈する。坏部・脚部の外面および坏部の内面の調整は風化のため不明であるが、坏部内面でタテ～ヨコ方向のミガキ調整の痕跡がうかがわれる。裾部の残部が約３分の１で推定裾部径13.8cmを測る。

214•217～220は脚部の破片である。

214•219•220は円柱状の脚部である。

214では脚部外面にタテ方向のミガキ調整が認められる。

219•220の器面調整は全体にナデ調整が見られる。

218は脚部から裾部に向かって緩やかに「ハ」の字に開くタイプの脚部と思われる。坏部と脚部の境に粘土の継ぎ目が見られる。坏部・脚部とも外面はタテ方向のミガキで調整されている。脚部内面および坏部内面はナデ調整である。

217は残存部の高さが約２cm、最大径が約２cmと非常に小型の破片であるが形状からミニチュアの高坏の脚部と思われる。器面調整は脚部外面および坏部内面ともナデ調整である。

221は「ハ」字に大きく開く脚部の裾部の破片で穿孔が１か所見られる。内外面ともナデ調整が施されている。

第４節　その他の時代の遺物（第20図 244）

上講遺跡では縄文時代、弥生時代から古墳時代の遺物に混じって近世以降の陶磁器片や瓦片などが100点ほど出土している。これらの遺物の中に１点のみ中世の糸切り底の土師器の皿も１点（244）含まれていた。今回の報告では紙面の関係で近世以降の遺物の記載は省かせていただく。

第Ⅲ章　まとめにかえて

縄文時代

今回の調査で最も多く土器を出土した時代である。その中でも中心は後期の時期に限定される。約2300点出土した縄文土器のうち大半はいわゆる「市来式」土器である。土器分類のⅠ類の土器群にあたる。全体の縄文土器の出土量の７割近くを占める。次に出土量の多い土器群はⅡ類の土器群でいわゆる「草野式」土器を含む１群である。Ⅰ類とⅡ類で全体の縄文土器の出土量の９割近くを占める。

表面採集の資料として胎土に金雲母を多量に含む貝殻条痕土器がある。（第21図）

内面を貝殻条痕の後ナデ調整、口唇部から外面にかけて丁寧なナデ調整が施されている。施文は口縁部上位に横方向の沈線文、その上に斜方向の貝殻連続刺突文、下位にやや立ち気味に施された斜方向の貝殻連続刺突文が見られる。

その他の土器としては磨消縄文系の土器（Ⅷ類・Ⅸ類）も見られる。

底部はすべてナデなどの底部で、網代底や木の葉底は見られない。また、白色物が底面に付着している底部も数点見られる。

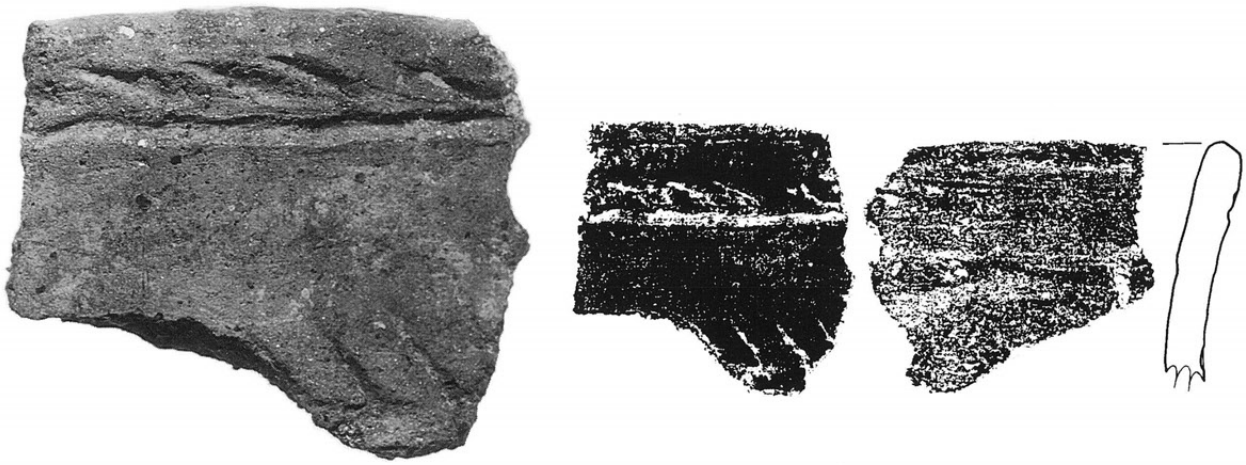
土器加工品は土器加工円盤がわずかに見られる。いずれも打ち欠いて整形するタイプである。しかし、土器片錘等は出土していない。

石器類では石匙状のスクレイパー、磨石、石錘がわずかに見られるだけで、石斧、石皿、石鏃等の主要な石器類は出土していない。

弥生時代及び古墳時代

この時期の土器は100点近くが出土している。図化可能な土器の比率は底部が多い。

205の甕の口縁部と底部ａ類が弥生時代後期、その他の土器群が弥生時代終末から古墳時代初頭の時期にあたる。



第21図　表採資料（縄文土器）　実測図は½

今回の調査では2000点を越える縄文土器をはじめ、弥生土器と古墳時代の土師器、近世～近代の陶磁器片などが出土した。しかし、その出土状況は、調査地点が宅地造成時の土盛りの場所であり、さまざまな土器が混在した状態で出土している。もちろん遺構等も検出されていない。そのため、今回の調査結果はまとめ難いが、今回の調査地点が上講遺跡の南端にあたることから、現在宅地化されている新山の南側山裾一帯に「市来式」土器の時期が主体となる縄文時代後期を中心に、弥生時代後期～古墳時代前期及び近世～近代の遺跡が分布していると思われる。事実、平成元年に日南市教育委員会が実施した遺跡詳細分布調査でも、縄文土器、弥生土器、土師器等が表面採集されている。また、地形的から見て、上講遺跡の東から南にひろがる広渡川沿いの低地帯には、弥生時代後期から古墳時代前期の水田址の可能性も考えられる。

参考文献 (1) 日南市埋蔵文化財調査報告書第１集「日南市遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ」
1990年　日南市教育委員会
(2) 日南市埋蔵文化財調査報告書第２集「日南市遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ」
1993年　日南市教育委員会
(3) 田野町文化財調査報告書第11集「丸野第２遺跡」
1990年　田野町教育委員会

表2～11. 縄文土器観察表

図面番号	分類	器部	調整			文様		胎土	色調		焼成	備考
			表	裏	底面	表	裏		表	裏		
1		口縁部	ナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ		工具連続刺突		～0.5mm黒く光る砂粒、透明に光る砂粒	にぶい橙	灰褐 褐灰	良	
2		口縁部	ナデ 貝条	貝条		貝腹連続刺突		～0.5mm黒く光る砂粒	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良	
3		口縁部	貝条→ナデ	貝条→ナデ		沈線 竹管連続刺突 貝腹連続刺突		～2.0mmガラス状に光る砂粒	にぶい赤褐	赤黒	良	
4		口縁部	ヨコナデ 貝条	貝条→ヨコナデ		貝腹刺突		～2.0mm茶色、白色透明に光る砂粒	黒褐	褐灰	良	
5		口縁部	貝条→ナデ	貝条		凹線、竹管刺突 連続貝刺突		～1.0mm無色透明に光る細砂粒	暗赤褐	明赤褐	良	
6		口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ		貝腹刺突		微～1.0mm無色透明に光る白色砂粒	にぶい赤褐 ～橙	橙	良	
7		口縁部 (山形)	貝条→ヨコナデ	ナデ 貝条		貝腹刺突		～1.0mm白色透明に光る砂粒	橙	橙	良	
8		口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ		貝押引		～3.0mm茶褐色 ～1.0mmの白色、透明に光る砂粒	にぶい橙 暗赤褐	明赤褐	良	
9		口縁部	ヨコナデ 貝条→ヨコナデ	貝条→ヨコナデ		貝刺突		微細～0.2mm白色、茶色、透明に光る砂粒	橙	にぶい橙	良	
10		口縁部	ナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ		半サイ竹管連続刺突		～0.5mm白色砂粒、透明に光るガラス質細砂粒	橙	にぶい赤褐	良	
11		口縁部	ヨコナデ 貝条	貝条		貝腹連続刺突		～1.0mm無色透明に光る細砂粒	赤褐	灰褐	良	
12		口縁部	ナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ		工具連続刺突 工具連続刺突		～0.5mm無色透明に光る砂粒 ～1.0mm黄白色、灰色砂粒	にぶい橙	黄橙	良	
13		口縁部	貝条 貝条→ナデ	貝条→ヨコナデ		貝刻み		～1.0mm黒色に光る、透明に光る砂粒	橙	橙	良	
14		口縁部	ナデ 貝条 貝条→ナデ	貝条 貝条→ナデ		貝腹連続刺突		～1.0mm透明に光るガラス質砂粒	にぶい橙	にぶい赤褐	良	
15		口縁部	ナデ 貝条	貝条		ヘラ工具連続刺突		～1.0mm褐色砂粒	橙	橙	良	
16		口縁部	ヨコナデ 貝条 ヨコナデ	貝条→ヨコナデ		貝腹連続刺突		～1.5mm白色、淡黄色、透明に光る砂粒	にぶい赤褐	褐灰	良	
17		口縁部	ヨコナデ 貝条→ヨコナデ	ヨコナデ		貝腹連続刺突		白色透明に光る微細粒	橙	にぶい橙	良	
18		口縁部	ナデ 貝条 貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突		透明に光る細砂粒、白色細砂粒	にぶい褐 灰黄褐	黒褐	良	
19		口縁部	ナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ		半サイ竹管連続押引		～0.5mm無色透明に光る砂粒 ～1.0mm白色砂粒 2～5mm大灰白色石粒	橙	にぶい橙 橙	良	
20		口縁部	ヨコナデ ヨコナデ 貝条→ヨコナデ	貝条→ヨコナデ		貝腹押引		微～1.0mm無色透明に光る砂粒 白色砂粒、1×2.5mm黄褐色石粒	にぶい橙 橙	灰褐 橙	良	

図面番号	分類	器部	調整			文様		胎土	色調		焼成	備考
			表	裏	底面	表	裏		表	裏		
21		口縁部 (山形)	ナデ	貝条		浅い刻目 ヘラ工具連続刺突		白、褐色細砂粒	明褐	にぶい黄橙 橙	良	
22		口縁部	ナデ	貝条→ナデ		半サイ竹管連続刺突		～1.0㎜白、灰、茶色砂粒	にぶい橙	にぶい橙	良	
23		口縁部	貝条→ナデ ナデ	貝条		ヘラ工具押引 凹線２条　竹管刺突 貝連続刺突		白色細砂粒 1.0㎜位褐色石粒	橙	橙	良	
24		口縁部 (山形)	ナデ 貝条→ナデ	貝条		凹線 貝腹連続刺突		1.5～3.0㎜白軟質石粒 ～0.5㎜透明ガラス質砂粒	橙 にぶい赤褐	橙	良	
25		口縁部	ナデ	ナデ		貝腹連続刺突 凹線３条 貝腹連続刺突		～2.0㎜茶、白、透明で光る砂粒	橙	にぶい褐	良	
26		口縁部	貝条	貝条→ナデ		刻目 凹線２条 ヘラ工具連続刺突２条		～3.0㎜ガラス状砂粒	にぶい橙	橙	良	
27		口縁部 (山形)	ナデ 貝条	ナデ 貝条→ナデ		ヘラ工具連続刺突 貝腹連続刺突		透明ガラス質細砂粒	橙	橙	良	
28		口縁部	ナデ 貝条 ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突		透明ガラス質細砂粒	明赤褐 褐灰	にぶい赤褐	良	
29		口縁部	ナデ 貝条			刻目 凹線（２条） 工具連続刺突（２条）		～1.0㎜ガラス状砂粒 白色砂粒少量	にぶい赤褐	にぶい橙	良	
30		口縁部	ヨコナデ 貝条→ヨコナデ	貝条		貝腹押引		微～1.0㎜無色透明で光る白色砂粒	橙 暗赤褐	橙 浅黄橙	良	
31		口縁部	ナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突２条		～0.5㎜無色透明に光る白色砂粒	暗赤灰 灰赤	にぶい赤褐	良	
32		口縁部	ナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突２条 沈線		～0.5㎜無色透明に光る白色砂粒	橙	橙	良	
33		口縁部 (山形)	ナデ	ナデ		貝腹連続刺突２条		微～0.5㎜無色透明で光る白色砂粒	暗赤褐	にぶい赤褐 褐灰	良	
34		口縁部	ナデ	貝条→ナデ		貝腹刻み 貝腹連続刺突		1.0㎜位褐、黒色砂粒 ガラス質細砂粒	橙	橙	良	
35		口縁部	ナデ	ナデ		工具刺突→凹線 貝腹連続刺突		～1.0㎜白色、透明砂粒	灰褐	明赤褐	良	
36		口縁部	貝条→ナデ	貝条		貝腹連続刺突		～1.0㎜ガラス状砂粒 乳白色細砂粒	橙	橙	良	
37		口縁部	貝条→ナデ	貝条		工具連続刺突		5.0㎜位礫 ～2.0㎜ガラス状細砂粒	橙 にぶい赤褐	橙	良	
38		口縁部	貝条→ナデ	貝条		ヘラ工具沈線 貝腹刺突		～0.5㎜無色透明、黒、白色砂粒	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良	
39		口縁部	貝条→ナデ 貝条	貝条		貝腹連続刺突 （ヨコ方向に４～３条）		黒、白、灰色細砂粒	赤褐	橙	良	
40		口縁部 (山形)	ナデ 貝条	貝条		工具？連続刺突		～2.0㎜無色透明砂粒	にぶい赤褐	にぶい橙 暗赤灰	良	

図面番号	分類	器部	調整			文様		胎土	色調		焼成	備考
			表	裏	底面	表	裏		表	裏		
41		口縁部 (山形)	貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突２条		～0.5㎜無色透明に光る白色砂粒	褐灰	褐灰	良	
42		口縁部	ナデ 貝条→ナデ	貝条		貝刺突３条 頂部貝刺突		～2.0㎜乳白色砂粒 ～2.0㎜無色透明に光る砂粒	明赤褐	にぶい赤褐	良	
43		口縁部	ナデ 貝条	貝条		ヘラ状工具連続刺突		透明ガラス質細砂粒	にぶい褐	黒褐	良	
44		口縁部 (山形)	貝条→ナデ	貝条→ナデ 貝条		貝腹連続刺突		2.0～1.0㎜無色透明に光る細砂粒 細白色砂粒	明赤褐	橙	良	
45		口縁部	ナデ 貝条	貝条		ヘラ状工具連続刺突		～1.0㎜無色透明に光る砂粒 ～0.5㎜白色砂粒	にぶい褐	にぶい赤褐	良	
46		口縁部	貝条→ナデ	貝条→ナデ		工具連続刺突		～0.5㎜無色透明に光る砂粒 白色砂粒	橙	橙	良	
47		口縁部	貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突 工具連続刺突		～0.5㎜無色透明に光る白色、黄白色砂粒	暗赤褐 赤褐	にぶい褐	良	
48		口縁部	貝条 貝条→ナデ	貝条		貝腹連続刺突		～1.0㎜無色透明に光る細砂粒	暗赤褐	にぶい赤褐	良	
49		口縁部	ヨコナデ 貝条	貝条→ナデ		貝腹連続刺突		～1.0㎜白色透明に光る砂粒	橙	明赤褐	良	
50		口縁部	ナデ ナデ 貝条	貝条		貝腹連続刺突２条		無色透明、白色微粒子	灰褐	灰褐 にぶい褐	良	
51		口縁部 (山形)	貝条→ヨコナデ 貝条	貝条→ヨコナデ		半サイ竹管連続刺突		～1.0㎜白色砂粒	にぶい橙	にぶい橙 橙	良	
52		口縁部	貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突２条 浅い沈線２条		1.0～0.5㎜無色透明、白、茶、黄白砂粒	灰褐 明赤褐	明赤褐	良	
53		口縁部 (山形)	ナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ		工具連続刺突 貝腹連続刺突		無色透明で光る白色微粒子	灰褐 にぶい赤褐	黒褐 橙	良	
54		口縁部	貝条 貝条→ナデ	貝条		貝腹連続刺突 ヘラ工具凹線（押引き）３条		～1.0㎜ガラス状細砂粒	にぶい赤褐	明赤褐	良	
55		口縁部	ヨコナデ	貝条(一部ナデ)		半サイ竹管貝腹刺突（２条） 凹線（途中から２条） 貝腹刺突		～1.0㎜白、黒、透明で光る砂粒	灰褐	橙	良	
56		口縁部	貝条→ナデ	貝条		ヘラ状工具刺突→凹線（２条） 貝腹連続刺突 （ヘラ状工具刺突）		～1.0㎜ガラス状砂粒 白細砂粒	にぶい赤褐	暗赤灰	良	
57		口縁部	貝条→ナデ 貝条	貝条		凹線（２条） 貝腹連続刺突		黒色柱状で光る細砂粒	灰黄褐 橙	にぶい黄橙	良	
58		口縁部	ヨコナデ	貝条→ナデ		ヘラ状工具連続刺突（２条） 凹線（２条）		～0.5㎜白、黒、透明に光る砂粒	灰褐	明赤褐	良	
59		口縁部	ヨコナデ 貝条→ヨコナデ	貝条→ヨコナデ		貝押引、貝刺突 凹線、刺突（３条） 貝腹連続刺突		微～2.0㎜赤褐、白、透明で光る砂粒	にぶい赤褐	橙	良	
60		口縁部	ヨコナデ 貝条→ヨコナデ	ヨコナデ 貝条→ヨコナデ		貝腹連続刺突 凹線（２条） ヘラ状工具連続刺突（２条）		～2.0㎜灰白、黒、透明に光る砂粒	橙 明赤褐	にぶい橙	良	

図面番号	分類	器部	調整			文様		胎土	色調		焼成	備考
			表	裏	底面	表	裏		表	裏		
61		口縁部 (山形)	ナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ 貝条 貝条→ナデ		半サイ竹管刺突 凹線（タテ４、ヨコ３） 半サイ竹管連続刺突(４)		透明ガラス状細砂粒	にぶい橙 灰褐	橙 灰褐	良	
62		口縁部	ヨコナデ 貝条→ヨコナデ	貝条→ヨコナデ		ヘラ状工具連続刺突 凹線		～1.0㎜白、透明で光る砂粒	灰褐	にぶい橙	良	
63		口縁部 (山形)	ナデ 貝条 ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突（２条） 凹線（１～２条） 貝腹連続刺突		～0.5㎜褐細砂粒	明赤褐	明赤褐	良	
64		口縁部	ナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突（３条）		～2.0㎜ガラス状に光る細砂粒	赤褐	橙	良	
65		口縁部	ナデ 貝条→ナデ	貝条		貝刺突（３条） 頂部貝刺突		～2.0㎜乳白砂粒 ～2.0㎜無色透明砂粒	明赤褐	にぶい赤褐	良	
66		口縁部	ヨコナデ 貝条→ヨコナデ	貝条		貝腹連続刺突、沈線 凹線（３条）、凹線内に貝腹 貝腹連続刺突		～2.0㎜白、淡黄、透明で光る砂粒	橙 褐灰	にぶい黄橙	良	
67		口縁部	ナデ	ナデ		貝腹刺突 凹線（２条）		白微細砂粒、～1.0㎜透明で光る砂粒	黒褐	黒褐	良	
68		口縁部	ナデ 貝条	貝条		貝腹連続刺突 沈線（３条）		～1.0㎜白、透明ガラス質砂粒	明赤褐	黒褐	良	
69		口縁部	貝条→ナデ	貝条→ナデ		沈線？ 貝腹刺突２条		～1.5㎜白色、透明に光る砂粒	にぶい赤褐	橙	良	
70		口縁部	貝条			貝腹連続刺突２条		～1.0㎜ガラス状砂粒 白色砂粒	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良	
71		口縁部	ナデ 貝条	貝条		貝腹連続刺突		黒光柱状砂粒	橙	橙	良	
72		口縁部	ナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突２条		微細～2.0㎜黒色、白色、透明に光る砂粒	にぶい橙	橙	良	
73		口縁部 (山形)	ヨコナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突３条 竹管(？)連続刺突		～1.0㎜白、黒、透明に光る砂粒	にぶい赤褐	橙	良	
74		口縁部	ヨコナデ 貝条	貝条		貝腹連続刺突２条		～0.2㎜無色透明に光る砂粒	にぶい赤褐	橙	良	
75		口縁部 (山形)	貝条→ナデ ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突２条		微～0.5㎜無色透明で光る白色砂粒	黒褐	褐灰 にぶい黄橙 にぶい赤褐	良	
76		口縁部	貝条→ナデ 貝条	貝条 ナデ 貝条		貝腹連続刺突２条		～1.0㎜黒く光る砂粒 褐色砂粒、透明に光る細砂粒	橙	橙	良	
77		口縁部	貝条 ナデ	貝条		貝腹連続刺突２条		～0.7㎜透明ガラス質に光る砂粒	橙	橙	良	
78		口縁部 (山形)	ヨコナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ ナデ		貝腹連続刺突２条		～1.5㎜透明で光る黒色砂粒	橙	橙	良	
79		口縁部	貝条	貝条		貝腹連続刺突２条		～0.5㎜白色砂粒 ～1.0㎜透明で光るガラス質砂粒	橙	橙	良	
80		口縁部 (山形)	ナデ 貝条	貝条		貝腹連続刺突２条		～1.0㎜無色透明に光る細砂粒	明赤褐 にぶい赤褐	橙	良	

図面番号	分類	器部	調整			文様		胎土	色調		焼成	備考
			表	裏	底面	表	裏		表	裏		
81		口縁部 (山形)	ナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突２条		～２㎜白色透明に光る砂粒	橙 灰赤	橙	良	
82		口縁部 (山形)	貝条	貝条		貝腹連続刺突２条		～0.5㎜無色透明に光る白色、黄白色砂粒	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良	
83		口縁部 (山形)	ナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ 貝条		貝腹連続刺突３条		～1.0㎜透明で光る砂粒 白砂粒	褐灰	にぶい褐 褐灰	良	
84		口縁部	貝条→ナデ	貝条		貝腹連続刺突３条		～1.0㎜無色透明に光る砂粒	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良	
85		口縁部	ナデ 貝条 ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突２条		0.5～1.0㎜褐色砂粒 透明で光る微細砂粒	にぶい黄褐	褐	良	
86		口縁部 (山形)	ナデ 貝条	貝条→ナデ ナデ		貝腹連続刺突２条		～2.0㎜の淡黄色、白色、黒色、透明で光る砂粒	にぶい橙	橙	良	
87		口縁部	貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突２条		1.0～3.0㎜茶色、褐色、～1.0㎜黒色、透明に光る砂粒	にぶい橙 灰赤	明赤褐	良	
88		口縁部 (山形)	貝条→ナデ	貝条		貝腹連続刺突３条 沈線４条		微～1.0㎜無色透明に光る砂粒 0.5～1.0㎜白色、乳白色砂粒	にぶい褐	にぶい橙 にぶい褐	良	
89		口縁部	ナデ 貝条	貝条		貝腹連続刺突２条		黒く光る微細粒 白色微細砂粒	灰褐	にぶい赤褐	良	
90		口縁部	ナデ 貝条→ナデ	貝条		貝腹連続刺突２条		微～1.0㎜無色透明に光る砂粒 白色、灰色、黄褐色砂粒	にぶい橙 にぶい赤褐	橙 にぶい赤褐	良	
91		口縁部 (山形)	ナデ 貝条→ナデ	貝条		貝腹連続刺突２条		～1.0㎜ガラス状に光る細砂粒 白色砂粒	にぶい橙	橙	良	
92		口縁部 (山形)	貝条→ナデ 貝条	貝条→ナデ		貝腹連続刺突		黒く光る細砂粒、透明ガラス質細砂粒	明赤褐 灰褐	にぶい黄橙 橙	良	
93		口縁部	ヨコナデ	貝条		貝腹連続刺突 沈線（５段）貝腹刺突？ 貝腹連続刺突		4.0㎜にぶい黄褐色礫 ～3.0㎜白、灰、黒、透明で光る砂粒	橙	橙	良	
94		口縁部 (山形)	ヨコナデ 貝条	貝条→ナデ		貝腹連続刺突 ヨコ、ナナメ沈線（４～５） 貝腹連続刺突 貝腹連続刺突	貝腹刺突	～2.5㎜浅黄色、黒色で光る砂粒	灰赤	橙	良	
95		口縁部 (山形)	ヨコナデ	貝条→ナデ		貝腹→ナデ ８段ヨコ沈線、６段タテ刺突 ナナメ沈線、貝腹刺突 貝腹連続刺突		1.0～4.0㎜茶、～2.0㎜白、透明で光る砂粒	橙～灰褐	橙	良	
96		口縁部 (山形)	ヨコナデ 貝条	貝条→ナデ		貝腹連続刺突 ヨコ、ナナメ沈線（３～６） 貝腹連続刺突		～1.0㎜白、透明で光る細粒	灰赤	橙	良	
97		口縁部 (山形)	貝条→ナデ 貝条	貝条		貝腹連続刺突 ヨコ、ナナメ沈線（５～７） 貝腹連続刺突 貝腹連続刺突		～1.0㎜白砂粒	明赤褐	灰褐	良	
98		口縁部	貝条→ナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ 貝条		貝腹連続刺突 ヨコ、ナナメ沈線（３～６） 貝腹連続刺突 貝腹連続刺突	貝腹連続刺突	1.0～6.0㎜褐、灰礫	明赤褐	褐	良	
99		口縁部	貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突 ヨコ沈線（４）		～1.0㎜無色透明に光る細砂粒	橙	橙	良	
100		口縁部 (山形)		貝条		貝腹連続押引 竹管刺突→沈線（ヨコ3、ナナメ8～） 貝腹連続刺突（２条）		～0.5㎜無色透明、白砂粒 1.5×3.0㎜橙石粒	にぶい赤褐	橙	良	

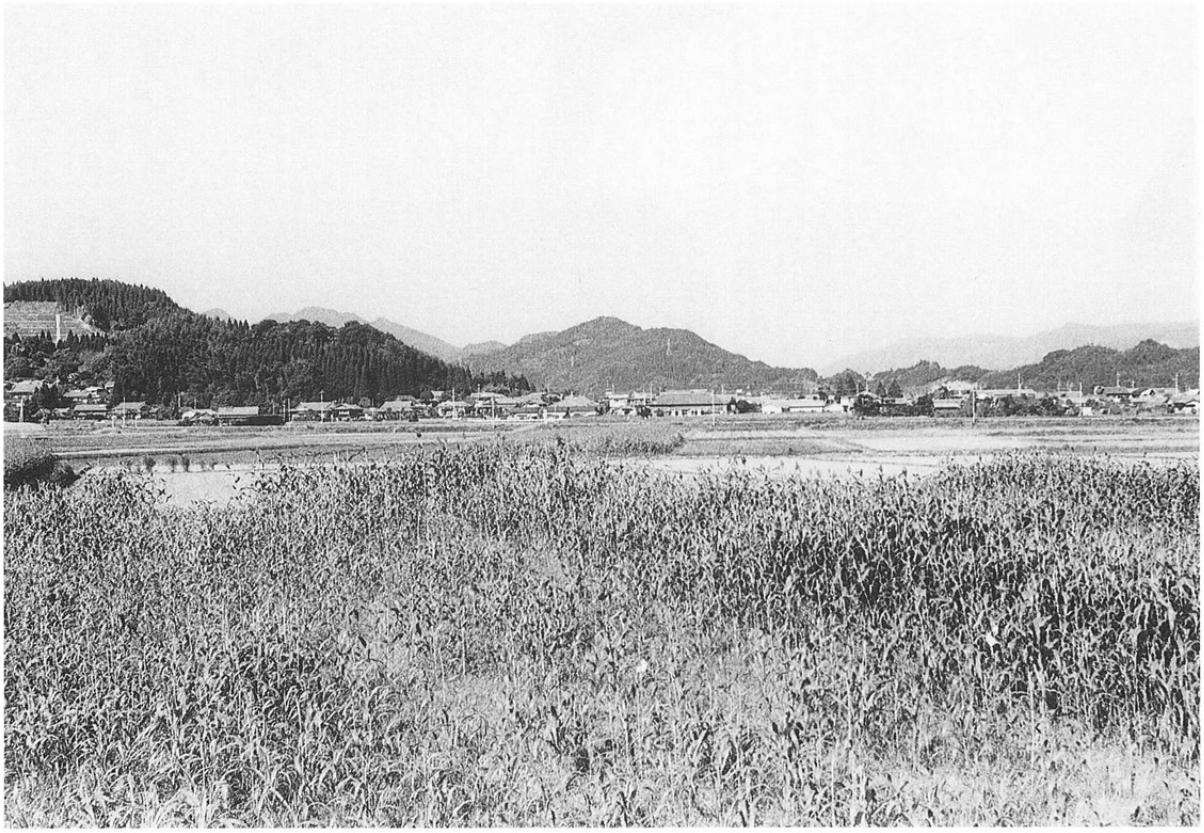
図面番号	分類	器部	調整			文様		胎土	色調		焼成	備考
			表	裏	底面	表	裏		表	裏		
101		口縁部 (山形)	貝条→ナデ 貝条 貝条→ナデ	貝条		貝腹連続刺突 ヨコ、ナナメ沈線（10～11） →沈線上にヘラ連続刺突 貝腹連続刺突（タテ） 貝刺突（ヨコ）		～4.0mm明赤褐石 ～2.0mm乳白色砂粒 ～1.0mm無色透明に光る砂粒	にぶい赤褐	明赤褐	良	
102		口縁部 (山形)	ナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ		沈線（5）		0.5mm無色透明に光る砂粒 白砂粒	にぶい赤褐	明赤褐 灰褐	良	
103		口縁部	貝条→ナデ 貝条	貝条→ナデ		貝腹連続刺突 ナナメ沈線		～0.2mmガラス状砂粒	橙	橙	良	
104		口縁部	ナデ ナデ	ナデ		ヨコ沈線（3）		～0.5mm透明ガラス質砂粒 1.0～3.0mm褐灰砂粒	橙	橙	良	
105		口縁部	貝条	貝条		貝腹連続刺突 ナナメ沈線（一部刺突） 貝腹連続刺突		～1.0mm黒、透明で光る砂粒	橙	橙	良	
106		口縁部	貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突２条		～1.5mm茶色、白色透明、黒色に光る砂粒	にぶい橙 灰褐	にぶい橙	良	
107		口縁部	貝条→ナデ	貝条		貝腹連続刺突２条		～1.0mmガラス状に光る砂粒 ８～４mm石粒（３コ）	橙	にぶい褐	良	
108		口縁部	貝条 貝条→ナデ	貝条 貝条→ナデ		貝腹連続刺突		～0.5mm褐色砂粒、黒く光る細砂粒、透明で光るガラス質細砂粒	にぶい黄褐	にぶい赤褐	良	
109		口縁部	ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突２条		～0.2mm茶色、白色透明に光る砂粒	にぶい黄褐 橙	橙	良	
110		口縁部 (山形)	貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突２条		７mm茶褐礫 ～2.0mm茶色、透明に光る砂粒	にぶい橙 橙	灰褐	良	
111		口縁部 (山形)	貝条 ナデ	貝条 貝条→ナデ		貝腹連続刺突２条		0.2mm透明で光るガラス質砂粒	赤褐	暗赤褐	良	
112		口縁部 (山形)	ナデ 貝条	貝条		貝腹連続刺突		2.0mm無色透明に光る細砂粒	橙	橙	良	
113		口縁部	ヨコ 貝条→ナデ	貝条		貝腹連続刺突２条		～2.0mmガラカ状に光る砂粒	橙	橙	良	
114		口縁部	貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突		～0.5mm無色透明に光る砂粒 1.0×1.0mm透明ガラス質砂粒	にぶい赤褐	にぶい赤褐	良	
115		口縁部	貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突		～0.5mm無色透明に光る白色砂粒	にぶい赤褐	橙	良	
116		口縁部 (山形)	貝条→ナデ	ヨコナデ 貝条		貝腹連続刺突		～1.0mm白色透明で光る砂粒	にぶい赤褐	にぶい橙	良	
117		口縁部 (山形)	ナデ 貝条	貝条		貝腹連続刺突		～1.0mm無色透明に光る細砂粒	橙	橙	良	
118		口縁部 (山形)	ナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突		～0.5mm無色透明、黒色に光る白色、黒色の砂粒 １×１mmの透明ガラス質砂粒	明赤褐	明赤褐	良	
119		口縁部	貝条→ナデ	貝条		貝腹連続刺突		2.0mm無色透明に光る砂粒	明赤褐	明赤褐	良	
120		口縁部	貝条	貝条		貝腹連続刺突２条		4.0mm茶褐色、～2.0mm白色、黒色に光る砂粒	橙	橙	良	

図面番号	分類	器部	調整			文様		胎土	色調		焼成	備考
			表	裏	底面	表	裏		表	裏		
121		口縁部	貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突		～2.0㎜白色透明に光る砂粒	灰褐	にぶい橙	良	
122		口縁部 (山形)	ヨコナデ 貝条→ナデ	貝条		貝腹連続刺突		～3.0㎜灰白色、黒色、～1.0㎜白色透明に光る砂粒	褐灰 にぶい橙	明赤褐	良	
123		口縁部 (山形)	ヨコナデ 貝条→ナデ	貝条		貝腹連続刺突		～2.0㎜茶色、～1.0㎜白色透明に光る砂粒	橙	橙	良	
124		口縁部	ナデ 貝条	貝条		貝腹連続刺突		2.5㎜無色透明、乳白色に光る砂粒	にぶい赤褐	暗赤褐	良	
125		口縁部 (山形)	貝条 貝条→ナデ	貝条		貝腹連続刺突		透明ガラス質に光る細砂粒	明赤褐	にぶい赤褐	良	
126		口縁部	ヨコナデ ナデ	貝条→ナデ		凹線→ヘラ状工具刺突		～1.0㎜白色透明に光る砂粒	灰褐	橙	良	
127		口縁部	ナデ 貝条	貝条→ナデ		貝腹連続刺突		透明ガラス質砂粒、褐色細砂粒			良	
128		口縁部	ナデ 貝条→ナデ	貝条		貝腹連続刺突２条		～1.0㎜乳白色、無色透明に光る細砂粒	にぶい赤褐	橙	良	
129		口縁部	ヨコナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突２条		～2.0㎜茶、白、透明に光る砂粒	灰赤	にぶい橙	良	
130		口縁部	貝条→ナデ	貝条		貝腹連続刺突		～0.5㎜無色透明、白色に光る砂粒 １×1.5㎜無色透明砂粒	にぶい赤褐	明赤褐	良	
131		口縁部 (山形)	ナデ 貝条→ナデ	貝条		貝腹連続刺突		～2.0㎜褐、白色砂粒	明赤褐 灰黄褐	黒褐	良	
132		口縁部 (山形)	ナデ 貝条	貝条→ナデ		貝腹連続刺突		～1.0㎜乳白色砂粒 無色透明に光る砂粒	橙	橙	良	
133		口縁部	ヨコナデ 貝条	貝条→ナデ		貝腹連続刺突２条		～2.0㎜白、黒、透明に光る砂粒	橙	橙	良	
134		口縁部	ナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突		～0.5㎜無色透明、白色に光る砂粒 橙、褐色の石粒	褐灰	橙	良	
135		口縁部	ナデ 貝条	貝条		貝腹連続刺突		～2.0㎜ガラス状に光る細色砂粒	にぶい赤褐	赤褐	良	
136		口縁部 (山形)	貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突		～0.5㎜無色透明、白、灰、褐砂粒、 1.0×7.0㎜、2.0×3.0㎜、1.5×1.5㎜ 黒砂粒、2.5×４㎜赤褐石粒	にぶい赤褐	にぶい黄橙	良	
137		口縁部 (山形)	貝条→ナデ	貝条		貝腹連続刺突		微～0.5㎜無色透明で光る白色砂粒	橙	にぶい橙 橙	良	
138		口縁部	ナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突２条		～0.5㎜無色透明白色砂粒 ～1.0㎜黄褐色砂粒	灰褐	橙	良	
139		口縁部	ナデ 貝条 貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突		～1.0㎜無色透明で光る細砂粒	橙	橙	良	
140		口縁部	貝条（３方向）	貝条→ナデ		貝腹連続刺突		～2.0㎜白色透明、黒色で光る砂粒	橙	橙	良	

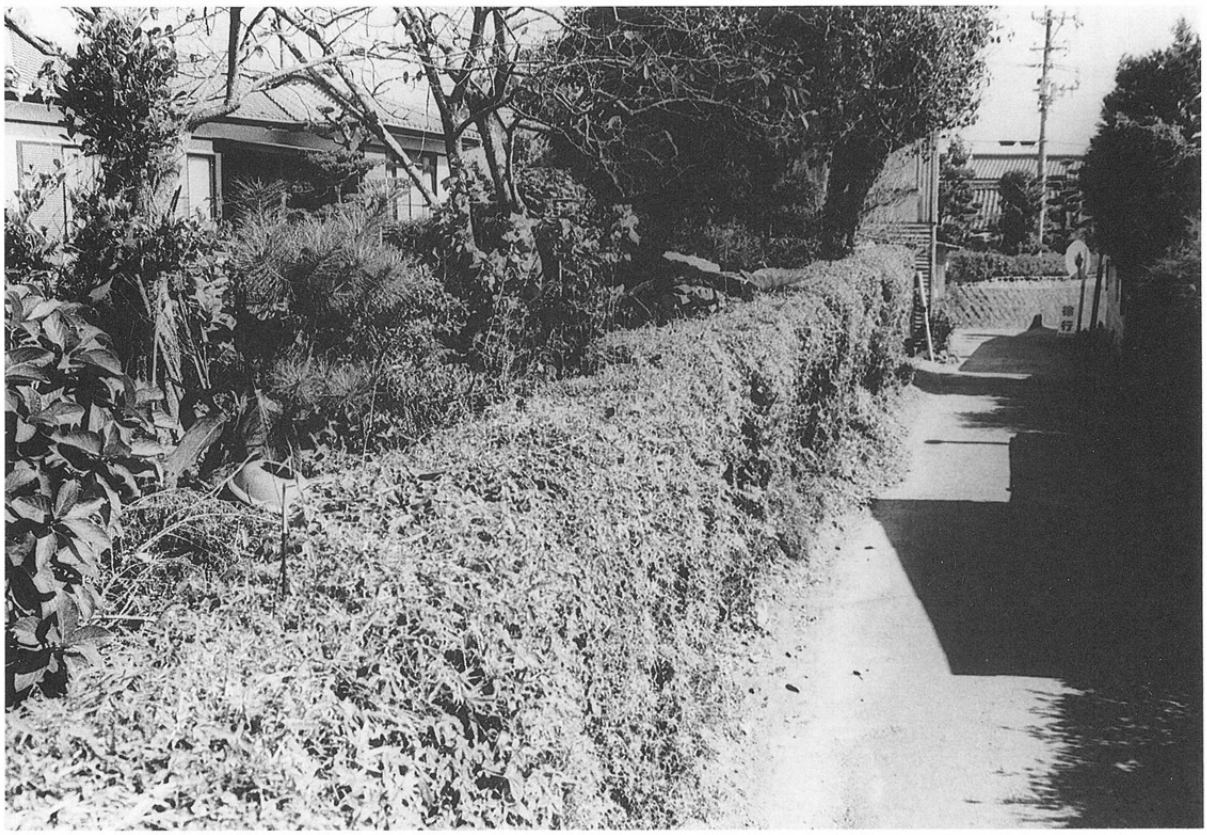
図面番号	分類	器部	調整			文様		胎土	色調		焼成	備考
			表	裏	底面	表	裏		表	裏		
141		口縁部	貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突		～0.5㎜無色透明に光る白色砂粒	橙	橙	良	
148		口縁部	ヨコナデ ナデ	貝条		凹線 貝腹連続刺突 凹線（２条） 貝腹連続刺突（２条）		～1.0㎜無色透明に光る、黒く光る白色砂粒	橙	橙	良	
149		口縁部	貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突		～0.5㎜無色透明、白、灰砂粒 1.5×2.0㎜赤褐砂粒 1.0×1.0㎜の透明ガラス質砂粒	にぶい褐	橙	良	
150		口縁部	ナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突		～1.0㎜乳白砂粒 ～1.0㎜無色透明に光る砂粒	暗赤褐	明赤褐	良	
151		口縁部	ヨコナデ 貝条→ヨコナデ	貝条→ヨコナデ		貝腹連続刺突		～1.0㎜白、透明で光る細砂粒	灰赤	橙	良	
152		口縁部	貝条→ナデ 貝条	貝条		貝腹連続刺突		透明で光る細砂粒、白細砂粒	明赤褐	黒褐	良	
153		口縁部	ヨコナデ 貝条	貝条→ヨコナデ		貝腹連続刺突（ナナメ） 貝連続刺突（ヨコ）		～2.0㎜白、黄白、黒、透明で光る砂粒	灰褐	にぶい赤褐	良	
154		口縁部	ナデ 貝条 貝条→ナデ	貝条→ナデ		貝腹連続刺突		～1.0㎜ガラス状砂粒	橙	にぶい橙	良	
155		口縁部 （山形）	ヨコナデ	ヨコナデ 貝条		頂部～貝刻み ヘラ工具凹線→押圧？刺突？ 貝腹連続刺突 曲線（凹線）		～2.5㎜浅黄、黒で光る砂粒	灰赤	橙	良	
156		口縁部 （山形）	貝条→ナデ	貝条→ナデ 貝条		頂部～貝腹連続刺突 貝連続刺突		透明ガラス質細砂粒	にぶい赤褐	褐灰	良	
157		口縁部	貝条→ナデ	貝条→ナデ			貝腹押引	～0.5㎜無色透明で光る砂粒 白砂粒、2.0～7.0㎜茶石	明赤褐	明赤褐	良	
158		口縁部 （山形）	ナデ 貝条→ナデ ナデ 貝条	貝条 貝条→ナデ			貝腹連続刺突	白微細砂粒、3.0㎜程うす茶石粒、 ～0.5㎜透明砂粒	明赤褐	明赤褐 灰黄褐	良	
159		口縁部	ナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ		（口唇部）貝腹連続刺突	貝腹連続刺突	～1.0㎜黒く光る柱状砂粒	橙	にぶい褐	良	
160		口縁部	ナデ	ナデ				1.0～3.5㎜白、うす茶石粒	明赤褐 橙	暗灰黄 黒褐	良	
161		口縁部	ナデ ナデ	ナデ				白微細砂粒	明赤褐	明赤褐	良	
162		口縁部	ヨコナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ		（口唇部）沈線？		～1.0㎜白透明砂粒	にぶい褐	橙	良	
163		口縁部 （山形）	ヨコナデ 貝条→ナデ	貝条→ナデ				～1.0㎜白、黒、透明砂粒	にぶい橙	橙	良	
164		口縁部	ヨコナデ 貝条	貝条				～1.0㎜無色透明細砂粒	赤褐	灰褐	良	
165		胴部	貝条	貝条→ナデ		タテ、ヨコ沈線 貝腹刺突		～1.0㎜白、透明砂粒	橙	橙	良	
166		胴部	貝条	貝条		方向のちがう細沈線		～0.5㎜無色透明、白細砂粒	にぶい赤褐	にぶい黄橙	良	

図面番号	分類	器部	調整			文様		胎土	色調		焼成	備考
			表	裏	底面	表	裏		表	裏		
167		胴部	貝条	貝条		タテ沈線の間に３条の貝腹連続刺突		1.0～2.5㎜ガラス状砂粒	にぶい橙	橙	良	
168		胴部	ヨコナデ	貝条		曲凹線		3.0㎜白粒、2.0㎜黒く光る砂粒	にぶい褐	橙	良	
169		胴部	磨消縄文	ヘラ磨き		沈線（８～９） 沈線間に縄文		～1.5㎜黒く光る柱状砂粒	にぶい橙 褐灰	にぶい橙	良	
170		口縁部	ナデ	ナデ		（口唇部）縄文、沈線 曲凹線、縄文		～5.0㎜白透明、黒く光る砂粒金雲母	赤褐	灰褐	良	
171		口縁部	ナデ 指押え	ナデ 一部貝条				砂粒、透明微砂粒	にぶい赤褐	橙	良	
172		底部	ナデ	ナデ	ナデ			～2.0㎜白、透明砂粒	橙	橙	良	
173		底部	工具によるナデ	ヨコナデ	ヨコナデ			～1.5㎜白、半透明砂粒	にぶい橙	橙	良	
174		底部	ナデ	ナデ	ナデ			～2.5㎜褐、白、黒、透明で光る砂粒	橙	明赤褐	良	白色物付着
175		底部	ヘラ状工具によるナデ	ナデ	ナデ			2.0～1.0㎜ガラス状砂粒	明赤褐	淡赤橙	良	
176		底部	ナデ	ナデ	ナデ			～1.0㎜白砂粒、透明ガラス質細砂粒	明赤褐	にぶい黄橙	良	
177		底部	貝条→ナデ	ナデ	ナデ			～1.0㎜白、透明で光る砂粒	橙	橙	良	
178		底部	貝条→ナデ	ナデ	不明			～0.5㎜無色透明、黒で光る砂粒、白、黄白、黒砂粒	橙	明赤褐	良	白色物付着
179		底部	ヘラ状工具によるナデ	ナデ	ナデ			～1.0㎜乳白砂粒、ガラス状砂粒	にぶい橙	にぶい橙 褐灰	良	
180		底部	貝条	ナデ	ナデ			～1.0㎜無色透明、白砂粒	橙	橙	良	
181		底部	貝条→ナデ	貝条 ナデ	ナデ			0.5～1.0㎜透明砂粒 1.0～1.5㎜褐、白、灰砂粒	橙	橙	良	
182		底部	貝条	ナデ ところどころ貝条	ナデ			1.0～2.5㎜褐、茶石粒 ～0.5㎜透明ガラス質砂粒	明赤褐	橙 にぶい赤褐	良	
183		底部	貝条	貝条→ナデ	ナデ			～1.0㎜無色透明細砂粒	灰褐	橙	良	
184		底部	工具によるナデ	ナデ	ナデ			5.0㎜程白石粒１ ～1.0㎜褐色砂粒	明赤褐	にぶい橙	良	
185		底部	貝条	ナデ	ナデ			～1.0㎜ガラス状細砂粒	明赤褐	にぶい橙	良	
186		底部	貝条	貝条→ヨコナデ	ナデ			～2.0㎜白、褐、透明砂粒	橙	橙 黒褐	良	白色物付着

図面番号	分類	器部	調整			文様		胎土	色調		焼成	備考
			表	裏	底面	表	裏		表	裏		
187		底部	貝条	貝条	ナデ			～1.0㎜無色透明細砂粒 乳白砂粒	橙 にぶい赤褐	にぶい赤褐	良	
188		底部	貝条→ナデ	ナデ	ナデ			2.0～3.5㎜白、褐、黒砂粒	橙	橙	良	
189		底部	貝条→ナデ	ナデ	ナデ			～1.0㎜ガラス状細砂粒	赤	赤橙	良	
190		底部	貝条	貝条 一部ナデ	ナデ			～2.0㎜白、黒、透明で光る砂粒	にぶい赤褐	橙	良	
191		底部	貝条	貝条 ナデ	ナデ			～1.0㎜淡黄、無色透明砂粒 ～0.5㎜黒く光る砂粒	明赤褐	にぶい褐	良	
192		底部	ナデ	ナデ	ナデ(？)			～2.0㎜茶砂粒、～1.0㎜無色透明、黒く光る砂粒、～0.5㎜淡黄砂粒	明赤褐	明赤褐	良	
193		底部	貝条	ナデ	ナデ			～2.0㎜砂粒 ～1.0㎜透明、黒く光る粒	にぶい橙	にぶい橙	良	
194		底部	ナデ(？)	ナデ	ナデ(？)			3.0㎜程茶褐砂粒、～2.0㎜茶色砂粒 ～1.0㎜黒色透明砂粒	橙	橙	良	
195		脚部	ナデ	ナデ	ナデ	飾装、沈線有り		0.5～1.0㎜黒い柱状の光る砂粒	橙	にぶい黄褐	良	
196		脚部	ナデ	ナデ	ナデ			～3.0㎜白、乳白、金雲母の砂粒	橙	橙	良	
197		円盤	貝条→ナデ	貝条→ナデ				～0.5㎜無色透明白砂粒	橙	明赤褐	良	
198		円盤	貝条→ナデ	貝条→ナデ				～0.5㎜無色透明、白砂粒 ～2.0㎜赤褐、黄褐石粒	明赤褐	明赤褐	良	
199		円盤	貝条→ナデ	貝条→ナデ				～0.5㎜無色透明白砂粒 ～1.5㎜黄白砂粒 2.0×2.0㎜、2.5×4.0㎜赤褐石粒	橙	明赤褐	良	
200		円盤 (口縁部)	貝条	貝条 ナデ		貝腹刺突		0.2㎜透明砂粒	明赤褐	赤褐	良	



上講遺跡遠景（南から）

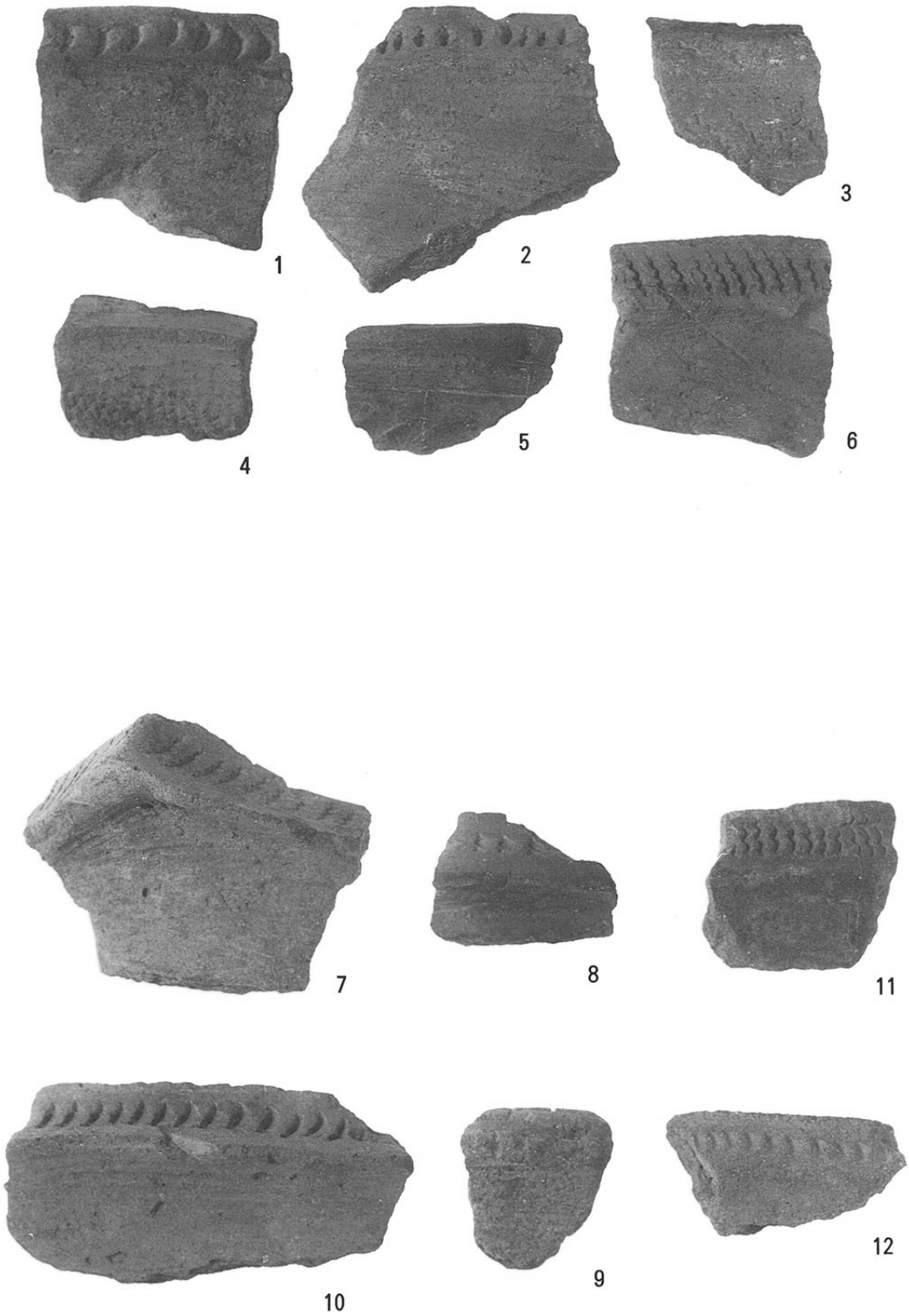


上講遺跡調査地点（西から）

図版2

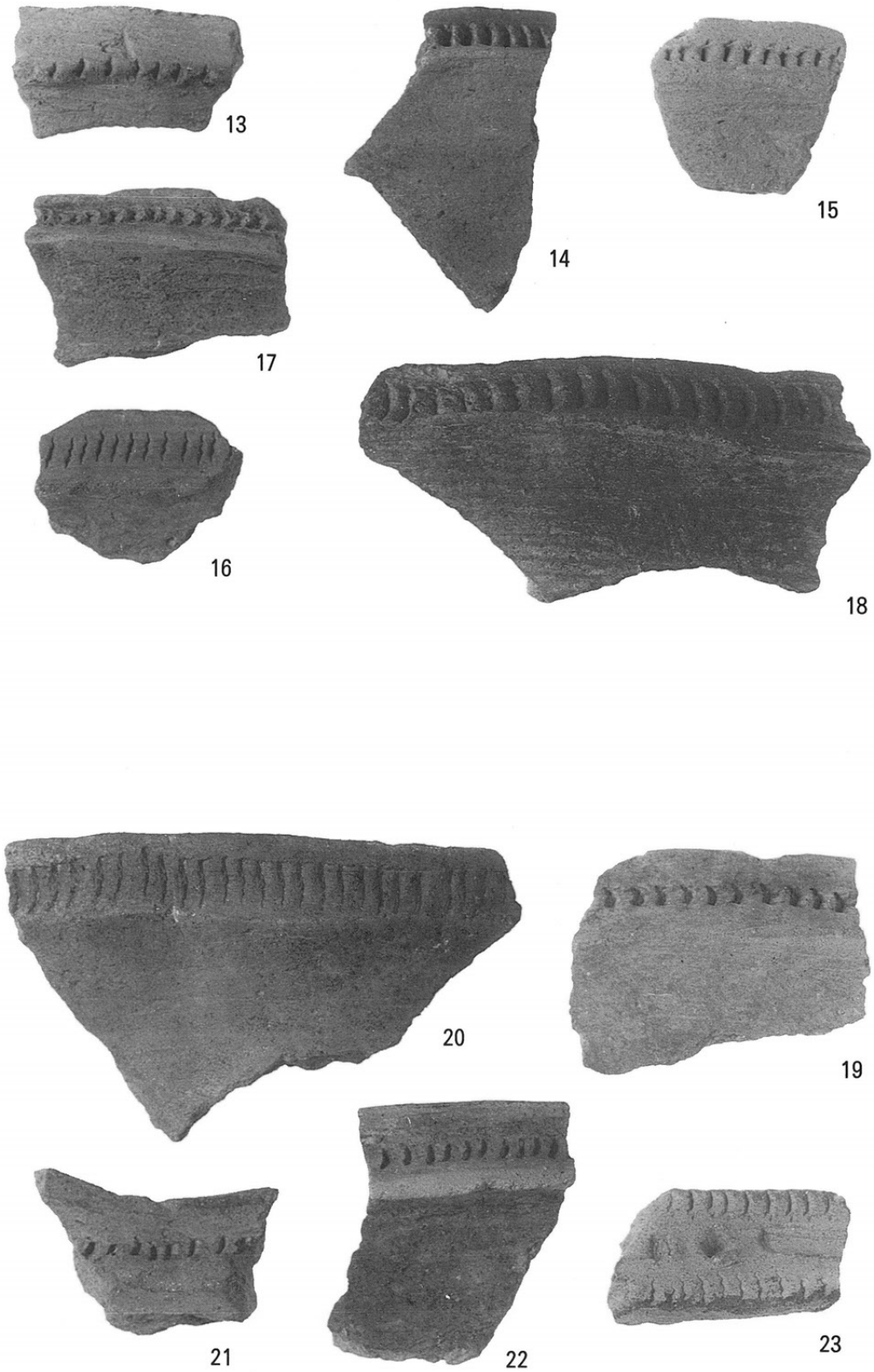
調査風景（東から）

調査風景（西から）



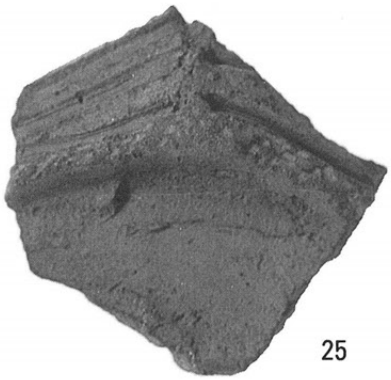
縄文土器 (1)

図版4

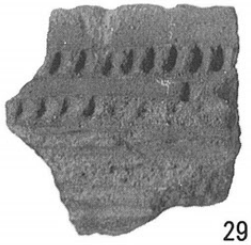


縄文土器 (2)

24


25

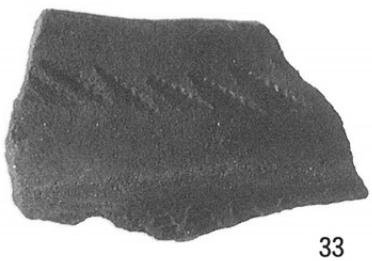
26


29

30

32

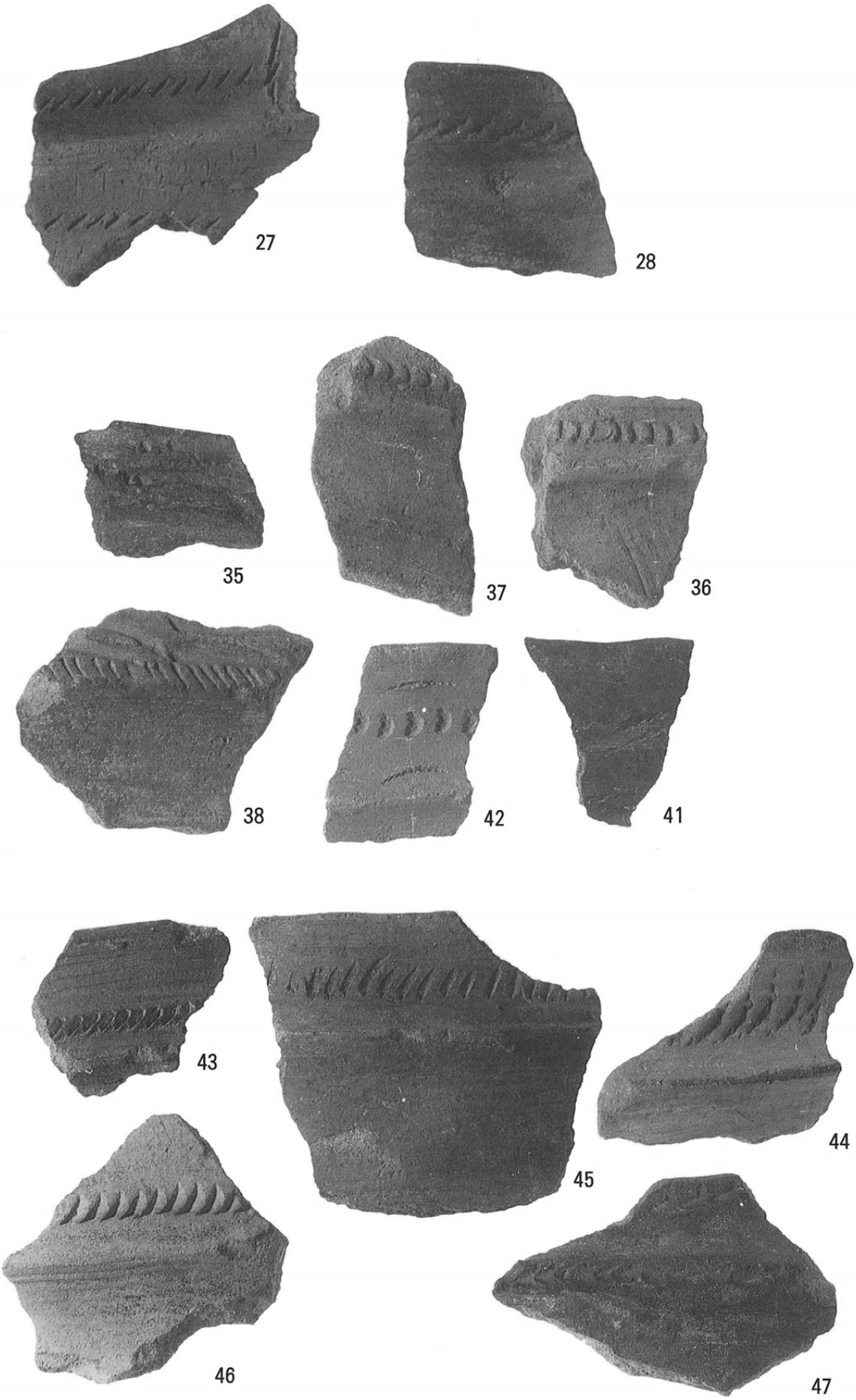
31


33

34

縄文土器 (3)

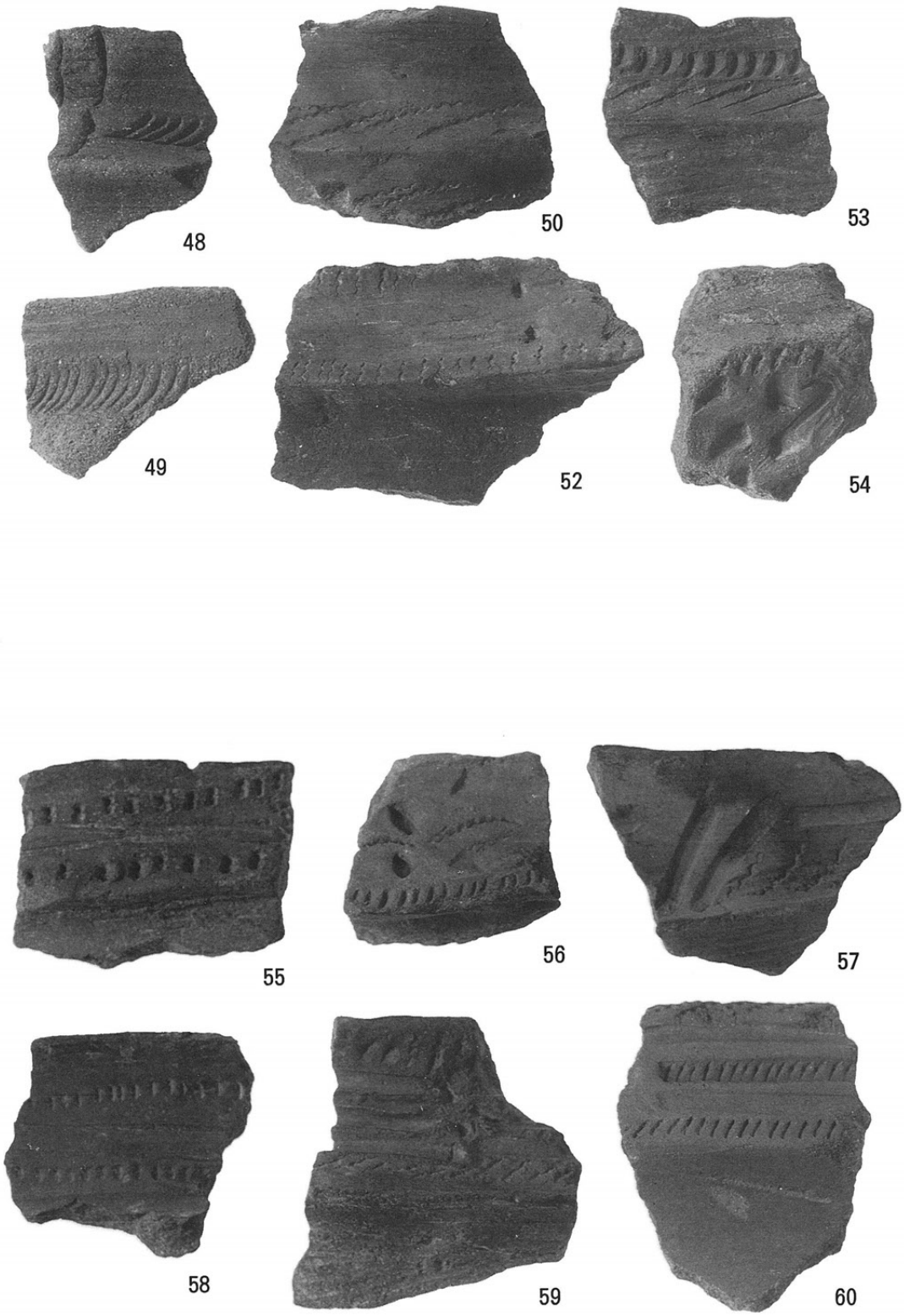
図版6



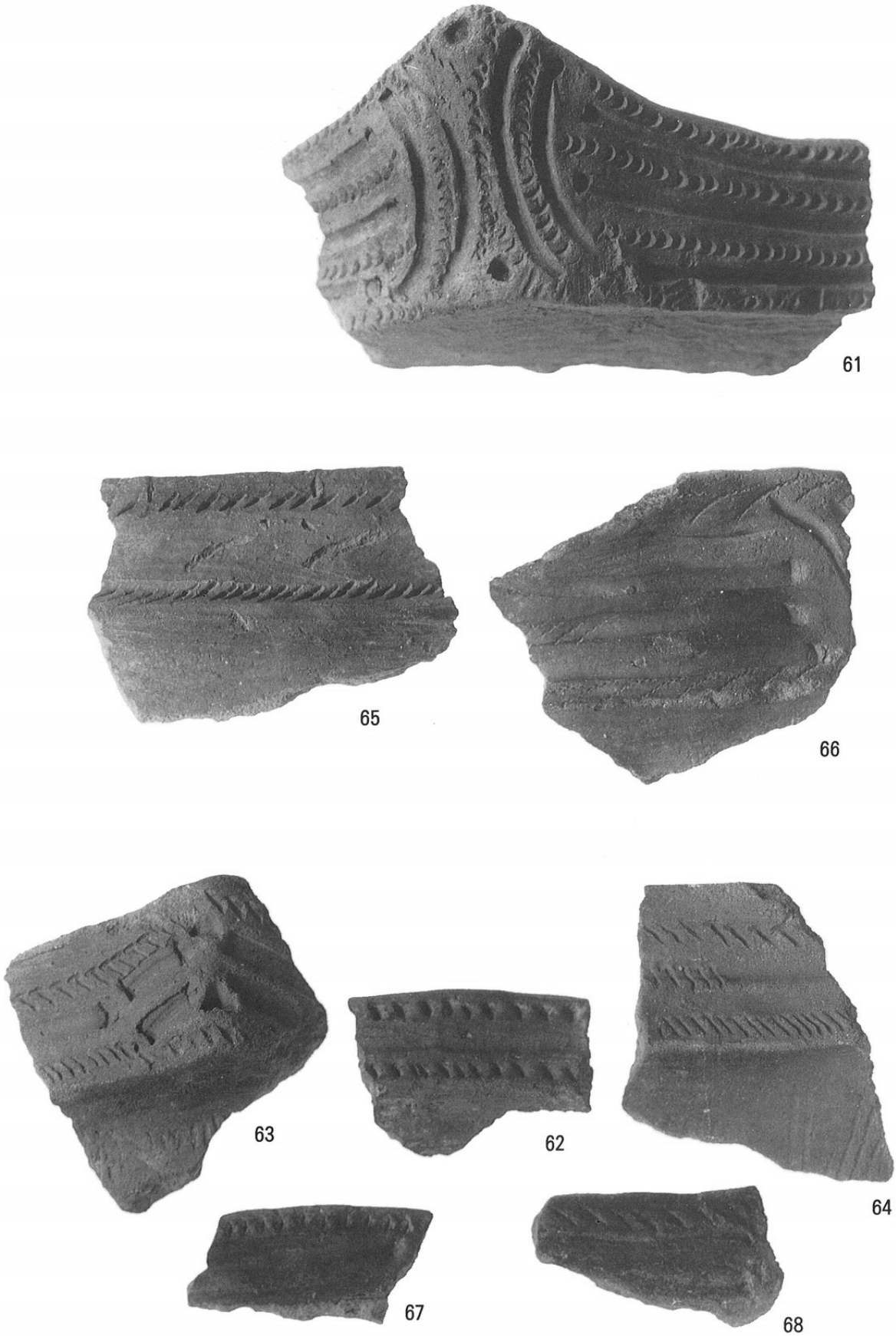
縄文土器 (4)

縄文土器 (5)

図版8

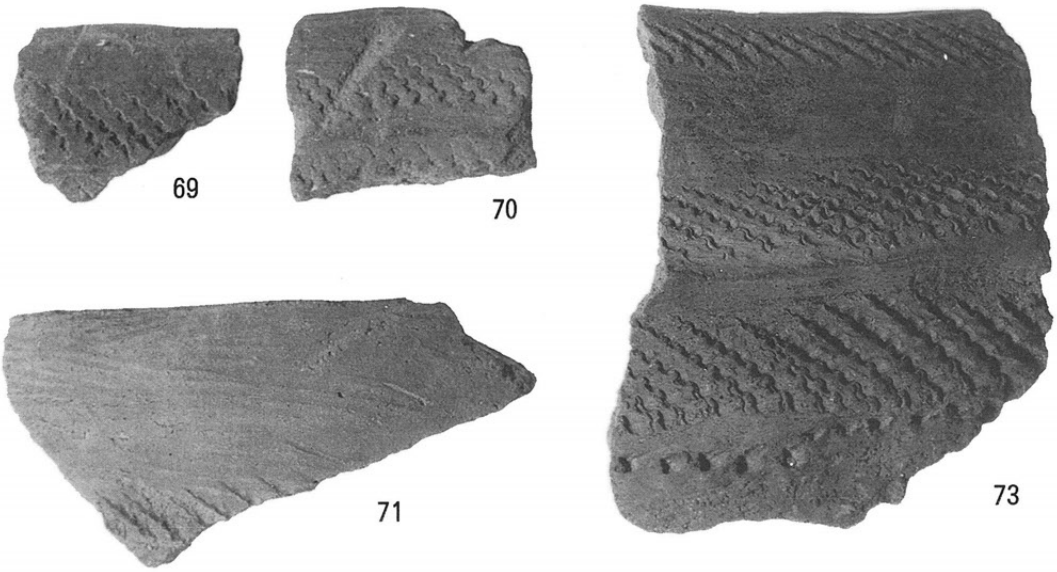


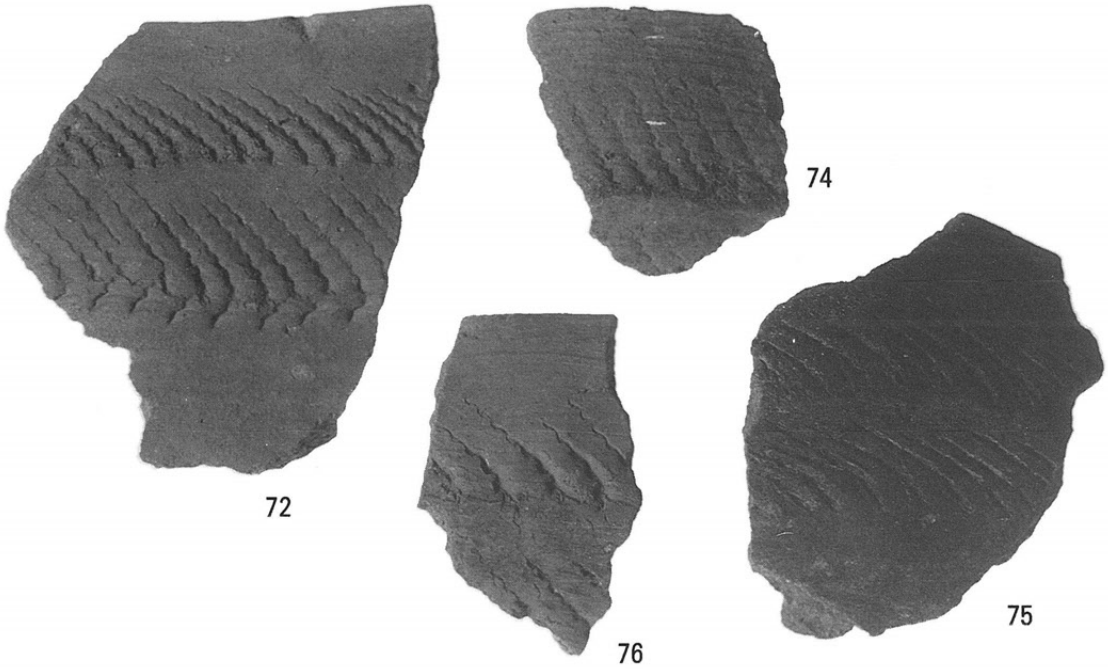
縄文土器 (6)



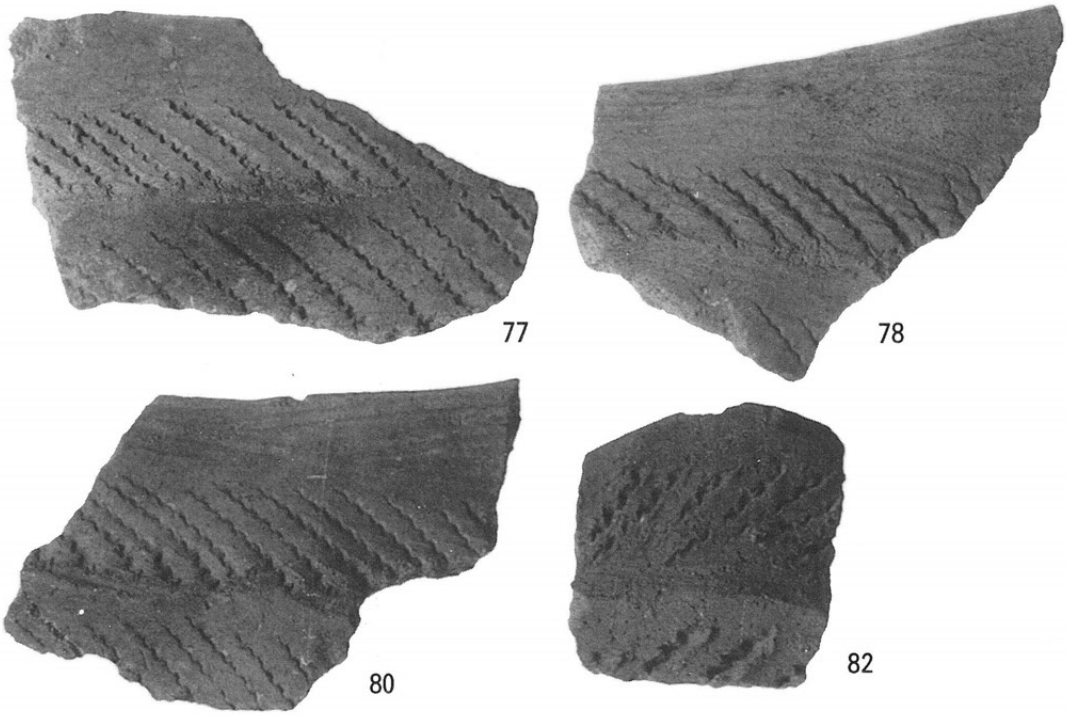
縄文土器 (7)

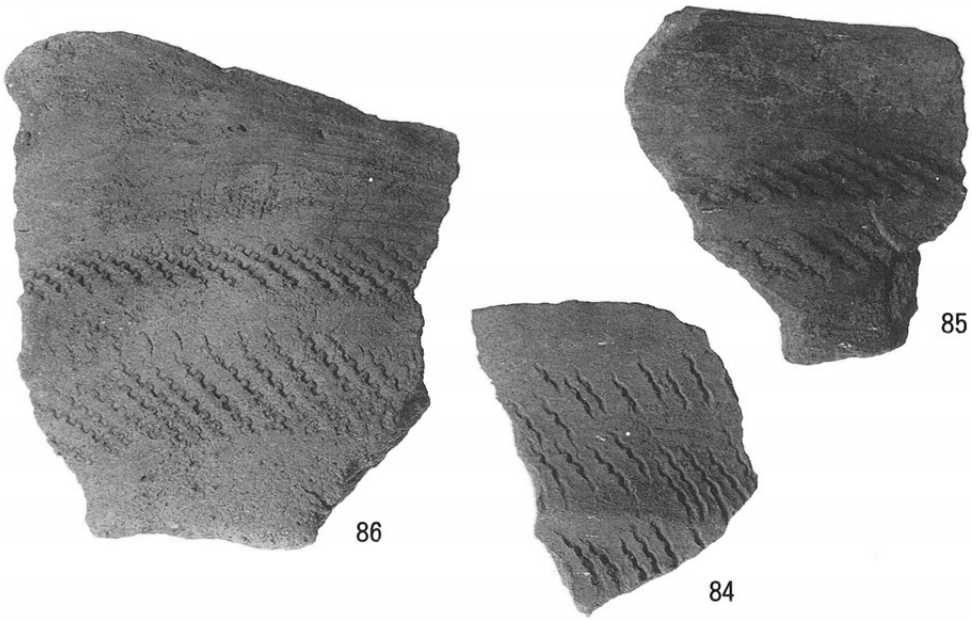
図版10





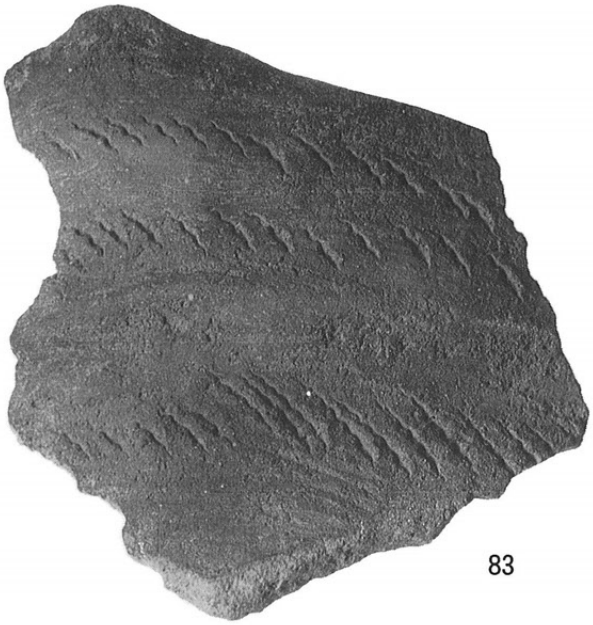
縄文土器 (8)



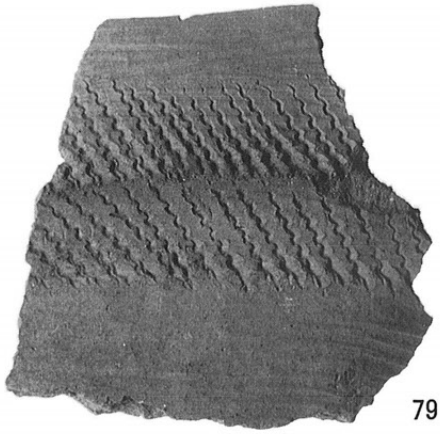


縄文土器 (9)

図版12



83

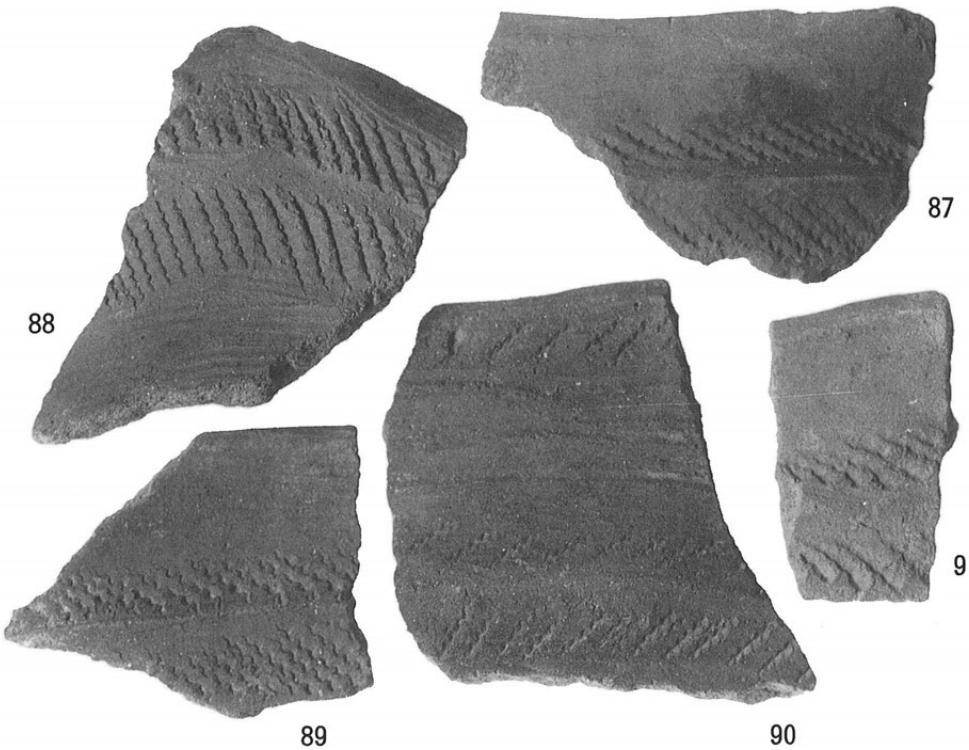


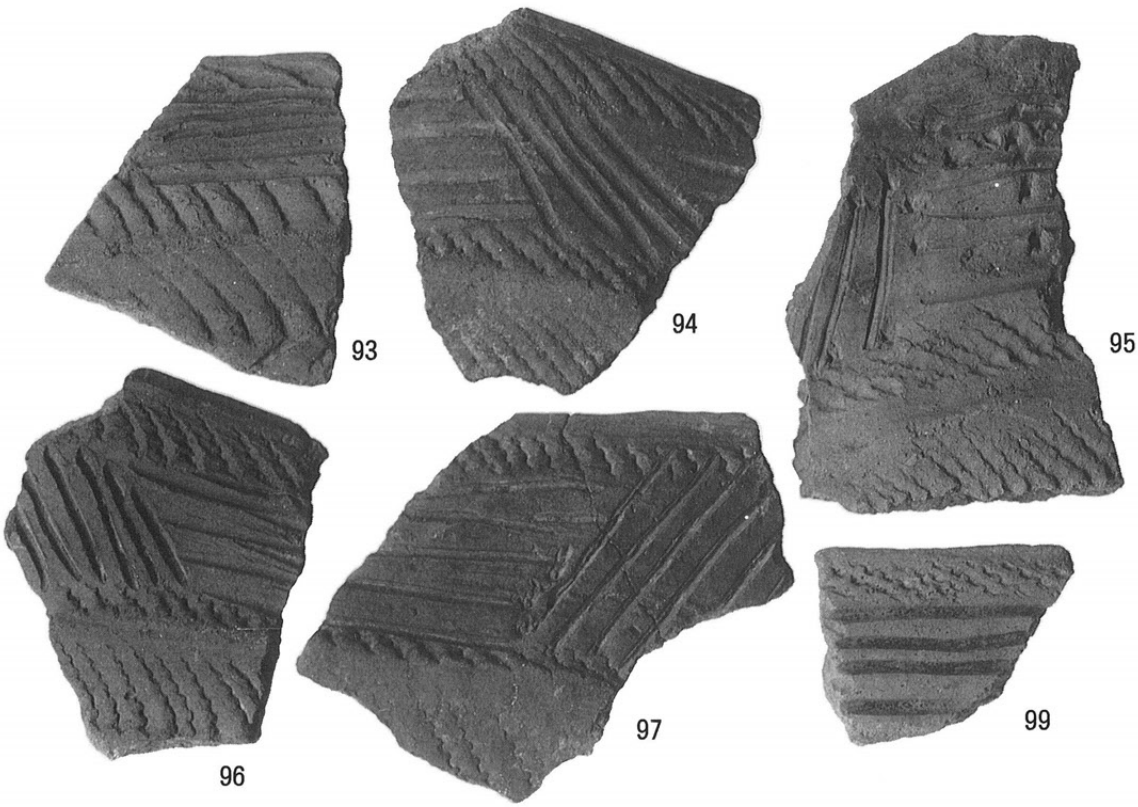
79

81

92

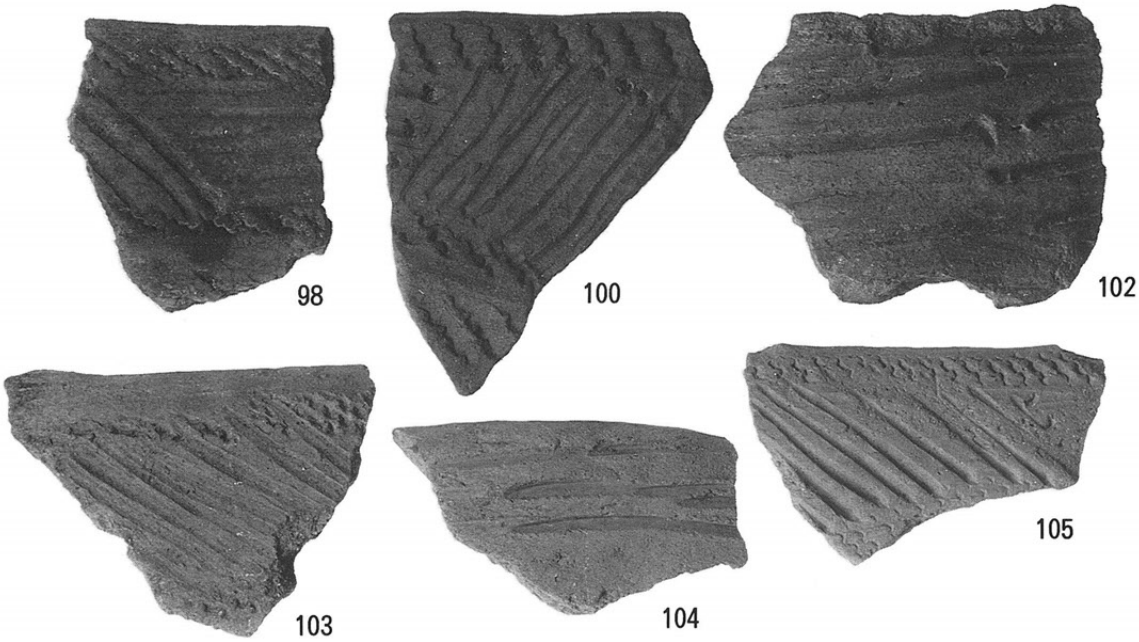
縄文土器 (10)

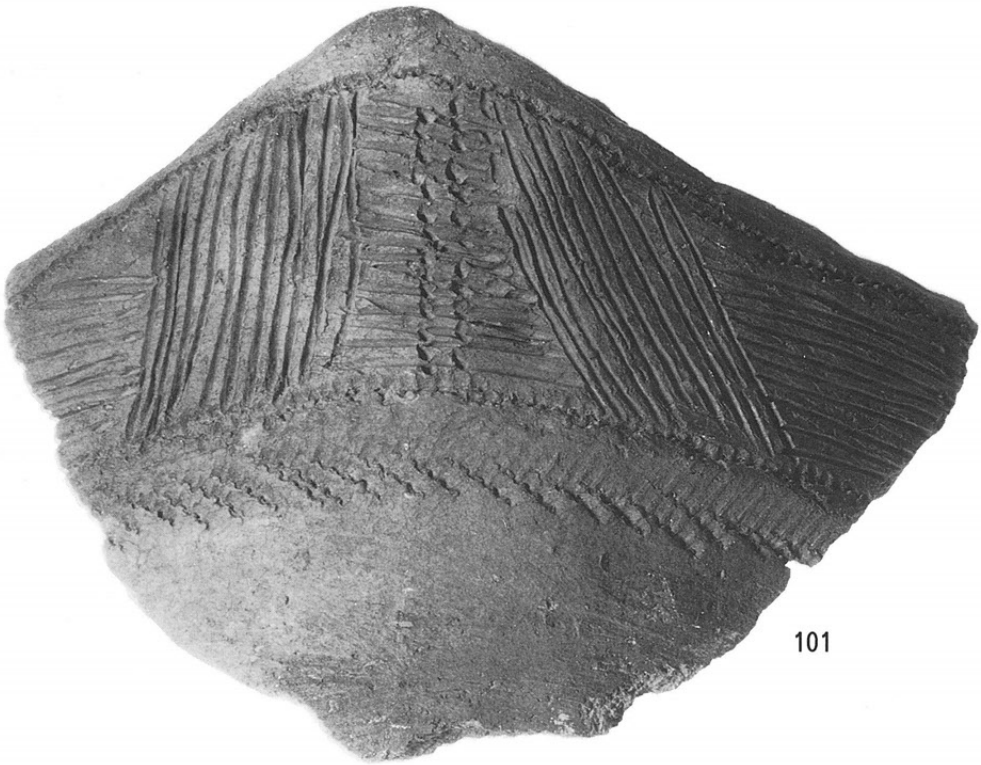




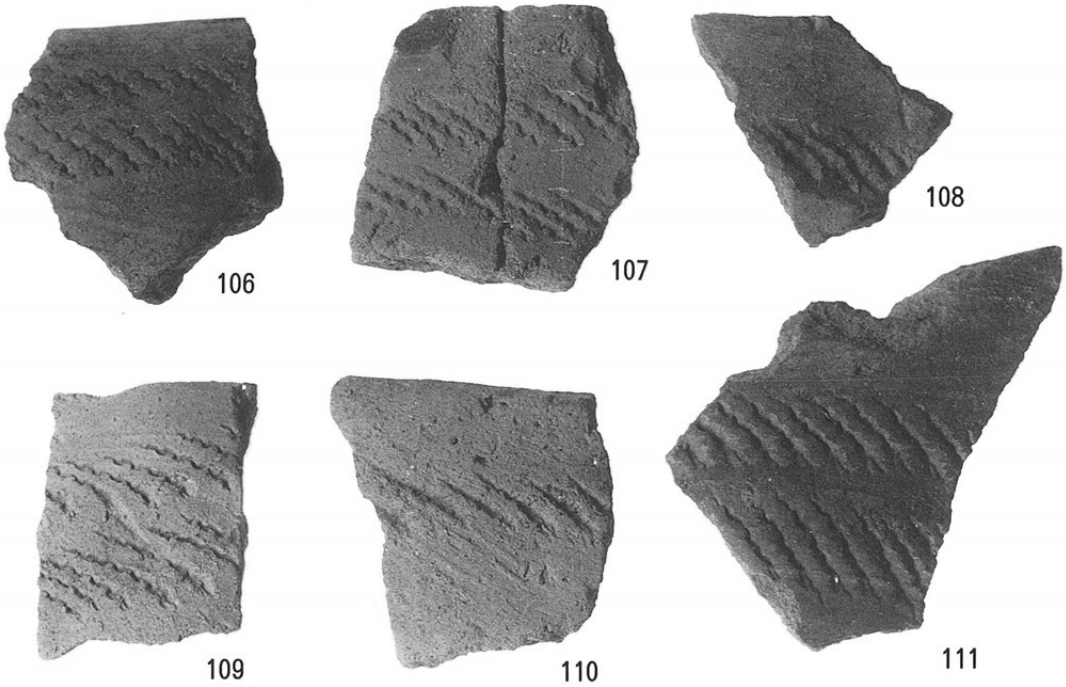
縄文土器 (11)

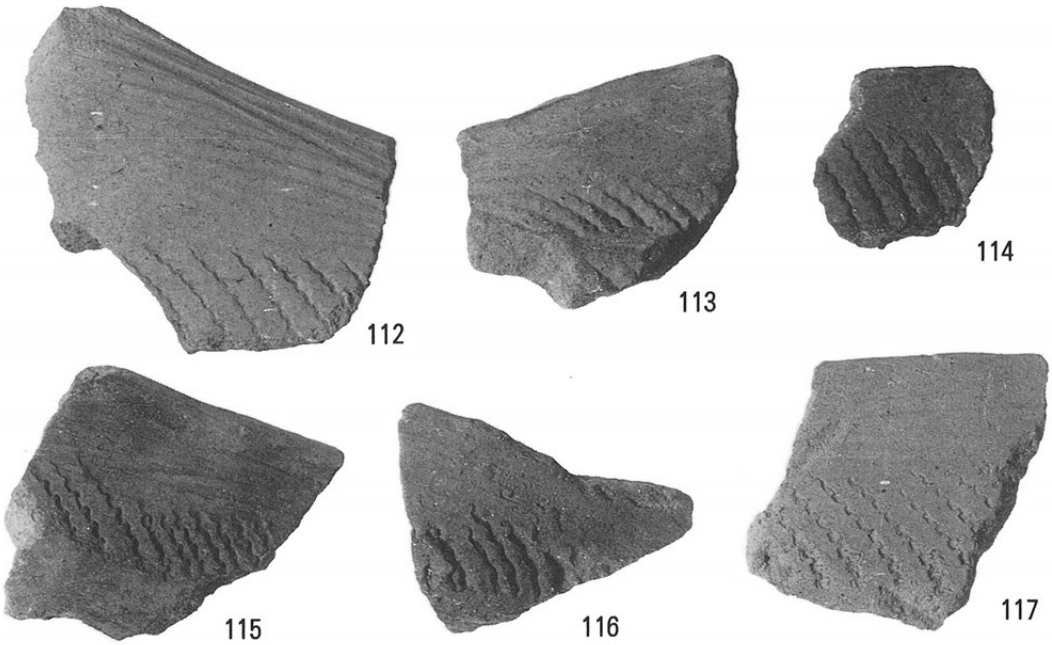
図版14



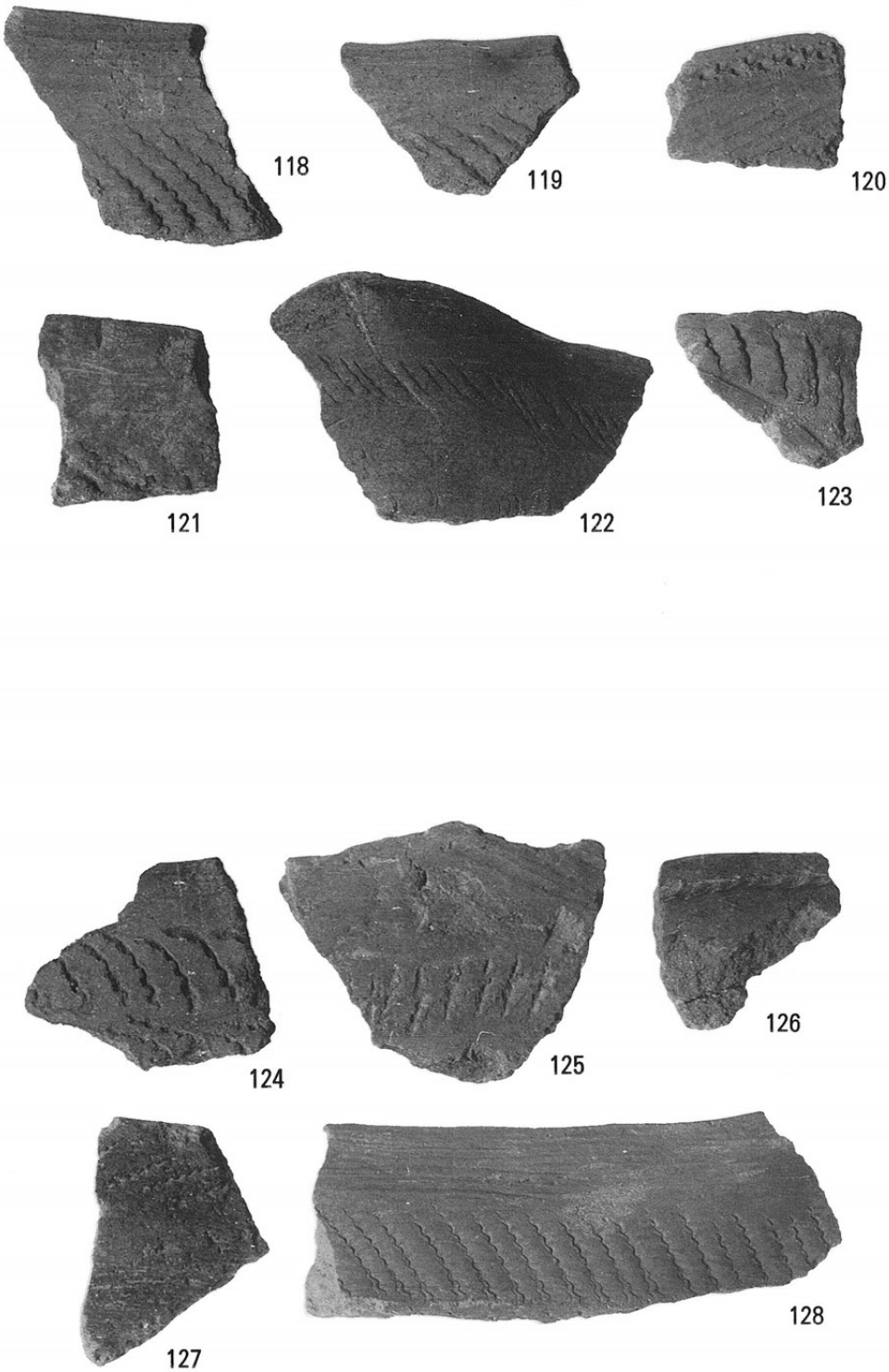


縄文土器 (12)

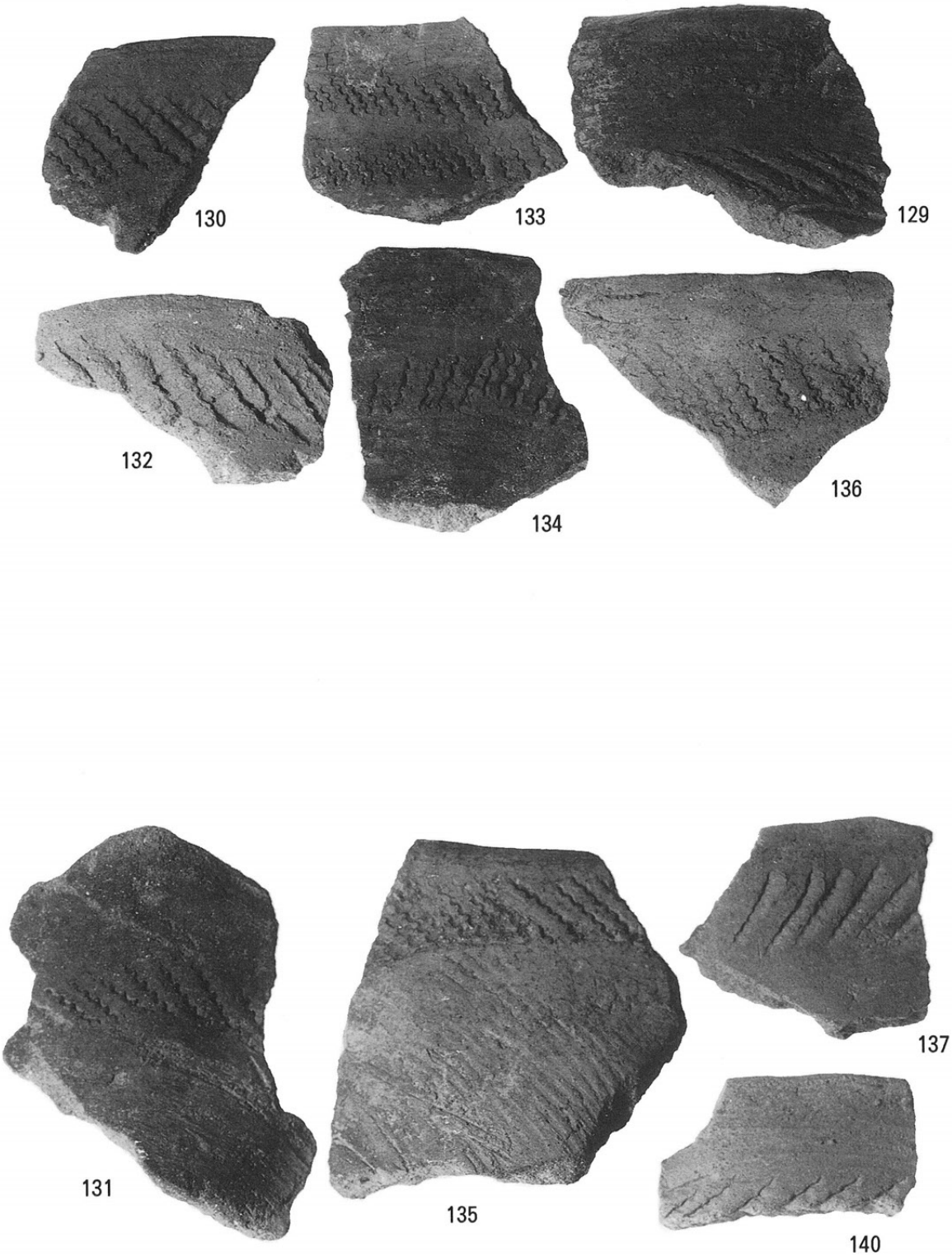




縄文土器 (13)

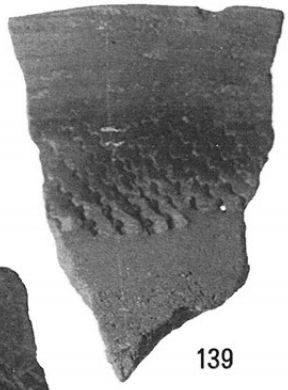


縄文土器 (14)

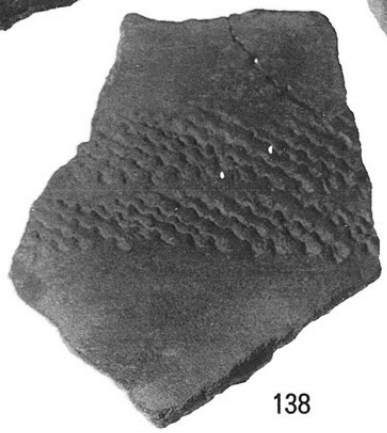


縄文土器 (15)

141

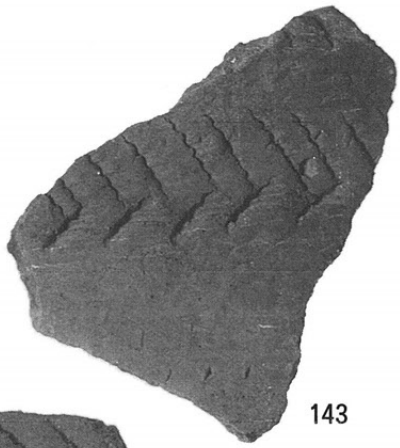


139



138

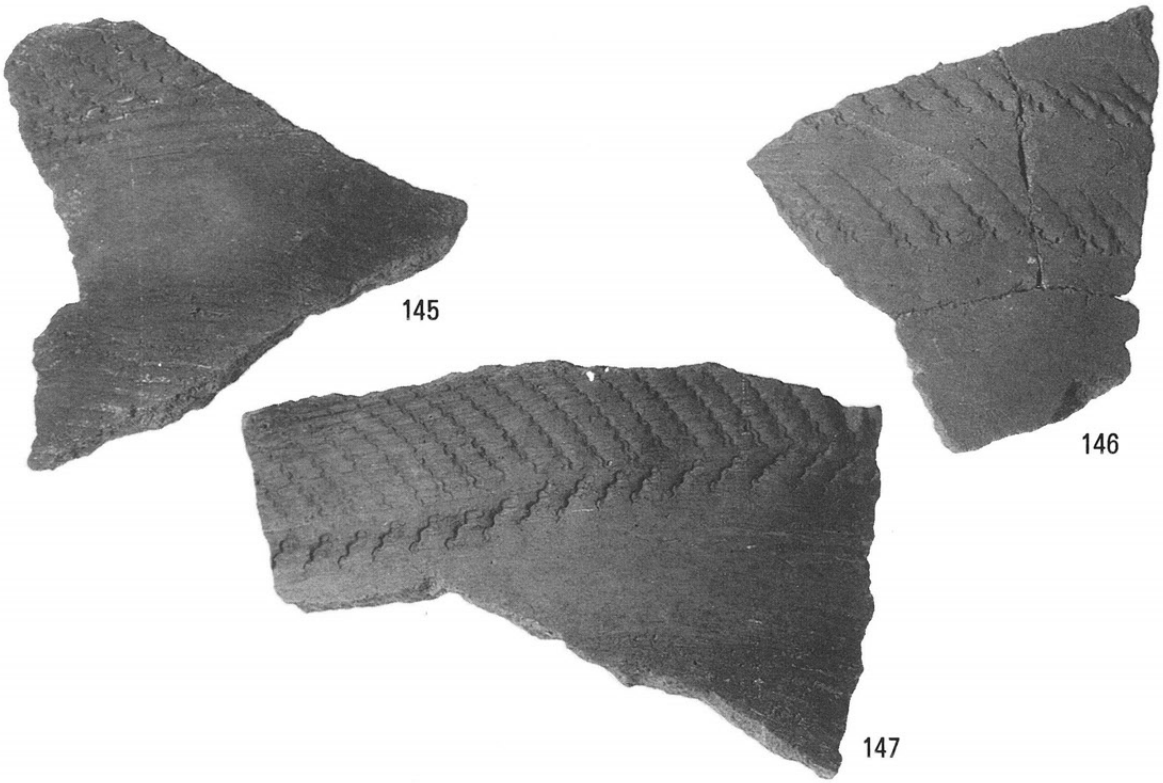
142

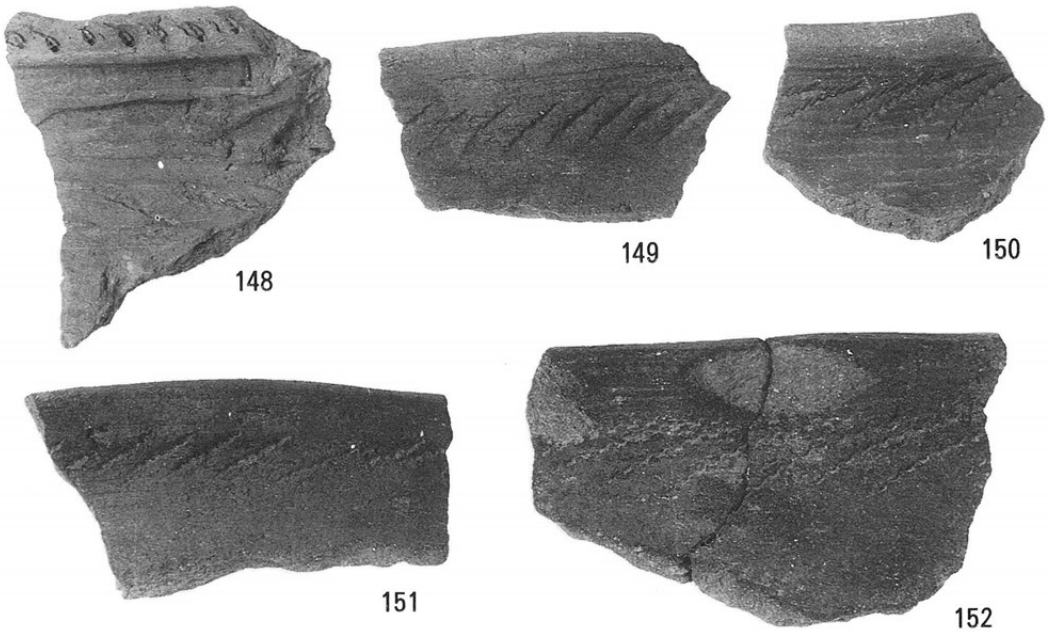


143

144

縄文土器 (16)





縄文土器 (17)

153

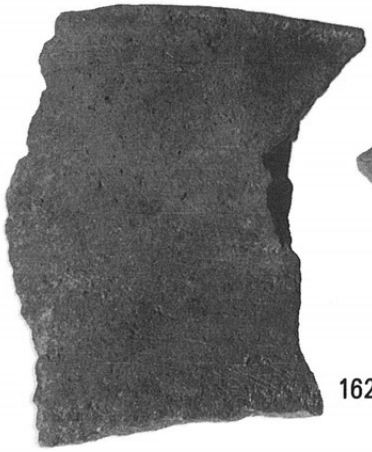
154

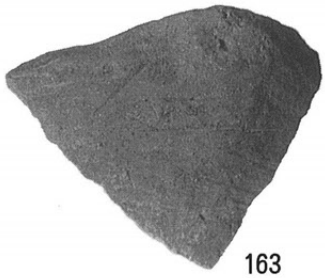
155

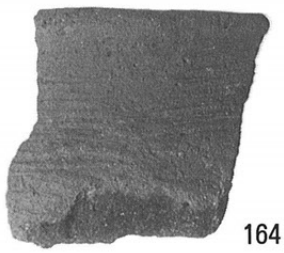
156

157

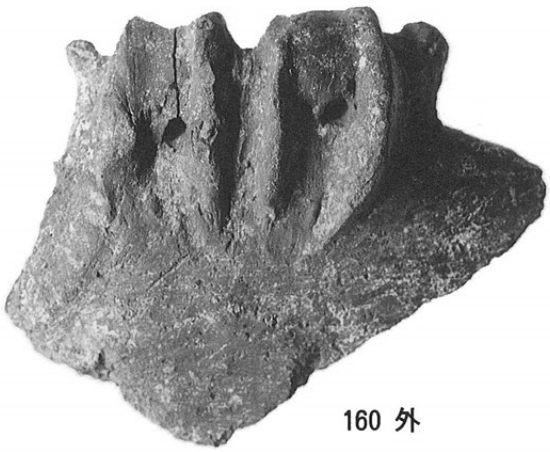
158


162


163

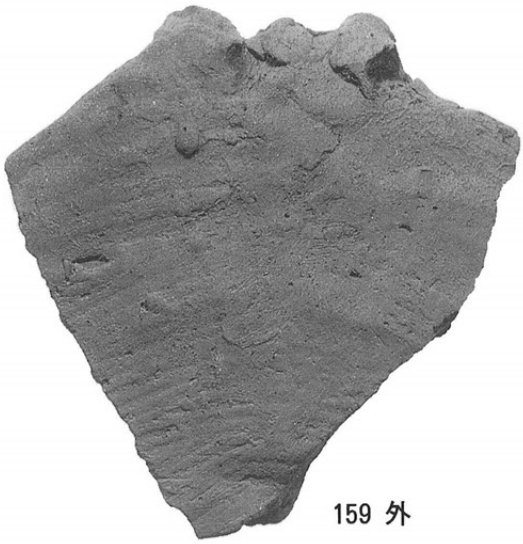

164

縄文土器 (18)

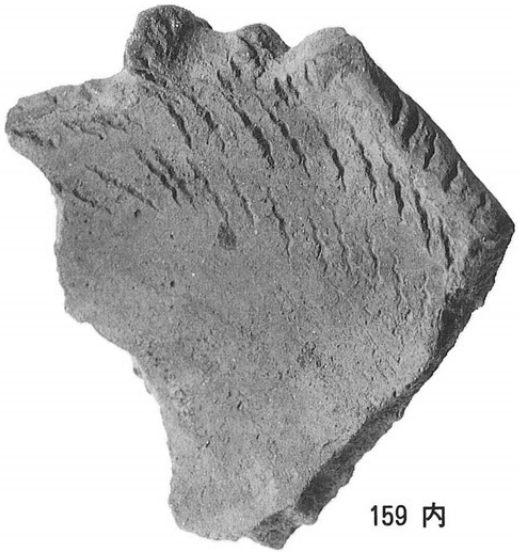


160 外

160 内



159 外



159 内

161 外

161 内

縄文土器 (19)

図版22

166

169

167

168

170

171

縄文土器 （20）

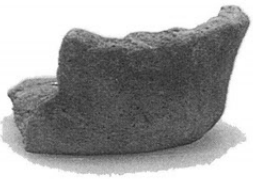
172

173

174

175

176


177

178

179

180

181

182

183

縄文土器　(21)

図版24

184

185

186

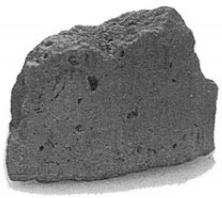
187

188

189

191

192



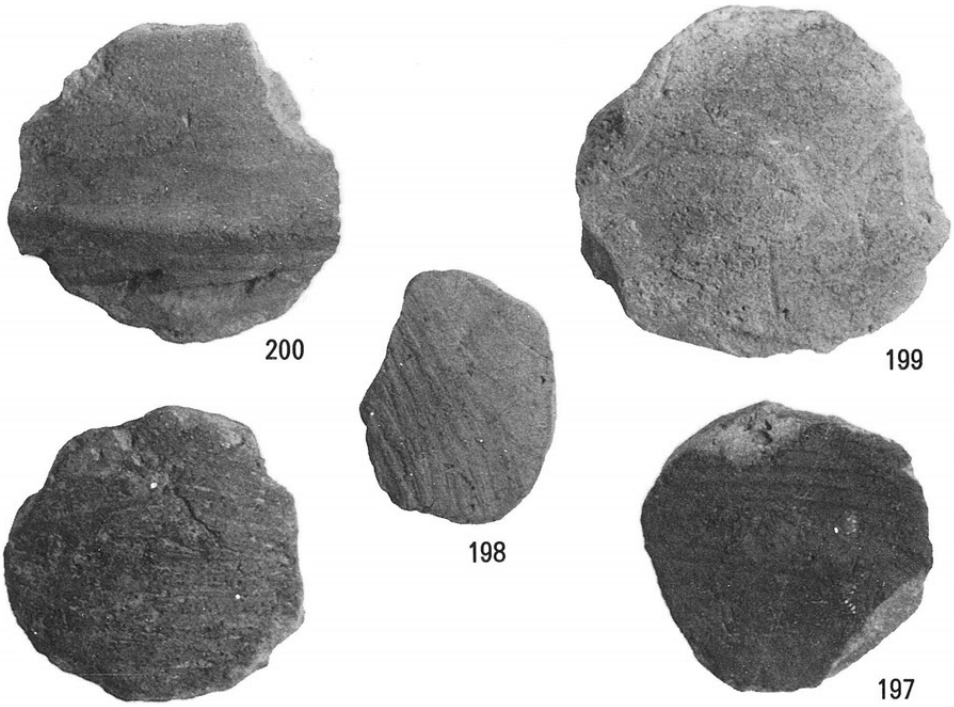
190

194

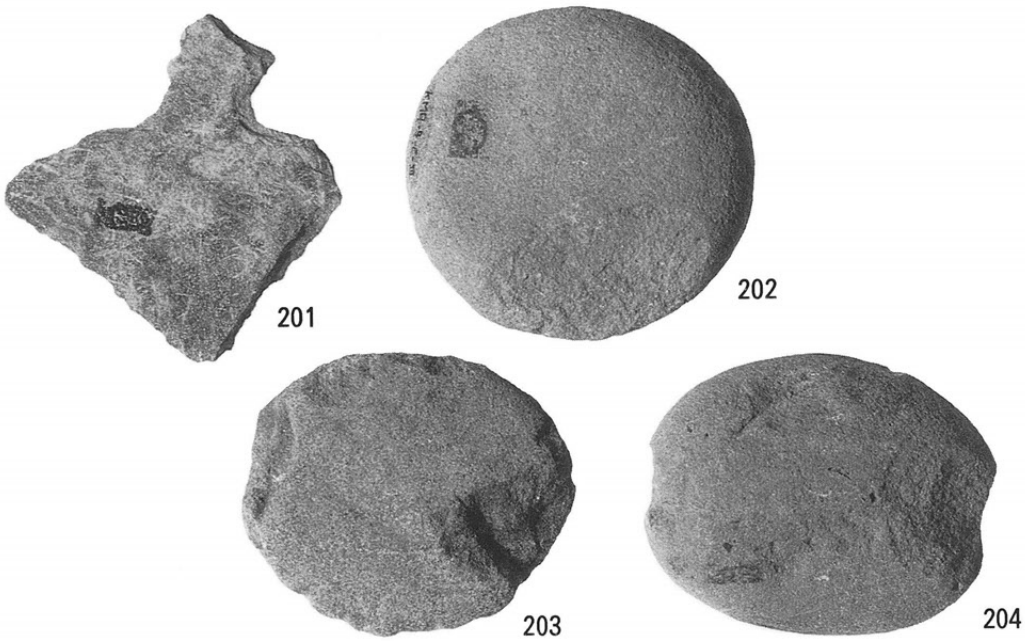
196

195

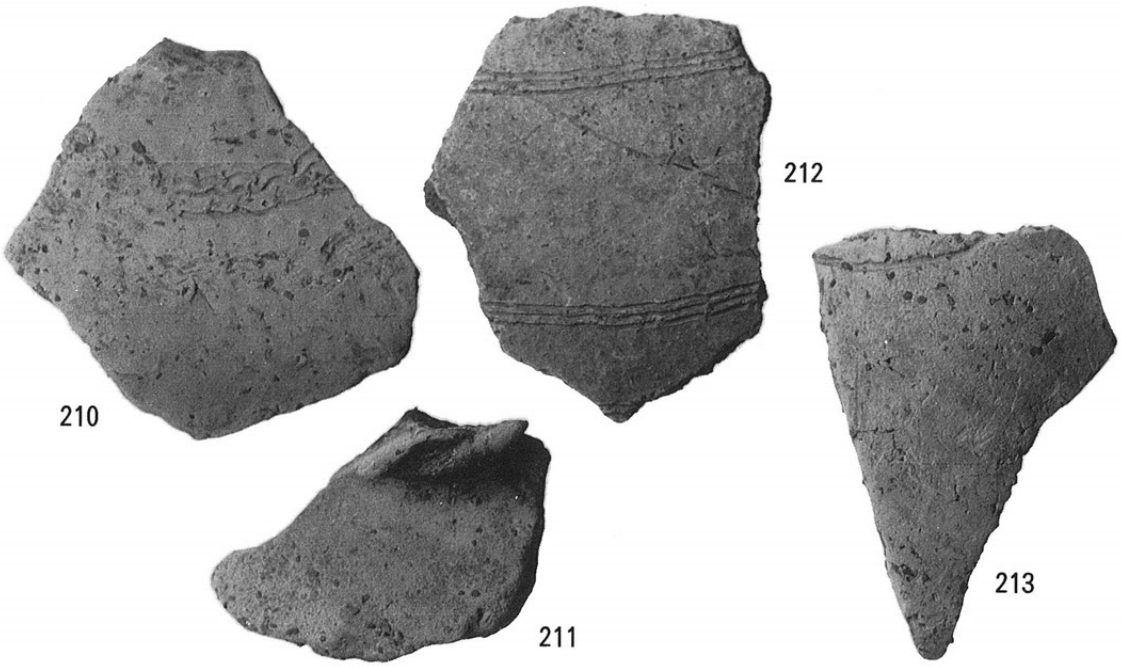
縄文土器 （22）

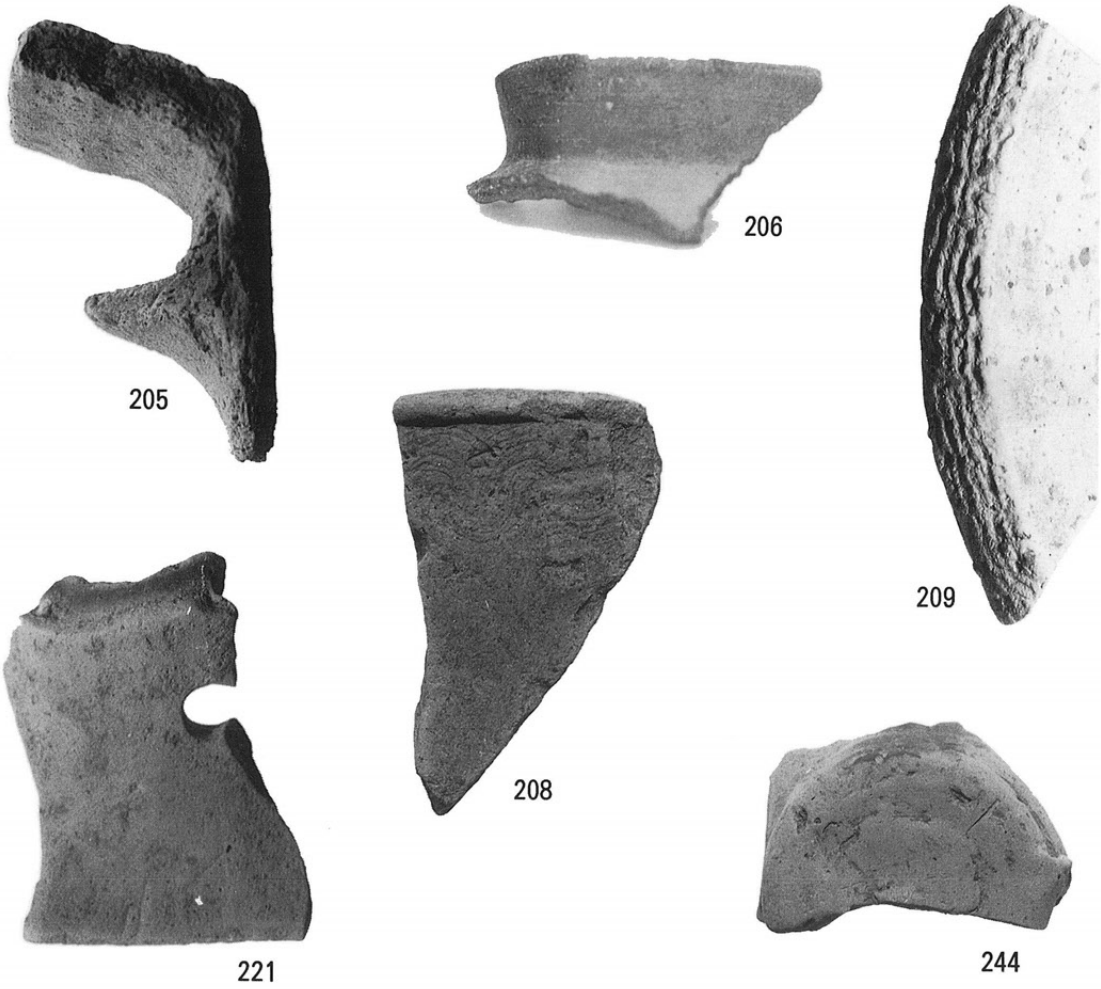


土器片加工円盤



石　器





弥生土器及び土師器 (1)

214

219

220

217

216

218

215

222

223

224

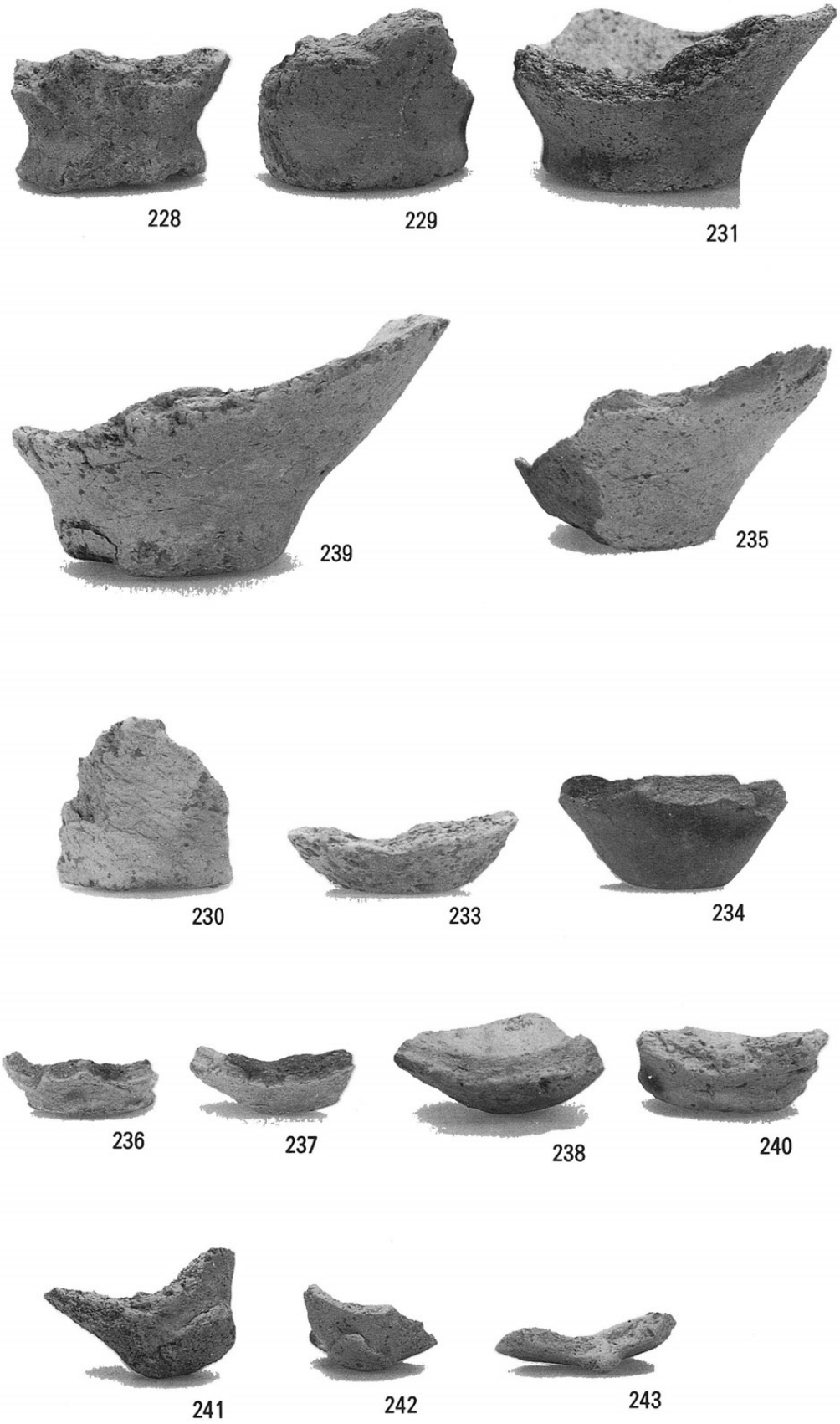
225

226

227

弥生土器及び土師器　(2)

図版28



弥生土器及び土師器 (3)

報告書抄録

ふりがな	かみごういせき
書名	上講遺跡
副書名	−
巻次	−
シリーズ名	日南市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第5集
編著者名	永友良典
編集機関	日南市教育委員会
所在地	〒880　宮崎県日南市中央通1丁目1番地1　TEL 0987(23)1111
発行年月日	西暦1995年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
上講遺跡（かみこういせき）	日南市大字星倉字上講5965番地（にちなんしおおあざほしくらあざかみごう）	45204	407	−	−	昭和63年11月8日～11月10日	25	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上講遺跡	包蔵地	縄文時代 弥生時代 近世	なし	縄文土器、石匙 磨石 弥生土器 陶磁器、瓦	宅地造成の盛土中から出土

日南市埋蔵文化財調査報告書第５集

上講遺跡（かみごういせき）

１９９５．３．３１

発行：日南市教育委員会
〒887 日南市中央通１丁目１番１号
Tel. 0987(23)1111

印刷：㈲ 勇進堂印刷